

大分県文化財年報 11

平成13 (2001) 年度版

2003

大分県教育委員会

序 文

本書は、平成13（2001）年度に大分県内で行われた埋蔵文化財発掘調査の概要や新規指定文化財の紹介及び大分県内登録有形文化財一覧など一般文化財に関わる資料を掲載したものです。

埋蔵文化財については、約240件の発掘調査が実施されましたが、特に「大分駅周辺総合整備事業」に伴う中世大友府内町跡の発掘調査では、多くの土師器や輸入陶磁器に混じって「メダイ」や「金箔土師器」等が出土し、国際都市中世府内町跡の状況や戦国大名大友氏の栄華の様相が明らかになりつつあります。

県教育委員会は、13年度もこうした歴史的事実を広く県民に公開するための現地説明会を開くなどして、文化財の保護に対する普及・啓発を行ってまいりました。

また、大分県が文化財の宝庫であることは、すでに広く知られたところですが、13年度末現在の指定文化財は邦指定142件、県指定676件、合計818件となり、こうした文化財については保存だけでなく積極的な活用が望まれています。こうしたなか、13年4月には国東町の国史跡「安国寺集落遺跡」が史跡公園としてオープンし、また、大分市に対して今後の整備・活用に向けた大友氏館跡公有化支援事業も着手しました。

本書が今後の文化財保護行政を推進する上での基礎資料として、さらには学術研究の一助として活用されれば幸いです。

終わりに、本書の刊行に多大なる御支援と御協力をいただきました関係各位に対し、衷心から感謝申し上げます。

平成15年3月31日

大分県教育委員会教育長

石 川 公 一

例 言

1. 本書は、平成13（2001）年度に大分県内で行われた埋蔵文化財発掘調査等の基礎資料と文化財に関わる資料を掲載したものである。
2. 平成13年度に大分県内で行われた本調査については、調査概要の一部を取り上げるとともに、試掘・確認調査については、その取り扱いを含め一覧表で掲載している。
3. 新発見の遺跡については、「大分県遺跡地図」の大分県教育委員会の掲載様式に従い、従前の台帳（台帳番号）に追加したものである。
4. 本書中の地形図は、国土地理院発行「2万5千分の1 地形図」を使用した。
5. 「文化財保護行政の現状」は、大分県教育庁文化課参事兼課長補佐渋谷忠章、「文化財の管理」は、大分県教育庁文化課文化財管理係副主幹江田 豊、「各遺跡の調査概要」・「埋蔵文化財発掘調査一覧」・「新発見遺跡一覧」・「周知遺跡変更一覧」・「現地説明会・展示・講演会・シンポジウム・研修・行事、イベント一覧」は、各市町村担当者及び県教育庁文化課担当職員、「平成13年度埋蔵文化財関係文献一覧」は、大分県教育庁文化課発掘調査大型事業担当副主幹田中裕介が執筆した。また、その他の執筆及び編集は、大分県教育庁文化課発掘調査資料管理担当主幹西 哲弘が行った。

目 次

I. 平成13年度大分県文化財行政の現状	1
II. 文化財の管理	3
III. 埋蔵文化財発掘届等一覧	10
IV. 平成13年度各遺跡の調査概要	16
V. 平成13年度埋蔵文化財発掘調査一覧	59
VI. 平成13年度新発見遺跡一覧及び周知遺跡変更一覧	63
VII. 平成13年度現地説明会・展示・講演会・シンポジウム・研修・行事、イベント一覧	65
VIII. 2001年度（平成13年度）埋蔵文化財関係文献一覧	69

1. 平成13年度大分県文化財行政の現状

平成13年4月21日、国東町にある国指定史跡「安国寺集落遺跡」が史跡公園として整備されオープンした。安国寺遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての集落跡で、農具をはじめとする各種木器や建築部材などの木製品及び種子など豊富な遺物が出土し、静岡県登呂遺跡と対比され「西の登呂」と呼ばれた。高床建物や竪穴住居13棟が復元され、体験学習館は土器作りや勾玉作りのほかに火おこし等が体験できる施設となっている。

昭和25年の最初の発掘から50年を経て、安国寺遺跡は当時の姿を再現したが、関係者約180人が出席し祝った当日の完工式には、遺跡の発掘から整備に携わってきた賀川光夫先生の姿がなかったのは寂しい限りであった。総事業費約17億円は、町の財政にとって大きな負担であったに違いないが、大分県では前年度に整備が完了した大分市亀塚古墳とともに、遺跡の活用を目的とした大型の整備が行われたことになる。しかし、同じ4月には佐賀県吉野ヶ里遺跡、5月には福岡県平塚川添遺跡が史跡公園としてオープンし、遺跡の規模や整備の方法に違いがあるものの、安国寺遺跡については体験学習を主体にし、地域に根ざした運営が求められる。

その他の史跡関係では、大分市顕徳町の大友氏館跡が国の史跡に指定された。館跡は古園などで約200m四方が推定され、南東部では巨岩の景石を配置した庭園遺構などが発掘されており、今年度はこのうちの約9900平方mが指定された。同時に土地の公有化が進められたが、住宅等が密集する市街地の国史跡と公有化は全国的にも注目され、今後も地元の協力を得ると共に、県都の顔ともなる大友館の史跡指定、土地公有化、整備はまちづくりの起爆剤ともなるものである。こうしたことから、大分市は国の史跡指定を記念して8月26日から9月2日を「大友週間」とし「中世大友再発見フォーラム」と題した記念講演やシンポジウム、「大友歴史ウォーク」、「宗廟茶会」などのイベントが催された。行政と市民が一体となった遺跡を活かしたまちづくりが望まれる。

また、平成8年度から発足した国の登録有形文化財は、13年度の佐伯市佐伯海軍航空隊掩体壕や別府市富士屋旅館を含め77件となり、文化財保護における登録文化財制度そのものが浸透し、所有者から地元教育委員会を通じた積極的な申し込みが多くなった。特に今年度は、玖珠町の旧豊後森機関庫を登録有形文化財にして残そうと地元有志による機関庫保存委員会が結成され、署名運動が展開された。登録文化財制度は、古き良き建造物を残していく支援制度であり、地域の活性化のためにも積極的に利用されることが望まれる。

埋蔵文化財の関係では、聖嶽洞窟の第2次調査報告書が刊行された。それによると、第1次調査で出土した人骨は「旧石器人」でないとし、「石器はいつの時点にかこの洞窟にもちこまれたと考えるのが自然の解釈」と結論づけた。こうした結論に対し、調査団長であった橘昌信氏をはじめいくつかの反論が示されたが、人骨そのものの最終的な調査が行われておらず、日本考古学協会が発足させた調査委員会の結論がまつられる。

こうした中、大分市横尾遺跡で縄文時代早期末の国内最古と見られる水溝遺構や建築部材が出土し、6月24日の現地説明会には約900人の市民が訪れ、縄文時代の生活様式に思いをめぐらせた。遺跡の西100mの地点には、縄文前期からの貝塚や墓壇跡が確認されており、今後は集落跡の検出に期待が寄せられている。出土した建築用材は、長さ3.8m、1辺約18cmの角材で、ほぞ穴やめぞ穴と見られる計3～5cmの円形の穴が6ヶ所ある。また、同じ地層から姫島産黒曜石が植物性繊維で編んだかごまたはネットに入れた状態で発見され、当時の運搬手段や流通範囲を知る上で極めて貴重な発見であった。

国の史跡指定が決まった大友館跡周辺の中世大友府内町遺跡発掘調査では、「府内古園」に見られる称名寺跡や館の東を画する南北路及び商家跡等の調査が行われ、金箔が施された柄杓形の金属器や土師器及び鬼瓦、キリスト教信者が身につけたとみられるメダイをはじめ多くの輸入陶磁器が出土し、

国際貿易都市として栄えた中世府内町の様相がしたいに鮮明となってきた。

その他、中世では、天正16年(1588)黒田孝高の弟、利孝によって築かれたとされる宇佐市高森城跡では、東西約5m、南北約14mにわたって礎石約60個が発見され、その建物は重層構造の櫓と考えられている。しかし、石列の配置から門としての機能はなく、その性格については不明な点もある。また、同年、黒田孝高が造営を始めたとされる中津市中津城では、本丸南側の内堀から金箔瓦が出土し、この石垣は一部積み直しがあるものの天正16年造営当初の石垣も多く残されており、石垣を含めた中津城の本格的な発掘調査が行われることとなった。

また、直人町では長湯横穴墓群の調査が行われたが、横穴墓群のある斜面を登った平坦部には、かつてマウンドをもつ横穴墓が存在しており、銅剣や多くの鉄製品が出土し泉の史跡に指定されていた。今年度は、道路の建設に伴って8基の横穴墓が調査されたが、3号墓からは9体の人骨が良好な状態で検出され、鹿角装刀子やゴホウラ製貝輪などが出土した。最近の横穴墓の調査では極めて注目される成果があり、地元の説明会には多くの町民が訪れた。

さて、埋蔵文化財の発掘調査は、埋蔵文化財発掘調査基準の整備や経済状況の悪化などにより全国的に減少傾向にあり、発掘調査費は平成10年度以降連続して減少し、その傾向は定着したと言える。また、埋蔵文化財担当専門職員においても減少傾向にあるが、特に市町村職員数が減少したのは初めてのことである。大分県においては、文化財保護法57条の2・3の届出及び通知件数は前年度より57件減の240件と減少したが、調査費用はやや増加して十億九千四百万円となっている。府内大友関連遺跡などの大型事業などによるものである。

一方、大分県の埋蔵文化財専門職員についても、ここ数年は県職員、市町村職員とも増加率が鈍り、頭打ちの傾向が続いており、市町村専門職員の他の部局への異動も見られるようになっている。さらに市町村の合併問題が具体化しつつあり、専門職員の配置・役割、これまでに指定された市町村文化財の取扱いを含め、文化財に対する今後の課題は大きい。

(渋谷 忠章)

II. 文化財の管理

1. 新規指定文化財の紹介

平成13年度及び平成14年度上半期における国・県の新規指定は以下のとおりである。これにより、第1表にあるように国指定142件、県指定676件、国登録94件となる。

・国指定の部

①指定種別：史跡

指定名称：**大友氏館跡**

指定年月日：平成13年8月13日

平成14年3月19日追加指定

所在地：大分市顕徳町

②指定種別：重要文化財

名称：**泉福寺仏殿**

指定年月日：平成13年11月14日

所有者：泉福寺

所在地：東国東郡国東町大字横手

建築年代：大永4年（1524）



泉福寺仏殿（国東町教育委員会提供）

・県指定の部

①指定種別：有形文化財

指定名称：**重藤十王堂石造仏像群**

指定年月日：平成14年3月29日

所有者：重藤十王講組

所在地：東国東郡国東町大字重藤

製作年代：室町時代

②指定種別：有形文化財

指定名称：**木造聖観音菩薩坐像**

指定年月日：平成14年3月29日

所有者：大山寺

所在地：大分市大字八幡

製作年代：平安時代



木造聖観音菩薩坐像

③指定種別：有形文化財

指定名称：**木造十一面観音菩薩立像**

指定年月日：平成14年3月29日

所有者：大山寺

所在地：大分市大字八幡

製作年代：平安時代

④指定種別：有形文化財

指定名称：**千燈寺跡石造仁王像**

指定年月日：平成14年3月29日

所有者：今熊豪宏

所在地：東国東郡国見町大字千灯

製作年代：室町時代



千燈寺跡石造仁王像

- ⑤指定種別：無形民俗文化財
 指定名称：豊前福島神楽
 指定年月日：平成14年3月29日
 保持団体名：福島神楽保存会
 所在地：中津市大字福島
- ⑥指定種別：史跡
 指定名称：亀ヶ鼻古墳
 指定年月日：平成14年3月29日
 所有者：麻生泰一
 所在地：大野郡三重町大字赤嶺
 築造時期：五世紀後半の前方後円墳



豊前福島神楽

・登録有形文化財の部

- ①名称：富士屋旅館 主屋・前門
 石段・石垣 以上4件
 所在地：別府市
 登録年月日：平成13年11月20日
 建設年代：明治31年
 種別：産業3次
- ②名称：鷹岩橋
 所在地：院内町
 登録年月日：平成13年11月20日
 建設年代：昭和3年
 種別：交通
- ③名称：中島橋
 所在地：院内町
 登録年月日：平成13年11月20日
 建設年代：大正10年
 種別：交通
- ④名称：水雲（すのり）橋
 所在地：院内町
 登録年月日：平成13年11月20日
 建設年代：昭和2年
 種別：交通
- ⑤名称：念仏橋
 所在地：院内町
 登録年月日：平成13年11月20日
 建設年代：昭和3年
 種別：交通
- ⑥名称：柳野橋
 所在地：院内町
 登録年月日：平成13年11月20日
 建設年代：大正12年
 種別：交通
- ⑦名称：多田家住宅 御成屋敷・御成門
 主屋・蔵 以上4件
 所在地：三重町
 登録年月日：平成14年6月25日
 建設年代：元治元年
 種別：住宅
- ⑧名称：旧長田医院
 所在地：三重町
 登録年月日：平成14年6月25日
 建設年代：昭和2年
 種別：文化福祉

⑨名 称：**井上家住宅** 主屋・門・酒蔵・土蔵・米蔵・味噌蔵・納屋・石塀 以上8件
 所在地：日田市 登録年月日：平成15年1月31日答申済み
 建設年代：江戸・明治・大正期
 種 別：住宅

⑩名 称：**岩尾家住宅（旧日本丸製薬所）**
 主屋・離れ・土蔵 以上3件
 所在地：日田市
 登録年月日：平成15年1月31日答申済み
 建設年代：明治・大正期
 種 別：産業3次・住宅

⑪名 称：**隈まちづくりセンター黎明館**
 所在地：日田市
 登録年月日：平成15年1月31日答申済み
 建設年代：大正5年
 種 別：産業3次



富士屋旅館主屋



鷹岩橋



多田家住宅御成門



旧長田医院



井上家住宅主屋



隈まちづくりセンター黎明館

国・県指定文化財件数

平成15年2月1日現在

国 指 定		県 指 定		合 計
国 宝	4	—	—	4
重 要 文 化 財	72	有 形 文 化 財	436	508
重 要 無 形 文 化 財	1	無 形 文 化 財	2	3
重 要 有 形 民 俗 文 化 財	4	有 形 民 俗 文 化 財	13	17
重 要 無 形 民 俗 文 化 財	4	無 形 民 俗 文 化 財	45	49
特 別 史 跡	1	—	—	1
史 跡	35	史 跡	93	128
特 別 名 勝	—	—	—	—
名 勝	1	名 勝	7	8
特 別 天 然 記 念 物	2	—	—	2
天 然 記 念 物	18	天 然 記 念 物	80	98
合 計	142	合 計	676	818

登 録 有 形 文 化 財	94
---------------	----

第1表 国県指定文化財件数

2. 国・県補助事業について

大分県教育委員会では、県内各地に所在する文化財（国指定・県指定文化財ほか）の調査及び保存・活用を図るため、下記事業を行った。

平成13年度補助事業実施一覧

国指定の部

事業内容	名 称	事業主体者	所在地	総事業費 (千円)
保存修理	後藤家住宅	所有者	野津原町	8,286
保存修理	岡城跡	竹田市	竹田市	50,000
保存修理	臼杵磨崖仏(大日石仏)	臼杵市	臼杵市	26,000
保存修理	宇佐神宮境内	宇佐市	宇佐市	15,009
保存修理	緒方宮迫東・西石仏	緒方町	緒方町	3,002
伝承者育成	小鹿田焼	小鹿田焼技術保存会	日田市	7,000
総合支援	直入町の民俗芸能	直入町	直入町	2,000
防災施設	大野老松天満社旧本殿	大野老松天満社	前津江村	7,235
史料調査	近世古絵図	臼杵市	臼杵市	2,000
史料調査	毛利家遺品	佐伯市	佐伯市	2,500
保存修理	岡藩主中川家墓所	高流寺	竹田市	17,292
保存修理	犬飼石仏	犬飼町	犬飼町	5,386
保存修理	蒲江の漁撈用具	蒲江町	蒲江町	4,600
土地公有化	咸宜園跡	日田市	日田市	164,157
土地公有化	大友氏館跡	大分市	大分市	221,149
災害復旧	岡城跡	竹田市	竹田市	8,800
災害復旧	岡藩主中川家墓所	竹田市	竹田市	2,004
件数 17件			計	546,420

直営事業の部

事業内容	事業名	総事業費 (千円)
食害対策	特別天然記念物カモシカ食害対策事業(通常調査)	1,172
管理費補助	指定文化財管理費補助	1,005
研究委嘱	ふれあい歴史のさと研究委嘱事業	17,250

埋蔵文化財の部

事業内容	名 称	事業主体者	総事業費 (千円)
開発・保存	中津地区遺跡群	中津市	3,500
各種開発	宇佐地区遺跡群	宇佐市	7,000
各種開発	杵築地区遺跡群	杵築市	2,500
園場整備・各種開発	竹田地区遺跡群	竹田市	6,000
各種開発	三重地区遺跡群	三重町	1,000
開発・保存	緒方地区遺跡群	緒方町	1,500
開発・保存	日田地区遺跡群	日田市	10,000
保存確認	市内遺跡	大分市	17,400
件数 8件		計	48,900

直営事業の部

事業内容	事業名	総事業費(千円)
各種開発・保存目的	県内遺跡	10,969
保存処理	県内遺跡出土遺物	2,000

指定文化財管理費の部

事業内容	名称	事業主体者	所在地	補助対象経費
防災保守点検・小修理	宇佐神宮本殿	宇佐神宮	宇佐市	509,800
防災施設保守点検	富貴寺大堂	富貴寺	豊後高田市	49,640
防災施設保守点検	善光寺本堂	善光寺	豊後高田市	127,300
防災施設保守点検	神尾家住宅	所有者	山国町	83,900
防災施設保守点検	龍岩寺奥院礼堂	龍岩寺	院内町	117,500
防災施設保守点検	泉福寺開山堂	泉福寺	国東町	72,400
防災施設保守点検	大野老松天満社旧本殿	大野老松天満社	前津江村	56,180
防災施設保守点検	神角寺本堂	神角寺	朝地町	54,060
防災保守点検・環境整備	後藤家住宅	所有者	野津原町	218,560
防災保守点検・環境整備	行徳家住宅	所有者	日田市	297,200
防災施設保守点検	願成院本堂(愛染堂)	願成院	竹田市	58,100
防災施設保守点検	薦神社神門	薦神社	中津市	141,800
防災保守点検・環境整備	三浦梅園旧宅	所有者	安岐町	134,700
防災施設保守点検	旧日野医院本館・病棟・離れ	所有者	湯布院町	103,060
件数 14件			計	2,024,200

県指定の部

事業内容	名称	事業主体者	所在地	総事業費(千円)
保存修理	高倉	宇佐神宮	宇佐市	8,130
保存修理	末廣神社栖鳳楼	末廣神社	玖珠町	18,060
保存修理	木造阿彌陀如来坐像及び脇侍	富貴寺	豊後高田市	7,629
保存修理	木造薬師如来坐像他	無動寺	真玉町	4,000
保存修理	千燈寺跡	千燈寺跡修理委員会	国見町	8,201
保存修理	臼杵城跡	臼杵市	臼杵市	12,000
保存修理	瑞巖寺磨崖仏	九重町	九重町	13,650
防災施設	泉福寺仏殿	泉福寺	国東町	7,900
保存修理	名塚板碑	名塚区	野津町	210
防災施設	蓮城寺木造薬師如来三尊像	蓮城寺	三重町	498
保存修理	武蔵のサツキツツジ	個人	武蔵町	490
件数 11件			計	80,768

平成14年度補助事業実施予定一覧

国指定の部

事業内容	名称	事業主体者	所在地
保存修理	岡城跡	竹田市	竹田市
災害復旧	岡城跡	竹田市	竹田市
保存修理	臼杵磨崖仏(大日石仏)	臼杵市	臼杵市

事業内容	名 称	事業主体者	所在地
保存修理	宇佐神宮境内	宇佐市	宇 佐 市
保存修理	緒方宮迫東・西石仏	緒方町	緒 方 町
保存修理	犬飼石仏	犬飼町	犬 飼 町
保存修理	三浦梅園旧宅	安岐町	安 岐 町
伝承者養成	小鹿田焼	小鹿田焼技術保存会	日 田 市
保存修理	蒲江の漁撈用具	蒲江町	蒲 江 町
土地公有化	法鏡寺廃寺跡	宇佐市	宇 佐 市
土地公有化	大友氏館跡土地公有化支援事業	大分市	大 分 市

直営事業の部

事業内容	事業名	備 考
食 害 対 策	特別天然記念物カモシカ食害対策事業	特別調査
管 理 費 補 助	指定文化財管理費補助	文化財バトロール、防災設備の保守点検

埋蔵文化財の部

事業内容	事業名	事業主体者
各種開発・保存他	中津地区遺跡群	中 津 市
各種開発・保存他	宇佐地区遺跡群	宇 佐 市
各種開発・保存他	杵築地区遺跡群	杵 築 市
各種開 発	竹田地区遺跡群他	竹 田 市
各種開 発	三重地区遺跡群	三 重 町
各種開 発	緒方地区遺跡群	緒 方 町
各種開発・保存目的	日田地区遺跡群	日 田 市
各種開発・保存目的	市内遺跡	大 分 市

直営事業の部

事業内容	事業名	備 考
各種開発・保存目的確認	県内遺跡	中世城館・県内遺跡・国東半島荘園村落遺跡
保 存 処 理	県内遺跡出土遺物	保存処理

県指定の部

事業内容	事業名	事業主体者	所在地
保存修理	末廣神社栖鳳樓	末廣神社	玖 珠 町
保存修理	木造大日如来坐像 ほか	無動寺	真 玉 町
保存修理	オダニの車橋	樫木区	庄 内 町
保存修理	長福寺本堂	長福寺	日 田 市
保存修理	草野家住宅	個人	日 田 市
保存整備	白杵城跡	白杵市	白 杵 市
保存修理	瑞巖寺磨崖仏	九重町	九 重 町
保存修理	西光寺境内	西光寺	竹 田 市

Ⅲ.埋蔵文化財発掘届等一覧【57条・57条の2・3】

遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	根拠法
早水台A遺跡	速見郡日田町川崎字早水台4680の16	東北大学総合学術博物館	学術研究	旧石器ほか	57条
円通寺遺跡	別府市北石垣2-1地内	別府大学文化財研究所長	学術研究	弥生	57条
別府遺跡	宇佐市大字別府字瀬社8番地	民間	その他の建物	弥生ほか	57条の2
中屋敷遺跡	宇佐市大字法蔵寺北園205-1ほか	個人	その他の建物	弥生ほか	57条の2
高田城下町	豊後高田市大字玉津495番地	法人	その他の建物	江戸	57条の2
春木万元遺跡	別府市大字北石垣字古寺1479-1ほか	民間	その他の開発	縄文ほか	57条の2
春木万元遺跡	別府市大字北石垣字高橋1562番1	個人	集合住宅	縄文ほか	57条の2
円通寺遺跡	別府市北石垣2-1地内	法人	学校建設	弥生	57条の2
下部遺跡群	大分市下郷南3丁目11-11	民間	その他の建物	弥生	57条の2
下部遺跡群	大分市下郷南5丁目149番2	個人	個人住宅	弥生	57条の2
中世大友城下町跡	大分市柳町1丁目3299-1	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市柳町1丁目3439-2	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市柳町2丁目7-7	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市柳町2丁目3323	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市柳町3丁目3403番3	個人	集合住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市柳町3丁目3403番4	個人	集合住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市柳町3丁目4388-3	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市金池町4丁目1489番11	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市金池町5丁目3198番6	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市龍徳町2丁目3044-2ほか	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市龍徳町2丁目3044番5ほか	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市龍徳町3丁目4415番1	個人	店舗	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市龍徳町3丁目4408番地1	個人	集合住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市町4743-2ほか	個人	個人住宅	中世	57条の2
古国府遺跡群	大分市古国府字芝原157-1ほか	個人	集合住宅	弥生ほか	57条の2
上野遺跡群	大分市上野丘1丁目487-15ほか	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
上野遺跡群	大分市上野丘2丁目510-21ほか	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
上野遺跡群	大分市上野丘2丁目731-1ほか	法人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
上野遺跡群	大分市上野東	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
栗田室遺跡	大分市新町90番地	民間	集合住宅	弥生ほか	57条の2
沖浜遺跡	大分市勢家3丁目1-10	個人	個人住宅		57条の2
沖浜遺跡	大分市勢家町1丁目639	個人	集合住宅		57条の2
沖浜遺跡	大分市勢家町3丁目550番2	個人	個人住宅		57条の2
沖浜遺跡	大分市勢家町4丁目2番2号	個人	集合住宅		57条の2
浜遺跡	大分市政所2丁目305番1ほか	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字羽屋字園1017番1	個人	集合住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字羽屋字園1101-3の一部ほか	個人	集合住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字羽屋字上牛路99-1	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字羽屋字浅見田127番1ほか	民間	店舗	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字羽屋字八幡旗921番7	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字羽屋字不定292-7	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
羽屋岡遺跡	大分市大字羽屋字付田133番1	個人	個人住宅	古代	57条の2
下部遺跡群	大分市大字羽田井出6-2ほか	個人		弥生	57条の2
羽田遺跡	大分市大字羽田字岩原419番地	個人	集合住宅	縄文	57条の2
羽田遺跡	大分市大字羽田字岩原705-1ほか	民間	宅地造成	縄文	57条の2
羽田遺跡	大分市大字羽田字前田777-2ほか	個人	個人住宅	縄文	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字永興字戸原103-1	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字永興字上戸原99-3	法人	個人住宅	弥生ほか	57条の2

遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	調査法
丹生遺跡群	大分市大字丹生字長迫1748-14	組合	その他の調査	旧石器	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字奥田字塚田714番5	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
横尾遺跡	大分市大字横尾3131ほか	個人	集合住宅	縄文ほか	57条の2
二日川遺跡	大分市大字横尾3734-1ほか	個人	店舗	弥生	57条の2
二日川遺跡	大分市大字横尾字高尾4112-2	法人	その他の建物	弥生	57条の2
二日川遺跡	大分市大字横尾字芝尾3625番ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
二日川遺跡	大分市大字横尾字二日川3884-1	個人	集合住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡1951-1ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡2460-4ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡宇尾ノ浦2755	個人	個人住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡宇尾敷2208ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
下郡横穴墓群	大分市大字下郡字加納1495番ほか	民間	宅地造成	古墳	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字境目3-3ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字穴井前1166-1ほか	個人	個人住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字江崎58-1ほか	民間	店舗	弥生	57条の2
牧六分遺跡	大分市大字下郡字高畑1737番地1	民間	店舗	縄文	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字寺小路2589-1ほか	個人	個人住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字女屋敷869-1	個人	個人住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字女屋敷870-7番地	個人	土地区画整理	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字小中ツム1954-1ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字小中ツム1976-2ほか	民間	その他の建物	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字上サ2147-1	個人	個人住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字上サ2174ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字池ノ上2784-1ほか	個人			57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字辻2820-2	個人	その他の建物	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字畑中2683-4ほか	個人	個人住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字畑中2696-6ほか	個人	個人住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字畑中2702ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字北ノ門1807-3ほか	個人	個人住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字北ノ門1808-1ほか	民間	その他の建物	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字柳ヤシキ2958-1ほか	個人	個人住宅	弥生	57条の2
下郡遺跡群	大分市大字下郡字茂防2672-1ほか	個人	その他の建物	弥生	57条の2
佐柳遺跡	大分市大字下郡次1041-1ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
菰木遺跡	大分市大字菰木字東屋敷607番1	個人	個人住宅	弥生	57条の2
辻遺跡	大分市大字吉野字高松277ほか	団体	宅地造成	古墳	57条の2
丹生川版ノ市条里跡	大分市大字久原1-29	個人	集合住宅	弥生	57条の2
丹生川版ノ市条里跡	大分市大字久原字坪ノ内1103番1(口)	個人	個人住宅	弥生	57条の2
二日川遺跡	大分市大字扇原元3750-2	個人	集合住宅	弥生	57条の2
曲遺跡	大分市大字曲字高サキ1149-1ほか	個人	集合住宅		57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府411-1ほか	個人	その他の建物	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府413-3ほか	民間	店舗	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府6505	民間	個人住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府91-8	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府字刈田409番1	民間	店舗	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府字岩屋寺28-1ほか	民間	個人住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府字岩屋寺28番3ほか	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府字五町650-4ほか	民間	宅地造成	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府字山畑91-1ほか	民間	宅地造成	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府字芝原162-15	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2

遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	根拠法
古国府遺跡群	大分市大字古国府字芝原182-8	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府字町口202番1ほか	個人	宅地造成	弥生ほか	57条の2
古国府遺跡群	大分市大字古国府字瀬田832-1ほか	個人	店舗	弥生ほか	57条の2
組遺跡	大分市大字瀬字賀茂田274-3ほか	個人	個人住宅	弥生	57条の2
丹生川版ノ市条里跡	大分市大字版ノ市282番7ほか	個人	個人住宅		57条の2
米竹遺跡	大分市大字小池原字井ノ上96番	個人	集合住宅	弥生	57条の2
玉沢地区糸里跡	大分市大字上京方1295-2	個人	集合住宅		57条の2
上野遺跡群	大分市大字上野字鳳上791-3ほか	法人	その他の建物	弥生ほか	57条の2
寿徳寺遺跡	大分市大字森町字栗飯通501番1ほか	民間	店舗	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市大字大分字井栗4293番地ほか	組合	その他の建物	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市大字大分字中瀬田4705-2ほか	個人	駐車場	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市大字大分字中瀬田4725番地	個人	駐車場	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市大字大分字中瀬田4727-6	個人	個人住宅	中世	57条の2
下邊跡	大分市大字丹生字下り503番ほか	個人	個人住宅	古墳	57条の2
丹生川版ノ市条里跡	大分市大字丹生字下藤203番5	個人	個人住宅		57条の2
佐柳遺跡	大分市大字中戸次字志水1090-1ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
佐柳遺跡	大分市大字中戸次字前田1262-7	個人	個人住宅	弥生	57条の2
津守遺跡	大分市大字津守字下田136-1	個人	集合住宅	弥生	57条の2
津守遺跡	大分市大字津守字外地796-1ほか	個人	宅地造成	弥生	57条の2
津守遺跡	大分市大字津守字宮ノ内234番1	個人	集合住宅	弥生	57条の2
津守遺跡	大分市大字津守字宮ノ内244番1	個人	集合住宅	弥生	57条の2
津守遺跡	大分市大字津守字瀬ノ内1088-1ほか	個人	集合住宅	弥生	57条の2
下田尻地区糸里跡	大分市大字田尻字小藤478	個人	その他の建物		57条の2
玉沢地区糸里跡	大分市大字木上字舞手1番1ほか	組合	土地区画整理		57条の2
野田遺跡	大分市大字野田字原356番4	個人	個人住宅	縄文ほか	57条の2
大道糸里跡	大分市大道町2丁目8-38	民間	集合住宅		57条の2
大道糸里跡	大分市大道町5丁目532番15ほか	民間	店舗		57条の2
大道糸里跡	大分市大道町2丁目2231-1ほか	民間	集合住宅		57条の2
栗田室遺跡	大分市中春日町12番	個人	個人住宅ほか	弥生ほか	57条の2
栗田室遺跡	大分市中春日町3-4ほか	個人	店舗	弥生ほか	57条の2
中世大友城下町跡	大分市長浜町1丁目1439	個人	個人住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市長浜町1丁目525番14	民間	集合住宅	中世	57条の2
中世大友城下町跡	大分市長浜町3丁目3484番	個人	個人住宅	中世	57条の2
東田家遺跡	大分市田室町110番3ほか	個人	個人住宅	弥生ほか	57条の2
東田家遺跡	大分市田室町220-1ほか	個人	集合住宅	弥生ほか	57条の2
東田家遺跡	大分市田室町3番20号	個人	店舗	弥生ほか	57条の2
東田家遺跡	大分市田室町4-10	個人	その他の建物	弥生ほか	57条の2
府内城・城下町	大分市府内町1丁目105番ほか	個人	店舗	江戸	57条の2
府内城・城下町跡	大分市府内町1丁目40-1	個人	店舗ほか		57条の2
丹生遺跡群	大分市大字丹川字野岡2083-3ほか	組合	その他の建物	旧石器	57条の2
馬場糸里跡	北海道厚岸町大字神崎字平ヶ本108番地1	民間	その他の建物	古代	57条の2
井村遺跡	臼杵市大字井村2938ほか	民間	宅地造成	縄文ほか	57条の2
臼杵城下町	臼杵市大字臼杵字本町644-1ほか	民間	店舗	江戸	57条の2
佐伯城下町	佐伯市船瀬町157-5ほか	民間	その他の建物	江戸	57条の2
白濁遺跡	佐伯市大字鶴堂3848番地	個人	道路	弥生ほか	57条の2
白田糸里遺跡	日田市大字十二町601-1ほか	個人	店舗		57条の2
鍛冶屋廻り遺跡	日田市大字小迫字中村73-2ほか	個人	宅地造成		57条の2
本村遺跡	日田市大字小迫浄光院1158-1ほか	個人	農業基盤	中世ほか	57条の2
葛原遺跡	日田市大字西有田字葛原810-1	民間	駐車場	弥生ほか	57条の2

道 路 名	所 在 地	属 出	調査原因	時 代	積算法
日田条里跡	日田市大字西有田字桑ノ木249-1	個人	個人住宅		57条の2
川下道跡	日田市大字川下字キシロダ194-2ほか	民間	その他の建物	弥生ほか	57条の2
中津城	中津市1260番地ほか	中津市長	道路	江戸	57条の3
中津城	中津市1278番地の1ほか	中津市長	その他の開発	江戸	57条の3
中津城下町跡	中津市上博多町1990-1ほか	中津市長	道路		57条の3
楳道跡	中津市大字加来2080-1	中津土木事務所長	道路		57条の3
踏田道跡	中津市大字藤田448-8ほか	中津下毛地方振興局長	農業関連	弥生ほか	57条の3
中原道跡	中津市大字大相法392-2ほか	大分県土木建築部	集合住宅	江戸	57条の3
虚空蔵寺跡	宇佐市大字山本1629番地ほか	宇佐市長	ガスほか	古代	57条の3
百ノ原道跡	宇佐市大字四日市3316	大分県知事	学校建設	弥生ほか	57条の3
川部道跡	宇佐市大字川部1751-2ほか	宇佐市長	道路	弥生ほか	57条の3
別府(塚原)道跡	宇佐市大字別府	宇佐市長	道路		57条の3
別府道跡	宇佐市大字別府144-2	宇佐市長	集合住宅	弥生ほか	57条の3
法鏡寺道跡	宇佐市大字法鏡寺27-1ほか	宇佐市長	道路	弥生ほか	57条の3
安心院地区条里跡	宇佐郡安心院町大字大仏字七木35-1ほか	宇佐土木事務所長	道路	中世	57条の3
大仏院敷道跡	宇佐郡安心院町大字大佛214	大分県土木建築部	集合住宅		57条の3
天念寺	豊後高田市大字長若原1152ほか	豊後高田市長	その他の建物	中世	57条の3
川原条里	豊後高田市大字美和1551附近	高田土木事務所長	河川	古代	57条の3
川原条里	豊後高田市美和1298番地ほか	豊後高田市長	ガスほか	古代	57条の3
久米京道跡	東国東郡安岐町大字朝米字京徳34-1ほか	国東土木事務所長	道路	縄文ほか	57条の3
大原道跡	速見郡山香町大字弘農4706	大分県知事	学校建設	中世	57条の3
照川道跡	速見郡日出町大字大神	国東平福組合土地改良事務所長	農業基盤	弥生	57条の3
大道道跡群	大分市金池南1丁目2444番地の4ほか	大分市長	土地区画整理	弥生ほか	57条の3
金池南道跡	大分市銅徳町1丁目2758-8	大分市長	土地区画整理		57条の3
大道道跡群	大分市桜ヶ丘1108-5ほか	大分市長	土地区画整理	弥生ほか	57条の3
上野道跡群	大分市上野152-10-1	大分県知事	学校建設	弥生ほか	57条の3
上野道跡群	大分市上野丘東1番11号	大分県立芸術文化学園大学長	学校建設	弥生ほか	57条の3
上野町道跡	大分市上野町2番	大分県岡垣総合整備事務所長	鉄道		57条の3
横尾道跡群85次	大分市大字横尾2321番地ほか	大分市長	道路		57条の3
横尾道跡群83次	大分市大字横尾2531番地の1ほか	大分市長	宅地造成		57条の3
横尾道跡	大分市大字横尾2921番地の2ほか	大分市長	宅地造成	縄文ほか	57条の3
下郷道跡群	大分市大字下郷字小ツル	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
下郷道跡群	大分市大字下郷字池ノ上2774-3	大分市長	道路	弥生	57条の3
下郷道跡群132次	大分市大字下郷字池ノ上2774-3ほか	大分市長	土地区画整理		57条の3
下郷道跡群	大分市大字下郷字辻2873番地ほか	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
下郷道跡群136次	大分市大字下郷字辻2879-3番地ほか	大分市長	土地区画整理		57条の3
下郷道跡群	大分市大字下郷字畑中2715番地先ほか	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
下郷道跡群	大分市大字下郷字ヤシキ2950-1番地	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
下郷道跡群	大分市大字下郷字ヤシキ2952-2番地ほか	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
下郷道跡群	大分市大字下郷字田819-2番地	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
賀来条里跡	大分市大字賀来304ほか	大分市長	道路		57条の3
葛木道跡	大分市大字葛木509	大分県知事	学校建設	弥生	57条の3
玉沢地区条里跡	大分市大字玉沢980-1ほか	大分市長	道路		57条の3
玉沢地区条里跡	大分市大字市	大分土木事務所長	道路		57条の3
中世大友府内町跡	大分市大字大分字下井東4333-1ほか	大分市長	ガスほか		57条の3
城原D道跡	大分市大字里1320-8番地ほか	大分市長	道路	弥生	57条の3
東田室道跡	大分市田室町222-1ほか	大分市長	道路	弥生ほか	57条の3
東田室道跡	大分市田室町2番地	大分県岡垣総合整備事務所長	鉄道	弥生ほか	57条の3
東大道路跡A地区	大分市東大道路2丁目	大分県岡垣総合整備事務所長	道路		57条の3

遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	掘削法
鶴崎御茶屋跡	大分市南鶴崎3-5-1	大分県知事	学校建設	江戸	57条の3
鶴崎御茶屋堀跡	大分市南鶴崎3-5-10	大分県知事	学校建設		57条の3
鶴崎御茶屋跡	大分市南鶴崎3丁目3番1号	大分市教育委員会教育長	学校建設	江戸	57条の3
蛇口前遺跡	大分郡庄内町大字東長宝714番地ほか	庄内町長	宅地造成		57条の3
寺廻道跡	北海道那智町大字神崎	白樺土木事務所長	道路		57条の3
白樺城下町	白樺市大字白樺210-3ほか	白樺市長	その他の開発	江戸	57条の3
鶴屋城跡	佐伯市宇城山	佐伯市長	その他の開発	江戸	57条の3
鶴屋城跡	佐伯市宇西谷22番地ほか	佐伯豊前地方振興局長	その他の開発	江戸	57条の3
佐伯城下町	佐伯市城下東町817番4ほか	佐伯市長	その他の開発	江戸	57条の3
又江遺跡	南海部郡直川村大字横川	佐伯土木事務所長	道路		57条の3
亀の甲遺跡	南海部郡直川村大字横川字亀の甲	直川村長	公園造成	弥生	57条の3
旭内遺跡	大野郡三重町大字赤嶺ほか	大野地方振興局長	農業基盤	弥生	57条の3
普濟寺跡・法阿原石風呂	大野郡緒方町大字辻字長瀬304-1番地	三重土木事務所長	その他の開発		57条の3
下白入・東遺跡群	大野郡緒方町大字馬場279-1番地ほか	緒方町長	その他の建物		57条の3
延命寺跡	大野郡緒方町大字馬場字馬場1541番地ほか	緒方町長	道路		57条の3
大木遺跡	大野郡千歳村大字下宇山字大木ほか	大野土地改良事業事務所長	農業基盤	旧石器ほか	57条の3
高瀬遺跡	大野郡千歳村大字長崎字舟崎2312ほか	国土交通省管営工事事務所長	道路		57条の3
西雲寺遺跡	大野郡朝地町大字朝地1069-1番地ほか	大野地方振興局長	農業基盤	中世ほか	57条の3
日当遺跡群	大野郡野津町大字宮原字原13472-4ほか	大分県土木建築部	集合住宅	旧石器ほか	57条の3
奥畑遺跡	大野郡野津町大字東谷	大野地方振興局長	農業基盤	旧石器	57条の3
上岩ノ遺跡	直人郡長町大字桑木	九龍建設大田川上建設事務所長	農業基盤		57条の3
茶屋ノ元・上後道遺跡群	直人郡長町大字桑木字右又667ほか	九龍建設大田川上建設事務所長	農業基盤	縄文ほか	57条の3
石坂遺跡群	直人郡長町大字桑原	大野川上流開発事業事務所長	農業基盤	縄文ほか	57条の3
小畑遺跡	直人郡長町大字藤渡	九龍建設大田川上建設事務所長	農業基盤	縄文	57条の3
古賀遺跡群	直人郡長町大字藤渡字上向原953-2ほか	九龍建設大田川上建設事務所長	農業基盤	縄文ほか	57条の3
長崎横穴群	直人郡直人町大字長崎字藤三郎3198番地ほか	竹田土木事務所長	道路	古墳	57条の3
日川米里跡	日田市吹上町30	大分県知事	学校建設		57条の3
高瀬糸里	日田市大字高瀬字深ノ田950-1ほか	日田市長	道路		57条の3
葛原遺跡	日田市大字西有田字亀城1812-3ほか	日田地方振興局長	農業基盤	弥生ほか	57条の3
今泉遺跡	日田市大字友田字今泉1413番地3ほか	日田市長	道路	古代ほか	57条の3
糸里跡	日田市田島2丁目9-30	大分県知事	学校建設	中世ほか	57条の3
栗野遺跡群	玖珠郡九重町大字栗野字広長	玖珠九重地方振興局長	農業基盤		57条の3
郡原遺跡	玖珠郡九重町大字引治字郡原498-1ほか	九重町長	宅地造成	縄文ほか	57条の3

[58条の2]

遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代
中津城	中津市1278-1	中津市教育委員会	遺跡整備	近世
横道跡	中津市大字加菜	大分県教育委員会	道路	弥生
坂子前横穴墓群	中津市大字三口	大分県教育委員会	道路	古墳・中世
踏田遺跡	中津市大字踏田493ほか	中津市教育委員会	農業関連	縄文・中世
高森城跡	宇佐市大字高森字三ノ丸1234番地ほか	宇佐市教育委員会		旧石器・中世ほか
虚空蔵寺跡	宇佐市大字山本1629番地ほか	宇佐市教育委員会	ガスほか	奈良・平安
中屋敷遺跡	宇佐市大字上田	宇佐市教育委員会	道路	弥生・古墳
川原遺跡	宇佐市大字川原1751-2ほか	宇佐市教育委員会	道路	弥生・古墳
別府遺跡	宇佐市大字別府字瀬社8番地	宇佐市教育委員会	その他建物	縄文・弥生ほか
別府遺跡	宇佐市大字別府字樋田前144-2	宇佐市教育委員会	集合住宅	弥生・古墳ほか
法鏡寺遺跡	宇佐市大字法鏡寺27-1ほか	宇佐市教育委員会	道路	古墳・奈良ほか
中屋敷遺跡	宇佐市大字法鏡寺北園205-1ほか	宇佐市教育委員会	その他建物	弥生・奈良ほか

遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代
存木芳元遺跡	別府市大字北石垣字古寺1479	別府市教育委員会	その他の建物	弥生・古墳ほか
中世大友府内町跡	大分市顕徳町3丁目406番1	大分市教育委員会	共同住宅	中世
中世大友城下町跡	大分市元町・顕町・六坊北町ほか	大分県教育委員会	鉄道	
中世大友城下町跡	大分市大字錦町3丁目ほか	大分県教育委員会	道路	中世
中世大友城下町跡	大分市六坊北町4466-1	大分市教育委員会		中世
大道遺跡群	大分市桜ヶ丘1108-5ほか	大分市教育委員会	区画整理	弥生・古墳
上野町遺跡	大分市上野町ほか	大分県教育委員会	鉄道	奈良・平安
横尾遺跡群82次	大分市大字横尾2241-1	大分市教育委員会	区画整理	縄文・中世
横尾遺跡群83次	大分市大字横尾2531番地の1ほか	大分市教育委員会	区画整理	縄文・平安ほか
横尾遺跡群84次	大分市大字横尾2921番地の2ほか	大分市教育委員会	区画整理	中世
横尾遺跡群85次	大分市大字横尾2321番地ほか	大分市教育委員会	区画整理	弥生・古墳
下部横穴墓群	大分市大字下部字加納1495番ほか	大分市教育委員会	宅地造成	古墳
下部遺跡群132次	大分市大字下部字上ノ上2774-3	大分市教育委員会	区画整理	弥生・古墳ほか
下部遺跡群133次	大分市大字下部字辻2873番地ほか	大分市教育委員会	区画整理	奈良・平安ほか
下部遺跡群134次	大分市大字下部字柳ヤシキ2950-1番地	大分市教育委員会	区画整理	古墳・中世ほか
下部遺跡群135次	大分市大字下部字畑中2715番地ほか	大分市教育委員会	区画整理	近世
下部遺跡群136次	大分市大字下部字辻2879-3番地ほか	大分市教育委員会	区画整理	弥生・古墳ほか
下部遺跡群137次	大分市大字下部字柳ヤシキ2953-2番地ほか	大分市教育委員会	区画整理	古墳・近世
葛木遺跡	大分市大字葛木509	大分県教育委員会	学校建設	弥生・中世
上松岡遺跡	大分市大字毛井	大分県教育委員会	道路	弥生・奈良ほか
玉沢地区桑里跡	大分市大字木上幹手1番1ほか	大分市教育委員会	区画整理	奈良
東田家遺跡	大分市田家町3番ほか	大分市教育委員会	鉄道	弥生・古墳ほか
東大道遺跡A地区	大分市東大通3丁目	大分県教育委員会	道路	縄文・弥生ほか
東田家遺跡2次	大分市東田家町222-1ほか	大分県教育委員会	道路	弥生・古墳ほか
佐伯城下町	佐伯市字城山	佐伯市教育委員会	その他の開発	近世
又江遺跡	南高部郡武川村大字横川字又江	大分県教育委員会	道路	近代
新殿遺跡	大野郡千歳村大字新殿474番地ほか	大分県教育委員会	道路	奈良
大木遺跡	大野郡千歳村大字下山字大木191-1番地ほか	千歳村教育委員会	農業基盤	弥生
井上象皇遺跡	大野郡緒方町大字井上220-1番地ほか	緒方町教育委員会	農業基盤	中世
西原寺遺跡	大野郡朝地町大字朝地1069-1番地ほか	朝地町教育委員会	農業基盤	弥生
久住遺跡	直入郡久住町大字久住6154	久住町教育委員会	その他建物	縄文・近世
長湯横穴	直入郡直入町大字長湯	大分県教育委員会	道路	古墳
高瀬采女	日田市大字高瀬字深野田950-1	日田市教育委員会	道路	縄文・古墳
朝日宮ノ原遺跡	日田市大字内河野字宮側9	日田市教育委員会	学術研究	古墳
朝日宮ノ原遺跡	日田市大字小迫字十石山ノ上1510-2	日田市教育委員会	農業関連	弥生・中世
本村遺跡4次	日田市大字小迫字浄光院1158-1ほか	日田市教育委員会	農業基盤	弥生・古墳ほか
本村遺跡	日田市大字兼甲字本村936-4ほか	日田市教育委員会	集合住宅	弥生・古墳ほか
葛原遺跡1区	日田市大字西有田字亀城1812-3ほか	日田市教育委員会	農業基盤	縄文・古墳
今泉遺跡	日田市大字友田字今泉1414ほか	日田市教育委員会	道路	弥生・古墳ほか

IV. 平成13年度各遺跡の調査概要

遺跡名	古田遺跡	所在地	中津市大字植野
調査原因	県道下時枝今津停車場線道路改良工事	調査期間	平成13年5月18日～5月23日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	井川泰成
調査面積	100㎡	時期	縄文後期
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

中津から宇佐・豊後高田にかけて緩やかに長峰原台地、糸口原台地や宇佐台地が形成され、それらをぬように犬丸川、五十石川、駅館川等が周防灘に注ぐ。遺跡は五十石川の左岸、現海岸より2km内陸の低丘陵上、標高約6mに位置する。現況は畑地で台地の縁辺部である。



遺跡の位置 (1/25,000「宇佐」)

遺構

3m×1.5m、深さ0.6mの不定形土坑をはじめ、大きさ1m前後の土坑6基を検出した。

遺物

土坑6基のうち3基からは縄文後期とみられる土器片を検出した。本遺跡最大の不定形土坑からは焼土とともに波状口縁を呈する鉢の小片や阿高式系の口唇部に貝殻肋縁で刺突した刻み目を有する土器片等が出土した。調整は貝殻条痕を主体とするものが主体である。



まとめ

古田遺跡の付近の低丘陵の縁辺には縄文後期の西和田貝塚や植野貝塚や富山遺跡などが存在する。本遺跡も台地縁辺部で中央部寄りには住居址等が存在する可能性が窺える。周防灘沿岸の縄文遺跡の分布を知る貴重な資料である。

(井川 泰成)

遺跡名	坂手原横穴墓群	所在地	中津市大字相原
調査原因	国道212号交通安全事業	調査期間	平成13年7月24日～9月21日、平成13年12月17日～平成14年2月18日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	栗原 義・井川泰成
調査面積	500㎡	時期	弥生・中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

遺跡は山国川の右岸、河口より約6km上流へさかのぼった川沿いの下毛原丘陵上で、標高32m～37mに位置する。遺跡は周知遺跡の坂手隈城跡となっており、現在は八幡橋神社の境内の一部で、現況は雑木林であった。立木を伐採した後、石棺材とみられる板石が散乱する様子が確認されており墳墓の存在が予想された。



遺跡の位置 (1/25,000 [土佐井])

遺構

弥生後期～古墳前期とみられる土壇墓11基（うち石蓋土壇墓1基）、それに伴うと考えられる周溝と、別に弥生終末の溝状遺構1条を検出した。また堀と考えられる幅4m、深さ1.1mの遺構が確認された他に、溝状遺構や、3m×3mほどの石組遺構1基など坂手隈城関係と思われる遺構も確認された。

遺物

土壇墓11基中9基までが赤色顔料をほどこしているとみられ、残りの1基は玉砂利を敷き詰めている。副葬品は鉄鏝2、刀子1、管玉4点を確認している。

また、中世の遺構からは瓦質土器や16世紀代の備前焼きのすり鉢や甕、球状土錘などが出土した。



まとめ

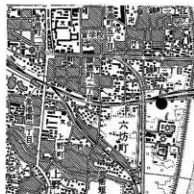
付近には助助野地遺跡や帯旗邸古墳、上ノ原横穴墓群等が狭い範囲で並ぶ墓域となっている。中世に山城として利用される以前、古くは弥生後期の土壇墓群の存在が明らかになり、当時の墓域の広がりや、時期の変遷等を考える上で貴重な資料となる。

(井川 泰成)

遺跡名	中世大友府内町跡第7次調査	所在地	大分市元町（大字大字上井東）
調査原因	大分駅周辺総合整備事業	調査期間	平成13年4月～9月
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	田中裕介・服部真和
調査面積	1,875㎡	時期	古代・中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

調査区は標高海拔5mの高さにひろがる現在の大分川西岸から約150mほどの微高地最高所である。府内古図では御所小路町にあたり、15・16世紀の中世後期の屋敷地群と重なって、奈良時代を中心とする古代の遺構が発見されている。



遺跡の位置（1/25,000「大分」）

遺構

奈良時代の遺構は3棟ないし4棟が確認されており、遺構配置図にその配置と規模を示した。西から説明するとSB-5は2×2間以上の掘立柱建物で、東西約3.5m、南北4m以上である。円形の柱穴の底に一見礎石風に見える平たい根石を据えている点に特徴がある。柱を安定させる礎板がわりに平たい円磔を据えているようである。SB-7はSB-5同様の根石を据えた柱穴2本を検出したのみであるので、まだ建物と言えるかどうか不明である。SB-6は少なくとも4×4間分を確認した東西に長い大型の掘立柱建物で、東西9～9.5m、南北約8mである。床面積は少なくとも70㎡をこえる。内部にもいくつか柱穴が検出されているので、総柱の倉庫または多面庇の何れかになると見られる。柱穴のいくつかにSB-5とSB-7同様に根石が検出されている。SB-6から東へ30mほど離れて発見したSB-9は、3×5間の身舎に東面して庇がつく大形掘立柱建物である。身舎の東西は約4.5m南北は約10.5mで床面積は約50㎡弱であるが、東の庇を加えると、東西は約7mで、床面積は70㎡を越える。

以上の掘立柱建物群は、出土須恵器の年代観から8世紀後半と考えられるだけでなく、建物の方向が真南北から東に約4ないし5度振る点で一致している。さらに建物間の柱筋が一致しており、同一の建物配置の基準にもとづいて建てられているものと考えられるので、8世紀後半のある時期に同時に存在していた可能性がある。中世の遺構に残留した遺物の中には、片面硯片を含む須恵器や土師器の他に緑釉陶器、越州窯青磁片などの9世紀に下る遺物もふくまれる。六連式の焼塩用製塩土器片も多量に出土するが、瓦はきわめて少ない。さて遺跡の性格であるが、大型掘立柱建物が東西60mを越える範囲に、同一の方位で配置される点や片面硯の出土などから、何らかの官衛施設の一部を見出した可能性がある。その位置は官衛的遺跡である下部遺跡の大分川を挟んだちょうど対岸に位置する。おそらく大分川の渡河点あるいは大分川河口部の津などの水上交通の結東点に置かれた、豊後国府あるいは大分郡衛の管掌する官衛の一部であると見られる。

中世後期の遺構は南北に伸びる溝を5条確認しており、そのうち4条は15世紀末から16世紀始めに掘られたもので、ほぼ20m間隔で並行して掘られており、調査区の北側に想定される御所小路に面した屋敷地の区画溝と考えられる。その内部には廃棄土坑・井戸、棚列などが検出されている。区画1内には小規模な廃棄土坑と小型の井戸のほか中央にさらに分割した細い溝を発見している。区画2内には溝に接して井戸と廃棄土坑が連なっている。区画3内は後に東西の溝SD-755で分割され南側には方形にめぐる棚列があり、棚列の外に1基の成人男性を箱棺に埋葬した屋敷敷を発見している。北の区画内には16世紀末の大型の廃棄土坑が掘られている。なおそのほかに15世紀始め

まで遡る2条の大溝と掘立柱建物2棟を検出している。区画の規模が大きいことや、遺構の密度が薄いこと、御所小路に面する点などから、以上の区画された屋敷地は武家屋敷の可能性もある。

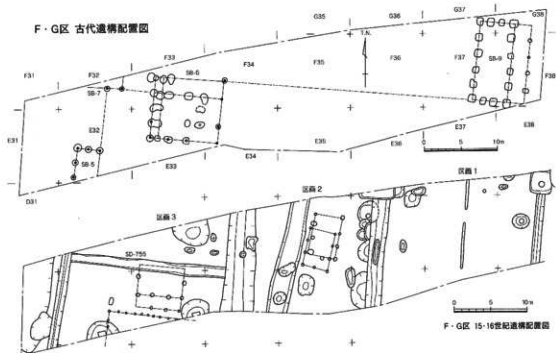
まとめ

奈良時代を中心とした古代の掘立柱建物群が発見された点と、戦国期の御所小路町の屋敷地が発見された点が特筆される。

(田中 裕介)

文献

- ・田中裕介「中世大友府内町跡の調査概要 第7次調査」『南蛮都市・豊後府内一都市と交易』大分市教育委員会・中世都市研究会 2001



遺跡名	中世大友館内町跡第9次調査Ⅲ・Ⅳ区	所在地	大分市錦町3丁目
調査原因	一般国道10号鎌古国府拡張工事	調査期間	平成13年4月1日～10月31日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	原田昭一
調査面積	約650㎡	時期	中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化遺産文化財資料室

位置

大分川下流西岸の沖積平野に位置し、大友館の東側門前の「桜町」に想定できる場所にⅢ区、「御内町」・「御所小路」に想定できる場所にⅣ区をそれぞれ設定した。現在は宅地として利用されているが、地表下1m前後において、水田面が広がり、その上には盛土による整地が行われていた。

遺構

Ⅲ区では16世紀中葉に調査区東半に大きな落ち込みが確認でき、それを埋土して平坦地を形成している。ここには柱穴と思われるピット群や倉庫と考えられる方形堅穴遺構をはじめ、廃棄土坑・井戸などが確認でき、町屋の遺構群に相当することが考えられる。特に、調査区西端において東西方向に並ぶピット群が3列確認でき、これは町屋を画する朝列であったと想定できる。

Ⅳ区では、Ⅰ～Ⅲ区と同様に柱穴と思われるピット群や廃棄土坑・井戸などの町屋遺構が検出されているが、特に注目されるものは、Ⅰ区で確認できた「御所小路」に想定される道路遺構がⅣ区にも続いていることであった。この道路遺構には数段階に及ぶ側溝が取り付いており、その側溝時期から16世紀後半に道路が営まれていたことが確認できた。

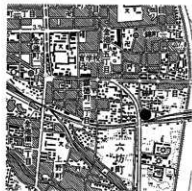
遺物

遺構が16世紀後葉を中心とすることから、京都系土師器が極めて大量に出土しており、このほかにも中国南部・東南アジア・朝鮮半島などからもたらされた輸入陶磁器が数多く出土している。国内外の多様な器種の中には天目碗や山口県赤間産の石材を利用した茶臼など、茶の湯の流行を物語る遺物も少なくない。また、本調査区で特筆すべきことは、ふいご羽口やつば、さらには大量の金属滓など、鍛冶職人の存在を裏付ける資料や、薙型分銅・太鼓型分銅や権（銅鍾）など商人の存在を物語る遺物も見られ、その当時の町屋の性格がうかがわれる。

まとめ

今年度の調査において、「御所小路」両側に広がる「御所小路町」や大友館前面の南北大路に面する「桜町」・「御内町」において、町屋の遺構が広がる様子が明らかにできた。

(原田 昭一)



遺跡の位置 (1/25,000「大分」)



Ⅲ区全景 (東から)



Ⅳ区全景 (西から)

遺跡名	中世大友府内町跡第10次調査	所在地	大分市上野六坊北町
調査原因	大分駅周辺総合整備事業	調査期間	平成13年7月～平成14年3月
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	後藤 晃一
調査面積	2,500㎡	時期	中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

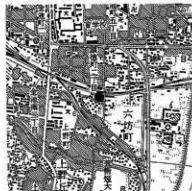
本遺跡は、戦国時代府内絵図(元府内之図)によれば、北川にダイウス堂、南側に祐向寺と上町、更に東側には上野原館へ通ずる西側の大路が存在した可能性のある場所に立地する。

遺構

調査区をⅠ・Ⅱ区に分け、本年度はⅠ区及びⅡ区南半部と北半部の一部の調査を終了した。

Ⅰ区は、調査区中央部が若干高く東西に地形の落ち込みがみられる。16世紀後半にこの低地を覆うように整地されたものと考えられ、大半の遺構はこの整地層を切って構築されている。調査区東西隅でそれぞれ溝3条が検出され、いずれも同一軸上に乗る。更にそれらの溝に扶まれ柱穴、土坑、井戸、墓坑等が検出されており、これらの溝が何らかの区画を示している可能性が高い。

Ⅱ区は、北半部において木棺墓が1基検出された。時期決定ができる遺物の出土がみられないため、確定は困難だが、墓の掘りこみの層位から判断すると、16世紀後半の可能性が高い。被葬者は、腕を胸元で組み、手足をのぼして葬る伸展葬で埋葬される。棺は縦約180cm、横55cmで非常に大きく、底板は短冊状の板を複数枚縦に並べている。



遺跡の位置 (1/25,000「大分」)

遺物

Ⅰ・Ⅱ区ともに、16世紀後半の遺物が主体を占める。京都系土師器、染付、備前製の甕・播り鉢、滑石製スタンプ、竿秤分銅、瓦等が出土している。また、注目されるものとしては、Ⅰ区内の16世紀後半の結桶組井戸の井筒内から、鉄製鋤先・鍬先・泥除けが出土している。

まとめ

本遺跡は前述のとおり、北側にダイウス堂の存在が推定される場所に立地する。Ⅱ区北半部で出土した木棺墓は、その埋葬方法が伸展葬であること、木棺墓の構造が大府高槻市出土のキリシタン墓に酷似していること等からダイウス堂との関連が十分考えられる。

(後藤 晃一)

文献

- ・「高槻城キリシタン墓地—高槻城三ノ丸跡北郭地区発掘調査報告書—」
高槻市文化財調査報告書第22冊 高槻市教育委員会発行 2001



Ⅱ区出土 竿秤分銅



Ⅱ区出土 木棺墓 (東から)

遺跡名	中世大友府内町跡遺跡第11次調査	所在地	大分市錦町3丁目
調査原因	一般国道10号線古国府拡幅工事	調査期間	平成13年5月7日～14年3月27日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	山本恭弘
調査面積	800㎡	時期	中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

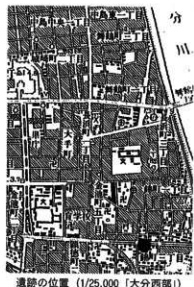
位置

遺跡は大分市錦町3丁目に所在するもので、国道10号線と県道大分白杵線の分岐点より国道の東側に展開している。その中で、第11次調査区は遺跡の最も北側にあたっている。

遺構

第11次調査区は、戦国時代の府内の町並みを描いたとされる「府内古図」によれば「称名寺」跡と推定され、「大友氏館」からみて南北に伸びる大路を挟んで北東側にあたる。「称名寺」は14世紀に時宗の寺として建立され、当時としては大友氏の菩提寺である「万寿寺」に次ぐ規模の寺院であったと考えられる。調査は表土を取り除き、その下の近世の水田耕作土を取り除くと遺構面が現れた。主要な遺構のうち、道路状遺構・溝状遺構・土塁状遺構・柱列はすべて南北方向へと伸び、調査区外へと続いていた。

道路状遺構は、砂や砂利・貝殻等を用いた何層にもなる遺構面を形成しており、16世紀後半では幅約6mの道路であったと推定される。その東側を走る溝状遺構は幅が約6mで深さは遺構検出面より約2.5mあり、「称名寺」西側の堀跡と思われる。また、すぐ東側には質感の違う土を交互に突き固めた土塁状遺構が走り、これは「称名寺」の築地崩跡と考えられ、この遺構はその下にある溝状遺構が埋設された上に構築されていることが確認された。また、調査区東側の井戸跡は直径約3.2mで深さは約3mあり、井筒の底部には阿蘇溶結凝灰岩製の六角形の石組みが残っていた。



遺跡の位置 (1/25,000 「大分西部」)

遺物

瓦溜まりを含め調査区全体からは大量の瓦が出土しており、寺院を構成する建築物が存在していた可能性がある。上記の堀跡と推定される溝状遺構の底部（泥炭層）からは、数多くの京都系土師器・輸入陶磁器類（染付・朝鮮青磁・華南三彩等）や金箔土師器・金銅製遺物・金の鍔が出土している。さらに、当時の人々が食したであろう貝類や日常生活品（下駄・独楽・くし等）が見つっており、井戸跡からは金箔鬼瓦も出土している。

まとめ

第11次調査区は「称名寺」の南西側にあたり、道路状遺構は駐車場を挟んだ南側の第12次調査区で検出された南北道路へつながると推定される。さらに、調査区の各溝状遺構は成立した時期が各々異なっており、町屋と寺域の変遷を考える上で重要であると思われる。出土遺物では、朝鮮半島・中国・東南アジア（タイ・ベトナム・ミャンマー）からの輸入陶磁器の多さから、当時の府内が国際貿易都市として機能していたことがうかがわれる。

(山本 恭弘)

遺跡名	中世大友府内町跡第12次調査	所在地	大分市錦町3丁目
調査原因	一般国道10号線古国府拡幅工事	調査期間	平成13年5月～平成14年3月
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	恒賀健太郎
調査面積	700㎡	時期	中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

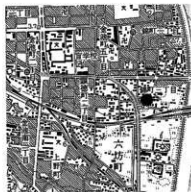
位置

本遺跡は、絵図および字図から推定される「桜町」およびそれに面する東西道路「名ヶ小路」とされる範囲にあたる。

遺構

調査の結果、調査区北側に東西道路、調査区中央に南北道路が検出され、それらに面した南東部の範囲一帯は焼土が面的に広がり、一部その直下から建物跡と考えられる礎石の並びや柵列状に柱穴が検出された。焼土面は焼土細粒を含む層に覆われており、火災をうけた後に整地されたものと思われるがその層より掘り込まれた遺構は検出できなかった。ただし、数は少ないが焼土を切って掘り込む柱穴を確認しているので火災があった後にも何らかの建物が建っていた可能性が高い。道路については焼土を含む整地層の上面に、灰色砂層が薄く覆い硬化面を形成していることから火災後に整地され、復興していたことが窺われる。焼土面の時期については直上で検出した遺物などから16世紀後半～末頃に比定され、天正14年（1586年）の島津軍府内進攻による可能性が考えられる。

道路状遺構は、灰色シルト層、灰色砂質土層および酸化マンガン沈着層の互層が厚さ約80cmで堆積しており、各層に対応して溝あるいは堀を持つことが確認できる。南北道路については、大友館に面した南北筋の大通りにあたる可能性が想定される。そのため東西および南北道路に面する西北部の区画は大友館の東北隅にあたることが考えられる。



遺跡の位置 (1/25,000 「大分」)

遺物

道路辻周辺において、緑色鉛ガラス製の玉類が路面にからんで出土しているほか、町屋と推定される範囲の焼土面直上からは犬形土製品や鉛製装飾品および青銅製の分銅、青銅製斧（コウガイ）、鉄製短刀、京都系土師器、瀬戸美濃系天目茶碗、景徳鎮窯系染付、華南三彩、備前焼などが多数出土している。



分銅及び鉛製装飾品

まとめ

当調査区は名ヶ小路と推定される東西道路および南北道路のちょうど辻周辺部にあたる。そのため道路の変遷を層位ごとに追えるだけでなく、それによって区画される町屋（桜町）および大友館についても同時に把握できる可能性を持つ。また、かつて大友関連遺跡で道路の辻部分の調査例はなかったが、今回の調査で確認された木戸についても、今後検証も含め重要な資料になると考える。

(恒賀健太郎)



ガラス珠出土状況

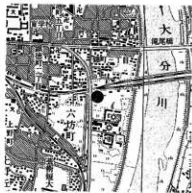
遺跡名	中世大友府内町跡第13次調査	所在地	大分市元町
調査原因	一般国道10号線古国府拡幅工事	調査期間	平成13年6月4日～平成14年3月28日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	松本康弘
調査面積	1,000㎡	時期	中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

本調査区は大分市元町に所在し、江戸時代に描かれた「府内古図」によると、大友館の南東、大友氏の菩提寺である万寿寺の北にあたり、「御内町」「堀之口町」と書かれている。

遺構

16世紀後半に整地が行なわれており、その後、建物の柱穴、井戸、こみ捨て穴等が掘り込まれていることがわかった。そして、調査区の西側に建物の柱穴が、東側に井戸、こみ捨て穴が見られることから、当時、ここは「御内町」の町屋とその裏庭であったと考えられる。



遺跡の位置 (1/25,000「大分」)

遺物

多くの京都系土師器や輸入陶磁器に混じて、メダイとケンディが出土した。

メダイはほぼ円形で、直径2cm、厚さ1mmほどの大きさで鉛を中心とする合金でできている。図柄は、表は「聖ヴェロニカの御影」、裏はマントをまとったマリアがイエスを抱いている「聖母子像」である。聖ヴェロニカとはキリストがゴルゴダの丘へ向かう途中、顔の汗をヴェールでぬぐった人物であり、そのヴェールにはキリストの顔が写り、「聖顔布」と言われている。



ケンディ

また、ケンディ（乳房形に膨らんだ注ぎ口と円盤状の口部を特徴とする水注）は、タイのスコータイ王朝の頃作られて、日本にもたらされた練上手のもので、中世の出土例としては鉄絵、瓦質、緑釉、漳州窯のケンディがあるが、練上手のものが国内で発掘されたのは初めてである。

(松本 康弘)



メダイ「聖ヴェロニカの御影」

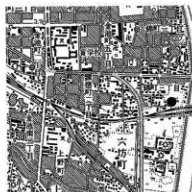


メダイ「聖母子像」

遺跡名	中世大友府内町跡第16次調査	所在地	大分市錦町3丁目(大字大分字上井東)
調査原因	大分駅周辺総合整備事業	調査期間	平成13年1月10日～平成14年3月
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	田中裕介・服部真和
調査面積	375㎡	時期	中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

調査区は標高海拔5mの高さにひろがる。現在の大分川西岸から約10mほどの微高地最高所である。府内古岡によると御所小路町の北側と上市町にあたり、その一部を東西150mに貫く細長い調査区である。



遺跡の位置 (1/25,000「大分」)

遺構

16世紀後半(大友宗麟の時代)を中心とする戦国時代の南北の大路に面した上市町とよばれる町屋の跡と、東西小路に面して武家屋敷の跡と考えられる御所小路町の跡を発見した。屋敷地の区画や、道路の跡や火災の跡がみつかり、いまは畑や住宅となっているこの場所がかつて繁華な町であったことを偲ばせる。

上市町の道路遺構。この道路は7次調査の清忠寺町の北延長にあたる。現在のせまくなった里道と同じ位置に、路面をなんども舗装しなおした道路遺構が発見された。道路の表面は小礫と貝殻をまぜて舗装している。この道は府内古地図に描かれた上市町の通りと一致し、幅は6～7mである。いっぽう調査区の最西端では御所小路の道路遺構の路面を確認した。やはり古岡から推定された位置である。

上市町の屋敷地跡。東半では、上市町の道路に面して東西にうなぎの寝床状の屋敷地が、高さをちがえながら造成されていた。東側に2面・西側に4面みつき、境界には段差をもうけている。屋敷地の幅は約4m、奥行き30mほどである。屋敷地のなかでは土間や掘立柱建物・礎石建物や廃棄土坑が見つかる。道路に面して間口をとった建物が立っていたと考えられる。西半では、御所小路に北面する屋敷群に関係するとみられる東西・南北の溝と土坑が散漫に発見された。御所小路町の屋敷地にあたる。

火災と整地の跡。敷地に土を入れ土間のようにかたく締めて嵩上げされた整地の跡が3回以上あり、整地層の上下に火災の跡の焼けた瓦礫の土が残っていた。おそらく火災にあったあとを、そのまま嵩上げて屋敷地を再生したものである。大規模な火災の形跡が3回あり、上から2回目の火災の跡が、1587年の豊薩戦争時の焼き討ちによる可能性がある。

まとめ

戦国時代(16世紀)の「上市町」「御所小路町」の屋敷地と道路、その屋敷地に関わる溝・建物跡・廃棄土坑などを発見し、16世紀の生活用具が多数出土した。特に道路に間口をとったうなぎの寝床状の細長い屋敷地群と、その造成過程が判明したことは特筆に値する。

(田中 裕介)

遺跡名	中世大友府内町跡第18次調査	所在地	大分市錦町3丁目
調査原因	一般国道10号線古国府拡幅工事	調査期間	平成13年11月1日～平成14年3月31日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	原田昭一
調査面積	約450㎡	時期	中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

大分川下流西岸の沖積平野に位置し、大友館の東側門前の「桜町」に想定できる場所に設定した。現在は宅地として利用されているが、地表下1m前後において、水田面が広がりその上には盛土による整地が行われていた。

遺構

本調査区で最も注目すべき成果は、調査区中央において南北方向に走る道路遺構が確認できたことである。この道路遺構両側に4期にわたる側溝が確認できた。特に、東側では道路整地層を下げるに従い、初期の側溝がより東側に確認され、道路整地層が形成された当初、広がった道路が、整地を重ねるにつれ、狭くなっていった様子がうかがえる。この道路遺構は「府内古園」にみえる大友館前の南北大路に相当すると考えられ、道路遺構東側にはピット群および土坑が数多く検出されたため、町屋が広がっていたものと想定できる。

一方、西側には明確な遺構がほとんどなく、空地状を呈していたことがわかる。唯一、16世紀後半の掘立柱建物を確認できたほか、天正年間の島津侵攻時の焼土層がはいる西側側溝には、側溝内に欄列が並び、その欄列北端から大友館側に折れて伸びていることが確認できた。

また、道路西側側溝付近において、その下部に2本の大溝（S018・S017）が検出でき、大友館側の大溝（S017）は掘り直しが確認できる。まず、14世紀後半～15世紀前半に深い断面V字状の溝を掘削し、埋没後に再度、一部に16世紀前半、断面U字状の溝を掘り直したものと考えられる。

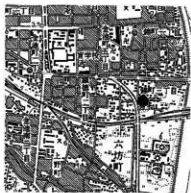
遺物

16世紀後葉の京都系土師器が大量に出土しており、このほかにも中国南部・東南アジア・朝鮮半島などからもたらされた輸入陶磁器が数多く出土している。しかし、調査区内の主要遺構が道路遺構であるため、他の調査区に比較すれば出土遺物は少ないほうである。特筆すべきことは、天正年間の島津侵攻時の焼土層内から焼けた瓦類が多量に出土しているほか、大友館側の大溝（S017）に先行する大溝（S018）からも瓦が比較的まとまって出土しており、付近にこれらの瓦を葺いていたであろう施設が存在していたことがうかがわれる。

まとめ

今回の調査で確認された16世紀後半に属する道路遺構は、「府内古園」にみえる大友館前の南北大路に相当すると考えられる。

(原田 昭一)



遺跡の位置 (1/25,000「大分」)



調査区全景 (北から)

遺跡名	東大道遺跡A地区	所在地	大分市東大道町3丁目
調査原因	大分駅周辺総合整備事業（庄の原佐野線）	調査期間	平成13年11月18日～平成14年1月31日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	榎島隆二
調査面積	600㎡	時期	縄文～古墳
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

東に大分川が流れ、西には高崎山を望む上野台地の北側の裾に形成された小さな扇状地状の地形の先端部に位置する。その東側には東大道遺跡B地区がある。



遺跡の位置 (1/25,000「大分」)

遺構

弥生時代の溝状遺構
古墳時代の住居跡

まとめ

東大道A地区に遺跡が展開していた頃は、海がすぐ側まで迫り、海上交流が盛んに行われていた可能性もある。特に、姫島産の黒曜石の石核が一定量出たことはそのことを物語っているのではないだろうか。また、古墳時代の住居跡が確認された点で、当時、海と密接に関連した人々の生活が窺われる。
(榎島隆二)



調査区全景（東から）

遺跡名	上松岡遺跡	所在地	大分市大字毛井
調査原因	街路鶴崎駅前松岡線道路改良工事	調査期間	平成13年7月11日～8月7日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	甲斐寿義・細川 愛
調査面積	300㎡	時期	弥生・古代・中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

上松岡遺跡は大分平野の東部、大分市大字毛井に所在する。毛井地区は東方を丹生台地、西方を鶴崎台地に挟まれた大野川下流の沖積低地、乙津川との分岐点よりやや西に位置している。本遺跡はこの毛井地区の南西端、標高は約11m前後の、地形的には大野川左岸、標高約165mの古城山を基部として南から北へ延び別府湾を望む洪積台地の東端で、開析谷の出口に小扇状地として形成された、いわゆる松岡面に位置している。



遺跡の位置 (1/25,000「鶴崎」)

遺構

遺構としては2間×2間、2間×3間の掘立柱建物跡各1棟、その他、規模は不明であるが庇付きを含め2棟の掘立柱建物跡2棟、円形の竪穴住居跡1基、弥生時代中期頃の袋状土坑を含む土坑2基およびピットを多数検出した。

遺物

旧石器時代の剥片、弥生時代の下城式甕の土器片、ピットから14世紀ごろの土師皿などを検出した。

まとめ

今回の調査では、弥生時代及び中世の遺構を確認したが、本来の遺構面は削平されており、また調査区も狭く、遺跡の詳細な性格を明らかにすることはできなかった。上松岡遺跡に展開していたであろう集落の全貌を明らかにするには、今回の成果を踏まえ、周辺の調査を積み重ねていくことが肝要であろう。

(甲斐 寿義)

遺跡名	寫木遺跡	所在地	大分市大字寫木
調査原因	大分県立鶴崎工業高等学校機械科実習棟改築工事	調査期間	平成13年9月3日～9月19日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	甲斐寿義・細川 愛
調査面積	約700㎡	時期	弥生・古代・中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

今回の調査区は大分平野の東部、大分市大字寫木の鶴崎工業高校敷地内に所在する。地形的には大野川左岸、いわゆる鶴崎台地と呼ばれる丘陵上の東端の標高約40mに立地している。遺跡の東は、大野川の浸食により崖となり大野川支流の乙津川を望む。



遺跡の位置 (1/25,000「鶴崎」)

遺構

弥生時代後期の竪穴住居1基および多数のピットを検出した。

遺物

竪穴住居に伴う甕の土器片や攪乱層から古代の上器片が数点出土した。

まとめ

今回の調査では、竪穴住居1基と多数のピット群を検出したが、いずれの遺構も旧機械科実習棟建設の際にかなり削平を受けており竪穴住居も床面のみを検出したに過ぎない。この竪穴住居からの出土遺物は少なく、僅かに床面から出土した高坏や甕の破片からおおよそ弥生後期末から古墳時代初頭に比定されると考える。また、これらのピットの中には円形に並ぶと予想できるものも存在しており、遺物が出土していないものの、弥生時代中期頃の円形プランを持つ竪穴住居跡が存在した可能性も示唆しておきたい。

(甲斐 寿義)

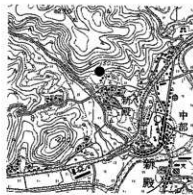
遺跡名	新殿岡遺跡	所在地	千歳村大字新殿字岡
調査原因	国道57号中九州横断道路建設	調査期間	平成13年4月25日～平成14年7月19日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	栗田勝弘・松本康弘・関野春一
調査面積	約4,800㎡	時期	縄文前期、弥生中期、弥生 終末、奈良末～平安時代、中世
		遺物の保管	大分県教育庁文化遺産文化財資料室

位置

千歳村役場の北西約1km、大野川支流の茜川左岸上の標高約135mを呈する狭い丘陵上に位置している。

遺構

新殿岡遺跡は弥生中期の円形貯蔵穴2基、奈良末～平安期の地床炉を伴う不定形土坑5基、奈良末～平安期・中世の柱穴が多数検出されている。特に、奈良末～平安期の不定形土坑は、弧状を描く緩やかな傾斜地形に沿って階段状に位置されており、土坑の機能や用途を考える上で注目できる。



遺跡の位置 (1/25,000「田中」)

遺物

縄文晩期の上器・石器、弥生中期の土器・石器、奈良末～平安期の土器、中世の土器

(栗田 勝弘)

遺跡名	石五道原b地区 (石五道原第2次調査区)	所在 地	千歳村大字長峰字石五道原
調査原因	国道57号中九州横断道路建設	調査期間	平成13年12月17日～平成14年3月31日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	栗田勝弘・岡野幸一
調査面積	約3,500㎡	時期	弥生終末～古墳時代初期
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

千歳村役場の北約3km、大野川支流の酉川左岸上に南北に長い台地は、標高約135mを呈する高添台地と呼ばれている。この一帯の畑地には、先史時代から原史時代の遺跡が数多く展開している。これらは、高添台地の遺跡群として認識できるが、南側より、土木園遺跡、高添遺跡群の五道原地区、出口地区という弥生終末～古墳時代初期の集落遺跡をはじめ、平石遺跡という弥生前期の墓地も確認されている。中でも、石五道原は最も広範囲な集落であり、今回は調査年次により、石五道原b地区(石五道原第2次調査区)と仮称しておく。



遺跡の位置 (1/25,000 田中)

遺構

石五道原b地区(石五道原第2次調査区)は竪穴住居跡が23基検出されている。これらは、2本主柱の小型竪穴から、4本主柱の中型竪穴、6～8本主柱の大型竪穴などに分類できる。竪穴住居跡の主柱は抜き取られているものがあり、柱穴の側には、抜き取り後の土がこんもりと堆積していた。この状態は鹿道原遺跡で確認された状況と同じであり、竪穴住居跡の移動、移転の様相を推測できる。

一方、竪穴住居跡に伴出した掘立柱建物は、1間×1間の長方形を基調としたものであり、長軸を直角にして配置するものや、長軸を縦に一列に並べて配置したものもあり、鹿道原遺跡で注目された並び倉の先駆的な様相が伺えた。1間×1間の掘立柱建物の検出は、当該期の集落構成を検討するうえで看過し得ない。

また、中世の遺構としては、浅い幅広い溝状遺構が検出されており、五輪塔の一部が出土している。当時の道路状遺構と推察できる。

遺物

上述した遺構に伴って、弥生終末～古墳時代初期の土器、石器が多数検出されている。

(栗田 勝弘)

遺跡名	上門手遺跡	所在地	千歳村大字下山
調査原因	主要地方道三重新線線道路改良工事	調査期間	平成13年4月16日～9月21日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当	高橋信武・五十川謙也
調査面積	約10,000㎡	時期	古代・中世・近世
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

遺跡は標高約140m、比高差約40mほどの台地上にある。北方を舊川が流れ、東方には千歳村の中心部の平野が広がる。この地域一帯は中世の頃、「井田郷」と呼ばれ、周辺には多くの中世の石遺物が点在している。



遺跡の位置 (1/25,000「田中」)

遺構

- 古代 柱穴
- 中世 掘立柱建物跡・溝・土塁・虎口・地下式坑・土坑他
- 近世 墓・土坑

遺物

- 古代 土師器
- 中世 京都系土師器皿・輸入磁器・備前
焼甕・火鉢・石臼・風炉・鉄製品
- 近世 陶磁器



まとめ

遺跡は16世紀代を中心とした館城である。城は丘陵西側を掘り切ることにより独立させ、全体の規模は南北約120m、東西約150mほどである。城内は主郭・2郭・3郭により構成され、周囲に土塁を巡らす。大友氏の館の土塁と構築技法が類似し興味深い。主郭は溝で分け、南東の1画中央に地下式坑を設けている。大手門は城内に入るまでに何度も屈曲させる構造をもっている。城の終焉は多量焼土と出土遺物などから、天正14年の島津氏の豊後侵攻が廃絶の大きなきっかけになったと思われる。

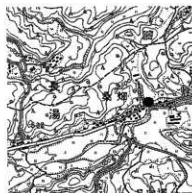
(五十川雄也)



遺跡名	長湯横穴墓群	所在地	直入郡直入町大字長湯字桑畑
調査原因	主要地方道庄内久住線道路改良工事	調査期間	平成13年10月29日～平成14年1月25日
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	甲斐寿義・五十川隆也
調査面積	9,300㎡	時期	古墳時代
		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化課資料室

位置

長湯横穴墓群は大分県のほぼ中部に位置する直入町大字長湯字桑畑に所在し、町の中心部を東西に流れる芹川左岸の丘陵縁辺の標高約490mに位置する。主要地方道庄内久住線道路改良工事に伴い平成12年度に長湯横穴墓群の確認調査を実施し、平成13年10月29日から翌年の1月25日まで本格的調査を行った。



遺跡の位置 (1/25,000 [久住])

遺構

確認調査時に4基の古墳時代の横穴墓(内1基はすでに天井部が開口)を、本調査で新たに5基の横穴墓を確認した。これらの横穴墓はいずれも6世紀前半～7世紀初頭のもので(内1基は初期横穴墓の形態を残しており5世紀にさかのぼる可能性がある)、そのうち6基は未盗掘であった。

遺物

これらの横穴墓に伴い保存状態のよい19体+αの人骨及び数多くの副葬品を検出した。副葬品の中には馬具をはじめ管玉、ガラス玉、鉄鏃などのほかに鹿角装鉄刀・剣や南西諸島産のゴホウラ貝の貝輪などこの地域の歴史や社会形態を知るうえで貴重な遺物が出土した。

まとめ

今回の調査では9基の横穴墓を確認したが、これらの横穴墓5世紀代から7世紀初頭にかけて営まれてきたこの地域の首長系列の墓地であり、特に7号墓の人骨や副葬品にその性格が強く現れていると思われる。また、人骨の保存状態が良いことからこの地域における埋葬形態・親族関係の復元が期待できるなど人類学的にも貴重な資料を得ることとなった。

(甲斐 寿義)

遺跡名	中津城跡	所在地	中津市1278-1
調査原因	重要遺跡確認	調査期間	平成13年11月1日～平成14年3月29日
調査機関	中津市教育委員会	調査担当者	高崎章子
調査面積	814㎡	時期	江戸時代
		遺物の保管	中津市歴史民俗資料館

位置

中津城は市の西際、福岡県との県境を流れる山国川の河口に位置する。市が本丸と三の丸の間の石垣の修復工事を行うことになったため、石垣天端や内側に遺構確認のトレンチを入れた。



遺跡の位置 (1/25,000「中津1」)

遺構

石垣の天端面の調査では、塀跡の石列、櫓跡、城内側の旧石垣などが検出できた。旧石垣は現在よりも天端が約1mほど低く、櫓跡が一段高く造られていた。旧石垣にあがる階段も検出できた。櫓跡は後にさらに城内側へ張り出しているのが確認された。また、水門側では溝状の石列が検出された。石を二段ほど積んだだけで、石の天端はそろっており、ここでは、城内側は土手状であったことがわかる。



遺物

遺物の大半は瓦が占める。石垣解体工事に伴い堀を掘削したところ、堀底近くから金箔瓦が出土した。金箔瓦が広く使用されたのは、秀吉の時代であり、まさに中津城創建時に相当する。水門側からはその時代に遡ってもおかしくない丸瓦や平瓦が出土している。

まとめ

調査の結果、旧天端高は現在の天端より約1m低かったことが判明した。また、石垣の内側が中ほどでは石垣、水門側では土手状の可能性が高く、時期差に起因するものなのか、見極めなければならない。城内側の石垣は何度か造り替えが確認できたが、堀側は築城当初の姿を留めていると考えられ、中津城は天正期の石垣を広範囲にみる事ができる、希少な城郭であるといえる。

(高崎 章子)

文献 ・ 「中津地区遺跡群発掘調査概報 (XIV)」中津市教育委員会 2002

遺跡名	諸田遺跡	所在地	中津市大字諸田496番地他10筆
調査原因	阪東開通事業に伴う	調査期間	平成13年6月1日～平成14年5月29日
調査機関	中津市教育委員会	調査担当	花崎 徹
調査面積	8,000㎡	時期	中世
		遺物の保管	中津市歴史民俗資料館

位置

諸田遺跡は、中津市の北東部、標高11m程の台地上に立地する。縄文時代、中世の遺物包蔵地として周知され、周辺には定留遺跡、十前垣遺跡が立地する。

遺構

幅約3m、深さ約1.7mの溝で区画された居館跡と推定される。溝の全景は明らかでないが方形になると思われる。溝は確認された部分で南北に26m、東西に38m程である。溝の内側では掘立柱建物、土塼、井戸等が検出された。土塼は墓、廃棄土塼、地下式土塼等である。土塼墓は長軸方向を南北に5基検出された。またこの1群より北側にも溝で区画された遺構群が検出された。これらは同時期の遺跡で性格も同様になると推定される。



遺跡の位置 (1/25,000 1字在1)

遺物

和鏡、瓦質土器、鉄器、土師器（小皿、甕等）
13世紀～14世紀代の遺物が主体である。



まとめ

諸田遺跡は縄文時代、中世の遺物包蔵地として周知されていた。今回の調査で中世の遺構群が検出されたのは、大きな成果であった。周辺では小字岩丸がみられ岩丸城との関連が推測される。また調査区の東側にも台地が延び、遺跡がいくつかものとみられる。

(花崎 徹)

遺跡名	停車場遺跡	所在地	中津市植野2083他
調査原因	県営土地改良総合整備事業	調査期間	平成13年8月27日～11月30日
調査機関	中津市教育委員会	調査担当者	高崎章子
調査面積	1,300㎡	時期	不明
		遺物の保管	遺物なし

位置

中津市東端、宇佐市との境界に位置する。遺跡は五十石川流域に広がる水田地帯と、その縁辺の低台地からなる。12年度に試掘を行い、13年度は水田と低台地の境の微高地である知部分を調査対象とした。

遺構

調査区は北西角で直角に曲がる細長い鍵状をしており、地形に沿うように数条の細長い溝が鍵状にのびていた。2間×4間の南北棟の獨立柱建物が一棟検出された。一度ほぼ同位置での建替えが確認できた。他にピットや小さな土坑も散在していた。



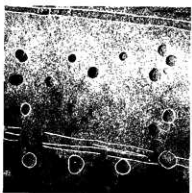
遺跡の位置 (1/25,000 [宇佐])

遺物

土師器、須恵器の微粒があちこちに確認できたものの、形状のわかる遺物はなかった。

まとめ

遺物がなく、遺構の年代を特定することはできなかったが、12年度調査で確認した古墳時代の水田遺構に隣接する微高地であることから、同年代の建物跡と考えられる。川沿いの低湿地で水田を営んだ人々の集落が、隣接する微高地及び低台地に展開することが予想される。



(高崎 章子)

遺跡名	高森城跡	所在地	宇佐市大字高森字三の丸ほか
調査原因	個人住宅建設に伴う事前調査	調査期間	平成13年6月7日～平成14年3月29日
調査機関	宇佐市教育委員会	調査担当者	江藤和幸
調査面積	5,700㎡	時期	安土桃山時代
		遺物の保管	宇佐市文化財資料室

位置

高森城跡は、駅館川東岸の台地が舌状に張り出した地形を利用して築城した平山城である。『黒田家譜』には、天正15(1588)年7月に入部した黒田孝高(如水)が、実弟利高を宇佐郡に派遣して築かせたとある。『益永系図』によると同年10月の宇佐一揆の際に益永宗世は高森で戦死しており、この時までにある程度の城郭の完成を見ていたと考えられる。以後慶長5(1600)年の細川氏入国まで機能する。



遺跡の位置 (1/25,000「宇佐」)

遺構

礎石建物 一棟

桁行 7間 梁間 2間半 (約14×5m)

柱間は京間を使用している。

土層観察より土塁と近接していたことが明らかであり、礎石の配置等から二階建て以上の高層建築と推測される。

なお、下層で弥生時代～古墳時代の遺構を確認したが、建物が保存されたので、詳細な調査は行っていない。



遺物

出土遺物は瓦が殆どであり、建物に伴う日用雑器は出土していない。瓦は左三つ巴の軒丸瓦や唐草文の軒平瓦のほかには鬼瓦等が見られる。いずれもコビキはA類ある。わずかに陶磁器も見られたが、後世の攪乱で混在した17世紀後半～18世紀にかけての肥前産の染付である。

まとめ

今回発見した建物の性格は、城外が見渡せる城の北端の土塁の食い違う部分に位置すること、日用雑器が出土していないことから門や櫓などの施設と考えられるが、規模が大きく、城中央部に到る通路が確認できないこと、門とするには柱間が狭いことから櫓の可能性が高いと言える。

(江藤 和幸)

文献 ・ 「高森城跡5次調査」『宇佐地区遺跡発掘調査概報』XIV 宇佐市教育委員会 2002

遺跡名	中屋敷遺跡6次調査	所在地	宇佐市大字上田
調査原因	都市計画道上田・四日市線建設に伴う事前調査	調査期間	平成13年5月7日～平成14年3月31日
調査機関	宇佐市教育委員会	調査担当者	川谷 浩
調査面積	約1,000㎡	時期	弥生～近世
		遺物の保管	宇佐市文化財資料室

位 置

中屋敷遺跡は駅館川西側の微高地に立地する。白鳳時代創建の法鏡寺廃寺跡（国指定史跡）の北側に位置する。これまでに宇佐市立駅館小学校校舎改築や市道建設等の工事に伴い、5次にわたる発掘調査を実施している。

その結果、弥生時代前期末～鎌倉時代（約2200～700年前）の複合的な遺跡であることが明らかになっている。

本年度の調査区は、瑞花双鳥五花鏡（平安時代）が出土した3次調査区も隣接することから、奈良～平安時代の遺構検出が予想された。



遺跡の位置 (1/25,000「宇佐」)

- 遺 構
- ・袋状貯蔵穴（弥生時代前期末） 5基
 - ・竪穴住居跡（弥生時代後期） 4軒
 - ・小児用石棺墓（古墳時代） 1基
 - ・竪穴住居跡（古墳時代後期） 14軒
 - ・大型土坑（古墳時代後期） 2基
 - ・溝（近 世） 1条

- 遺 物
- ・弥生時代 甕・壺・高坏・ミニチュア土器
 - ・古墳時代 須恵器（坏身・坏蓋・甕）
土師器（甕・壺）
鉄剣・管玉
 - ・近 世 染付け碗・瓦質土器（火鉢）



A調査区（西側より）

ま と め

弥生時代後期と古墳時代後期の集落跡を中心とする弥生～近世の各種遺構が発見された。弥生～古墳時代の集落は、これまで別府から法鏡寺地区に分布していることが分っていたが、上田地区にまで広がっていることが確認された。弥生時代後期の竪穴住居跡のうち2軒は、1軒の家が使用する土器の量をはるかに超える多量の土器が出土した。さらに古墳時代の竪穴住居跡の多くは、カマドの中や周囲に須恵器の杯などを並べた状態で発見された。これらの遺構は、祭祀の痕跡と考えられ、宇佐地域の弥生～古墳時代の集落を考える上で、貴重な成果があった。



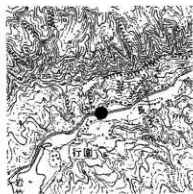
C調査区（西側より）

(川谷 浩)

遺跡名	天念寺遺跡	所在地	豊後高田市大字長岩屋
調査原因	伝統文化伝習施設建設	調査期間	平成14年2月12日～6月5日
調査機関	豊後高田市教育委員会	調査担当者	河野典之
調査面積	900㎡	時期	14世紀
		遺物の保管	豊後高田市文化財資料室

位置

豊後高田市の北部、両子山から放射状に伸びる尾根の間に形成された都甲谷の上流部、長岩屋地区のほぼ中央の天念寺本堂の右隣に位置する円重坊と呼ばれる地区で確認された。天念寺は六郷山寺院の中山本寺の一つに数えられる古刹で毎年旧正月7日に修正鬼会が催されることで知られている。



遺跡の位置 (1/25,000「両子山」)

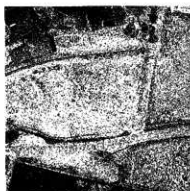
遺構

14世紀前後の遺物が出土する掘立柱建物群とそれに伴う井戸、廃棄土坑が確認された。また掘立柱建物を区切るような溝状遺構もみられる。

遺物

主な遺物としては廃棄土坑から出土した龍泉窯系青磁碗、同安窯系青磁碗、小皿といった磁器類、梵鐘の破片と思われる青銅片である。

その他に瓦器碗、土師器皿など14世紀代の土器、また遺構は確認されなかったが土壌墓に伴うと考えられる短刀など出土した。



天念寺遺跡空中写真

まとめ

今回調査対象となった円重坊地区は天念寺十二坊の一つとされる場所での坊の前身とされる坊或いは住僧屋敷が少なくとも13世紀初頭には存在したことが文献資料から確認されていた。山付に残る石塔群と同時期の遺跡が確認されたことは住僧屋敷の存在を裏付けるものとして注目されるが、掘立柱建物の規模が小さく目立つ遺物も確認されていないことから中心的な坊が存在したとする根拠には至らなかった。しかし本市教委主催の六郷山寺院の本調査は初めての事例であり、注目されるものである。

(河野 典之)

- 文献 ・ 「豊後國都甲荘の調査本編」大分県立宇佐歴史民俗資料館 1993
 ・ 「豊後高田市史通史編」豊後高田市史編纂委員会 1998
 ・ 「豊後高田市史特論編」豊後高田市史編纂委員会 1996

遺跡名	米縄遺跡	所在地	豊後高田市大字米縄
調査原因	宅地造成	調査期間	平成14年3月25日
調査機関	豊後高田市教育委員会	調査担当者	岩男真吾
調査面積	150㎡	時期	
		遺物の保管	豊後高田市文化財資料室

位置

豊後高田市の西部、大応山の麓から桂川に伸びる丘陵の中間に位置し、米縄郷の中核となる場所。周辺には割掛遺跡、米縄貝塚など多くの遺跡が周知されている。

遺構

事業予定地のほぼ全域でピットを確認。また、事業予定地の中央に向かう溝2条を確認（南北方向1条、東西方向1条）。

遺物

出土遺物は土師質の土器片のみで、時期を特定するような遺物は出土しなかった。

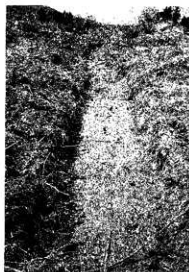
まとめ

米縄遺跡の時期は古墳時代、種別は墳墓として周知されており、今回の試掘調査ではそれに関連する遺構が確認されると思われたが、確認できなかった。しかしながら、ピットが連なる所もあり、掘立柱建物の可能性もあり、集落の可能性もでてきたと思われる。

(岩男真吾)



遺跡の位置 (1/25,000「豊後高田」)



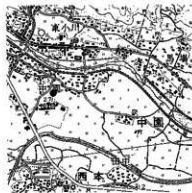
米縄遺跡試掘写真

遺跡名	光広蔵所遺跡	所在地	東国東郡安岐町大字中開字蔵所
調査原因	県官圃場整備事業	調査期間	平成13年5月28日～7月19日
調査機関	安岐町教育委員会	調査担当者	松本啓子
調査面積	1,500㎡	時期	弥生時代中期～古墳時代初期から中世
		遺物の保管	安岐町教育委員会

位置

光広蔵所遺跡は安岐町の中心部を流れる安岐川と荒木川に挟まれる平野部にあり、遺跡の西側一帯には中園集落が、南東側には水田が広がる。

近年の発掘調査により本遺跡周辺では、弥生時代中期～後期および15世紀頃の遺構、遺物を確認している。また、遺跡の南側の小規模な台地上（現安岐中学校）から、弥生時代の遺物が大量に見えられたことが聞き取り調査等からわかっている。



遺跡の位置 (1/25,000「下原」)

遺構

遺跡内を北西から南東方向に溝が走るが、この溝は遺跡外に延長する可能性が高い。この溝より南側に柱穴跡、円形状の住居跡、土坑、土坑墓等が広がる。

中世の土坑墓は3基確認した。このうち2基は並行して築かれており、残る1基はそれと直行する方向で検出した。

また、正方形の土坑を2基確認しているが、土坑内から焼土を検出していることから、火葬墓の可能性もある。

遺物

溝からは、二重口縁壺、高杯、甕、鉢等が出土している。また、溝の南側の柱穴跡からは須恵器および中世の遺物（七師質土器杯・椀・小皿等）が検出された。さらに中世土坑墓からは、刀、硯、湖州鏡、青磁椀等が出土した。

まとめ

本遺跡一帯は安岐川と荒木川に挟まれる平野部に位置する。これまでの発掘調査等により、この周辺一帯が遅くとも弥生時代中期頃から開発され、古墳時代へと続き空白の時を経て中世に再度開発されていることがうかがえる。中世宇佐宮領下であった安岐郷はすでにこの時期には集落形成がされていたことがわかっているが、本遺跡の中世土坑墓から出土した遺物（硯、湖州鏡、青磁椀）は、この土坑墓が当時安岐郷を支配していたであろう有力豪族の墓である可能性を示している。

(松本 啓子)

遺跡名	トガリ遺跡	所在地	京国東部安岐町大字中園字蔵所
調査原因	県営圃場整備事業	調査期間	平成13年7月23日～9月11日
調査機関	安岐町教育委員会	調査担当者	松本啓子
調査面積	1,800㎡	時期	弥生時代中期～古墳時代初期、中期
		遺物の保管	安岐町教育委員会

位置

トガリ遺跡は安岐町の中心部を流れる安岐川と荒木川に挟まれる平野部にあり、遺跡周辺には水田が広がる。

トガリ遺跡の東側の台地上に安岐中学校があるが、ここを造成する際弥生時代の遺物を大量に発見している。

また、トガリ遺跡の周辺には水田が広がっており、ここは本流安岐川成久イゼ掛かりの最終地点であり、遺跡の南傍には、荒木川が流れる。



遺跡の位置 (1/25,000「下原」)

遺構

遺跡内に円形住居跡4基、方形住居跡15基、柱穴跡、土坑墓1基等を検出した。

円形住居跡と方形住居跡、方形住居跡同士を重ねが数箇所確認できる。また、中央部の方形住居跡からは、ベット状遺構を確認している。この他には中世の柱穴跡等を確認した。

遺物

方形の住居跡からは甕、壺、鉢、小壺、高坏、石器類を出土している。また円形の住居跡からは鉢、二重口緑壺、甕石器類等が出土している。その他の遺構からは須恵器や土師器環などが出土している。

また土坑墓からは刀や小皿を検出した。

まとめ

トガリ遺跡の周辺には平成13年度本調査を実施した川ベタ遺跡や光広蔵所遺跡をはじめ、過去に発掘調査した光広遺跡（弥生時代中期～末期）や光広竿遺跡（15世紀）がある。また本遺跡の北側にある安岐中学校は台地上に造られているが、造成時弥生時代の遺物が大量に発見されたことがわかっている。これらのことから、トガリ遺跡周辺は遅くとも弥生時代中期頃から開発され、古墳時代へと続き空白のときを経て中世に再度開発されていることが遺構や遺物からうかがい知ることができる。

(松本 啓子)

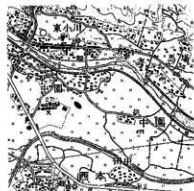
遺跡名	川ベタ遺跡	所在地	東国東郡安岐町大字中園字川ベタ
調査原因	泉宮園場整備事業	調査期間	平成13年5月7日～5月21日
調査機関	安岐町教育委員会	調査担当者	松本啓子
調査面積	1,000㎡	時期	弥生時代中期～古墳時代初期、中世
		遺物の保管	安岐町教育委員会

位置

兩子山を中心として海岸まで延びる放射状の谷間のひとつである安岐町には半島第二の河川安岐川が平野部の中心を流れる。この安岐川に吉松川、油留木川、朝米野川、俣水川が合わさって海へと注ぐ。

川ベタ遺跡は、本流安岐川と支流のひとつ荒木川に挟まれた平野部に位置し、遺跡北側には中園地区集落が在り、周辺には水田が広がる。

この遺跡北側の安岐川沿一帯は昭和36年の大災害により被害を被っており、災害後整備され現在の姿となっている。



遺跡の位置 (1/25,000「別府西部」)

遺構

約1,000㎡の遺跡内に柱穴跡、方形または不定形の土坑を数基確認した。

遺跡中央部に円形を描く柱穴跡を検出しており、円形住居跡の可能性が高い。また、ベタ柱は明確に並ぶものは確認していない。

遺物

弥生時代の遺物としては、二重口縁甕、高坏、甕を出土。

須恵器は壺、鉢、甕等を出土しており、中世にいたっては、青磁碗や土師器碗また鞆、鉄器類を検出しているが、いずれも、破片である。

まとめ

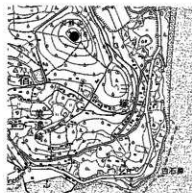
川ベタ遺跡での遺構検出は表土から10cm程度のところであり、遺構をかなり削除された可能性が強く、遺物量は少ない。遺構、遺物からは、弥生時代中期から古墳時代初期、中世の複合遺跡であり、200m西側に位置する光広蔵所遺跡と時期が重複することから何らかの関係があったことも考えられる。

(松本 啓子)

遺跡名	小熊山古墳	所在地	杵築市大字狩宿
調査原因	確認調査	調査期間	平成14年2月18日～3月30日
調査機関	杵築市教育委員会	調査担当者	平川信哉
調査面積	60㎡	時期	古墳時代
		遺物の保管	杵築市教育委員会

位置

市東部の美濃崎地区の別府湾を一望できる場所に立地し、南側約600mに大型円墳御塔山古墳を望むことができる。古墳は、小熊山の山頂部に立地し、対岸の大分海部地域を望むことができる。古墳時代前期中葉の全長120mの累下最大規模の前方後円墳である。



遺跡の位置 (1/25,000「住吉浜」)

遺構

墳丘西側くびれ部へのトレンチ調査の結果、古墳築造時のものと思われる葺石を検出。上位より崩落した人頭大の葺石の中から、多量の埴輪片が発見された。

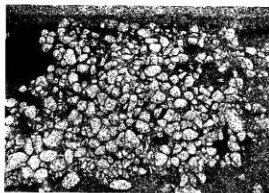
遺物

壺型埴輪、円筒埴輪。

まとめ

これまでの試掘調査での出土例のなかった形式の埴輪の出土や前方部2段目へと延びると思われる石列が確認された。

(平川 信哉)



くびれ部2段目石積

遺跡名	円通寺遺跡4次調査		所在地	別府市大字北台堰ウト井手	
調査原因	学校校舎建設		調査期間	平成13年4月2日～5月30日	
調査機関	別府大学文化財研究所		調査担当者	下村智・野村俊之	
調査面積	590㎡	時期	弥生・古墳	遺物の保管	別府大学

位置

北側を東流する平田川と春木川に挟まれた台地の標高43～44mの東側緩斜面に位置し、第3次調査地点の東に隣接する。基盤は火山噴出物の角閃石安山岩を中心とした礫層および一部砂層である。

遺構

弥生時代後期後半から終末にかけての集落が中心である。当該期の竪穴式住居9軒、上坑竊1基、土坑1基、溝状遺構1条、性格不明の礫集積遺構1基、及び同時期と考えられる掘立柱建物9棟、ならびに6世紀末～7世紀初頭の小型穴1基を検出した。

この内SC-03は一辺約8.5mを測る大型の隅丸方形竪穴式住居で、仿製鏡が出土しており、集落の中心的建物であったと言える。

遺物

各遺構および包含層より弥生時代後期後半から終末にかけての上層片を中心に、一部土師器、須恵器も出土している。その他主に住居址内から鉄、刀子、ヤリガンナ等の鉄製品、石包丁、磨製石斧、砥石、擦石、敲石等の石器、管玉、仿製内行花文鏡等が出土しており、集落の性格を示すものといえる。

まとめ

鉄器の集中的な出土や別府市ではじめて仿製鏡が出土した大型竪穴住居の存在から、本遺跡は別府湾深奥部の拠点集落の中心地域と考えられる。

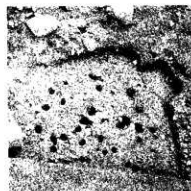
今後の調査区では、竪穴式住居、掘立柱建物それぞれ一定の場所に集中する傾向が見られた。これは、基盤層に含まれる礫の粗密による掘削の難易によって生じたものではあろうが、同時に集落構造と建物の後続の関係を考える上で注目すべきである。

なお礫集積遺構から沼鉄鉱や赤色顔料塊を検出しており、本遺跡内での顔料製作を示唆するものであろう。

(野村 俊之)



遺跡の位置 (1/25,000「別府西部」)



SC-03完備状況 (東から)

遺跡名	円通寺遺跡5次調査	所在地	別府市大字北石垣
調査原因	学校校舎建設	調査期間	平成13年6月1日～7月16日
調査機関	別府大学文化財研究所	調査担当者	下村智・野村俊之
調査面積	585㎡	時期	弥生・古墳
		遺物の保管	別府大学

位置

北側を東流する平田川と春木川に挟まれた標高47mの台地上に位置する。

本台地上の円通寺遺跡は現在まで5次にわたり調査が実施されており、本調査地点は第1次調査地点の南に隣接する。

基盤は火山噴出物の角閃石安山岩を中心とした礫層および、一部砂層である。

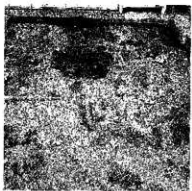


遺跡の位置 (1/25,000 「別府西部」)

遺構

弥生時代後期後半から終末にかけての集落が中心である。当該期の竪穴式住居9軒、土坑墓1基、土坑1基、及び同時期と考えられる掘立柱建物6棟、ならびに6世紀末～7世紀初頭の竈を伴う小竪穴2基を検出した。

住居址および小竪穴は特定箇所集中し、切り合いも著しい。基盤層における礫の密度による掘削の難易が選地を規制したものと考えられる。



円通寺5次調査掘時点全景 (西から)

遺物

各遺構及び包含層から弥生時代後期後半から終末にかけての遺物を中心に、一部土師器須恵器も出土している。

その他鐵、刀子、鑿、鉄斧等の鉄製品、磨製石鏃、砥石、擦石、敲石、スクレーパー等の石器、ガラス小玉等を各住居址で検出した。

まとめ

1、3～4次調査地点と同一又は隣接する集落群であると考えられ、当該期に連続して生活拠点が営まれるものと考えられる。

弥生時代後期後葉の竪穴式住居SC-03より鉄製鑿及び小鉄片が出土しており、他住居に切られているため全容は把握し得ないが、鉄器の生産、加工を考える上で重要な資料である。

(野村 俊之)

遺跡名	大友氏館跡第10次調査	所在地	大分市顕徳町3丁目
調査原因	確認調査	調査期間	平成13年12月10日～平成14年3月11日
調査機関	大分市教育委員会	調査担当者	池邊千太郎・羽田野裕之
調査面積	75㎡	時期	戦国時代
		遺物の保管	大分市文化財資料室

位置

大友氏館跡は、大分市顕徳町3丁目に位置し、推定大友氏館跡の範囲内にあたる。第10次調査区では二つの調査地点(A・B地点)を設定し、A地点は第9次調査を含む位置である。B地点はA地点より約10m南側の位置に設定した。



遺跡の位置 (1/25,000「大分」)

遺構

A区からは、調査区北側に東西方向に延びる数条の溝状遺構、南北に延びる溝状遺構、柱穴を確認した。B区からは4面の遺構検出面を確認した。特に4面の不定形な廃棄土坑(SK040)と、3面の厚さ約40cmの整地層に多量の京都系土師器の一括廃棄行為について注目される。

遺物

A区の溝状遺構からは、中国産白磁碗・陶器壺が出土し、上層の整地層からは、漳州窯系染付皿等が出土している。B区からは、3面整地層から多量の京都系土師器が出土し、4面の廃棄土坑からは、京都系土師器以外にロクロ成形土師器、中国産白磁皿・染付皿が出土している。



調査区全景

まとめ

今回の調査では、A区において推定大友氏館跡の北側外郭線にあたる東西方向の溝を確認したことは重要な所見である。また、この溝状遺構は同一場所・同一方向に幾度となく掘削が行われており、長い期間にわたって区画を目的とした遺構であったことが示唆される。B区では、多量の京都系土師器が廃棄された遺構と、整地地業段階における京都系土師器の大量廃棄行為が確認された。

(池邊千太郎)

文献 ・ 『大分市市内遺跡確認調査2001年』大分市教育委員会 2003

遺跡名	大友氏館跡第11次調査	所在地	大分市源徳町
調査原因	範囲確認調査	調査期間	平成13年12月13日～平成14年3月4日
調査機関	大分市教育委員会	調査担当者	永松正大
調査面積	48.5㎡	時期	中世
		遺物の保管	大分市文化財資料室

位置

大友氏館跡は、大分川河口付近の左岸に南北に広がる中世大友府内城下町のほぼ中央付近に位置する。調査区は、大友氏館の中央部よりやや東側で、大友氏館跡第6次調査区B地点の東西にトレンチを設定した。調査区は、周辺地形より約50cm程高い状況が窺取される。

遺構

大友氏館跡第6次調査で確認された大型建物に関連すると思われる礎が詰まった土坑、及びその周辺に配置する土師器の大量廃棄が行われたと想定される土坑等が発見されている。

遺物

最も多く出土しているのは、京都系土師器やロクロ成形土師器などで、全体の9割を占める。土師器の資料には法量分化が見られた。他に、中国産染付碗C群・E群、染付皿、華南三彩片(袋物?)、加工土製品(ハジキ)等が出土している。

まとめ

今回の調査では、大型建物に関連する土坑の配置状況と、周辺に位置する廃棄土坑の存在、また出土する法量分化した京都系土師器とロクロ成形土師器の大量出土から、儀式・儀礼にともなう空間であると考えられる。今後、大型建物関連土坑の配置状況の詳細な調査による、遺構の性格付けが必要であると思われる。

(永松 正大)

- 文献 ・ 『大友館跡発掘調査概報Ⅱ』大分市教育委員会 2001
 ・ 『大分市市内遺跡確認調査概報-2001年度-』大分市教育委員会 2002
 ・ 『大友氏館跡発掘調査概報Ⅲ』大分市教育委員会 2002



遺跡の位置 (1/25,000 「大分」)

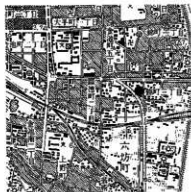


大型建物関連遺構

遺跡名	中世大友府内町跡第14次調査	所在地	大分市顕徳町3丁目
調査原因	マンション建設	調査期間	平成13年5月～10月
調査機関	大分市教育委員会	調査担当書	池邊千太郎・上野淳也
調査面積	104㎡	時期	戦国時代
		遺物の保管	大分市文化財資料室

位置

中世大友府内町跡第14次調査区は、大分市顕徳町3丁目に位置し、「府内復元想定図」において、唐人町に比定される地区に位置する。「天正十六年参宮帳」には、「桑んはい」、「けんさん」、「ふくまん」、「月山」などの大陸系の人名が記載されており、そうした人々が住んでいたと考えられるところである。



遺跡の位置 (1/25,000「大分」)

遺構

遺構検出面は、戦国期の第1面、古代の第2面が存在する。主要遺構の形成時期は、16世紀第3四半期中心とする。遺跡中央部分に、掘立柱建物が存在するため、その建造物を通じて遺構形成が展開する。

16世紀後半……井戸遺構 (SE100・SE230・SE240・SE250・SE260・SE270)

連続上坑群 (SX121・SX399・SX429)、掘立柱建物跡。



調査区全景

遺物

16世紀後半……在地系土師器 (B群)、京都系土師器 (C群)、中国産染付E群、扇形分銅、埴塼、輪羽口、石臼、華南三彩、ガラス製品 (青・白)

16世紀末葉……京都系土師器 (C群)、中国産染付F群、瀬戸美濃産天目碗、唐津系陶器碗、コビキB調整瓦

まとめ

井戸をはじめとする生活遺構、区画性を表す遺構、掘立柱建物などこれらの遺構から出土する遺物が連鎖的に接合できることから、同時に放棄行為が行われたと解釈できる。そして、井戸跡SE240においては、瀬戸美濃産陶器と共に唐津焼、コビキB調整痕跡の瓦が共存する事例から、島津侵攻時 (1587)、もしくは慶長の大地震 (1593) の際に放棄されたことを示す可能性も考えられる。

(池邊千太郎)

遺 跡 名	玉沢地区条里跡第3次調査	所 在 地	大分市大字木上字錦手1番1
調 査 原 因	朝田新都心西部十地区画整理事業	調 査 期 間	平成13年6月4日～平成14年3月30日
調 査 機 関	大分市教育委員会	調 査 担 当 者	甲斐 猛他
調 査 面 積	1,940㎡	時 期	古墳～中世
		遺物の保管	大分市文化財資料室

位 置

遺跡は大分川の支流、七瀬川左岸の沖積低地に所在し、周辺には条里状地割がよく残る水田地帯が広がっている。

遺 構

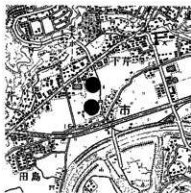
調査区北側の1区では、緩斜面に古墳時代前期の小区画水田が37区画、水田の南側では流路及び水口が確認された。水口はほぼ同じ場所で4回作り替えられている。また、古墳時代前期の水田遺構の上面からは9世紀前半に比定される大畦畔、水口、流路が検出され、その水田区割は小区画水田と同一方向であった。しかし、大畦畔を掘削する9世紀中頃の水田層が確認されており、この段階で水田の改変・拡張が行われたと考えられる。1区の南側に位置する3区では、14世紀代に畑跡、東側の微高地からは4世紀中頃の竪穴住居跡が3基検出された。

遺 物

土師器環（9世紀前半）、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1-a類、和泉型瓦器碗、東播系須恵器鉢、小型丸底壺、高環など。

ま と め

今回の調査は、周辺に現存する条里状地割の形成時期を解明する端緒になったといえる。また、小区画水田より下層からも弥生時代の水田層が確認されており、今後の調査による水田遺構の発見が期待される。



遺跡の位置 (1/25,000「大分」)



1区全景

(甲斐 猛)

遺跡名	横尾遺跡第82次調査	所在地	大分市大字横尾2241-1
調査原因	横尾土地区画整理事業	調査期間	平成12年10月10日～平成13年8月23日
調査機関	大分市教育委員会	調査担当者	堀地潤一
調査面積	2,140㎡	時期	縄文・中世
		遺物の保管	大分市文化財資料室

位置

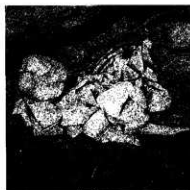
横尾遺跡は市街地より南東へ約7.5kmの大分市東部に位置し、県内最大河川である大野川の支流、乙津川下流左岸に沿って南北方向に広がる鶴崎丘陵上に展開する。第82次調査区は丘陵東端の尾根先端部にあたる標高約8～13mの緩やかな傾斜地に所在する。

遺構

標高約4m地点のグライ土層を基盤面とする遺構群として縄文時代後期前葉に比定されるドングリ貯蔵穴6基(SK050・051・052・055・063・067)と土坑2基(SK064・066)が確認された。また、噴砂の痕跡が認められるアカホヤ火山灰層ならびに砂層の下位にあたる標高約3m地点の泥炭層中から、建築部材などの加工材を利用した水場の遺構が確認された。その遺構内部からはカゴに収納された状態で姫島産黒曜石が出土している。収納された黒曜石は現状で69個以上の剥片と石核によって構成されており、平面台形状に集石されている。



遺跡の位置 (1/25,000「鶴崎」)



黒曜石出土状況

遺物

西和田式深鉢、中津式深鉢、小池原下層・上層式深鉢、コウゴ-松式深鉢、西平式深鉢、条痕文土器片(3点)、磨製石斧、打製石斧、石皿、磨り石、石鏃、石鏃、ドングリ、カゴ、姫島産黒曜石など

まとめ

今回の調査で横尾貝塚周辺に縄文時代の生業関連遺構の存在が明らかとなった。横尾貝塚一帯は縄文集落の解明をはじめ、劇的な環境の変化に適応した生業の分化や定住化の実態を検証・復元し得る極めて重要なモデルゾーンと判断される。さらに、アカホヤ火山灰層の下層から発見された縄文時代早期に比定される遺構については縄文人の生活スタイルの確立という重大な問題を解き明かす鍵となり得るものである。これらの残存状態は極めて良好であり、今後の調査の進展が大いに期待される。

(堀地潤一・奥村義貴・小住武史)

- 文献 ・ 「横尾貝塚周辺の発掘調査」『考古学ジャーナル』
No.482 ニュー・サイエンス社 2001
・ 「大分市 市内遺跡確認調査概報-2001年度」
「横尾遺跡」大分市教育委員会 2002

遺跡名	蛭門前遺跡	所在地	庄内町大字東長宝字南729-9
調査原因	分譲宅地造成に係わる試掘調査	調査期間	平成13年7月23日～25日
調査機関	庄内町教育委員会	調査担当者	後藤絹枝
調査面積	8,000㎡	時期	遺物の保管

位置

庄内町の東部で国道210号線より町道長宝団地線に入り長宝団地の東側・町道白牡丹原間田線沿い。



遺跡の位置 (1/25,000「小野里」)

遺構

縄文晩期の包含層と時期不明の土坑2基を確認。

遺物

3層上層に縄文晩期土器（遺物包含層）4層に掘り込む土坑を発見。

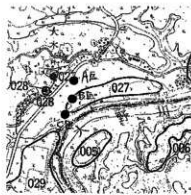
まとめ

調査は、造成予定地8,000㎡の全域を対象として幅1.5～2m、長さ10～20mのトレンチ20本を設定して、遺構及び遺物の存否確認を行い対象地において、3層上層に縄文晩期土器、4層に掘り込む土坑を発見したため、当該地区は新たに遺跡として周知された。（後藤 絹枝）

遺跡名	大木遺跡	所在地	千歳村大字下山字大木191番地1ほか
調査原因	県営岡端整備事業	調査期間	平成13年11月19日～平成14年1月18日
調査機関	千歳村教育委員会	調査担当者	豊田徹士
調査面積	3,901㎡	時期	弥生時代他
		遺物の保管	千歳村教育委員会

発掘調査の概要

調査対象地は、大野川河岸段丘上。川に向かってやや傾斜している。調査地点は3カ所に分かれているためA区、B区、C区の任意の地区を設定し調査を行った。A区では、弥生時代後期終末期とみられる住居跡と掘立柱建物跡が検出された。またB区では時期不明の竪穴住居跡3基と同じく時期不明の土坑が検出、C区では、溝状遺構とピット群が検出された。遺物量が少なく遺構深度も極端に浅いため、遺構面への耕作による削平がかなり及んでいるものと考えられる。遺物は弥生時代後期終末期の土器片、船載の青磁片、土器器小皿片も数点出土している。（豊田 徹士）



遺跡の位置 (1/25,000「田中」)

遺跡名	佐伯城下町	所在地	佐伯市宇城山、城下東町776番2
調査理由	治山工事	調査期間	平成13年4月16日～6月19日
調査機関	佐伯市教育委員会	調査担当者	吉武牧子
調査面積	301.8㎡	時期	近世
		遺物の保管	佐伯市教育委員会 社会教育部

位置

佐伯城下町は、佐伯城の築かれた城山の南東部に広がる番匠川河口の沖積地に建設された。現在の市街地はこれを基礎に発展したものである。調査地点は、城山東麓に伸びる武家屋敷通りの一面に位置する屋敷跡である。付近一帯は藩主の菩提寺や上級武士の屋敷地の並ぶ区域であり、現在でも当時の雰囲気を与える場所として、佐伯市歴史的環境保存地区に指定されている。



遺跡の位置 (1/25,000「佐伯」)

遺構

調査区内で石垣4基と土坑2基を確認。石垣は標高の高い順に1～4号石垣とした。調査区は城山山麓の斜面と斜面を整地した4つの平場（第1～4平場）から成る。石垣は3号を除き高さの低い簡易な構造であり、最上部の1号以外は平場を維持するために築かれたものと考えられる。第1平場で検出された2基の土坑はいずれも不定形で、若干遺物が出土したものの、遺構の性格は不明である。また、第1、第2平場では城山斜面からの流れ込みと考えられる礫群を多く検出した。



3号石垣全景

遺物

主に第1及び第2平場の整地層から近世陶磁器、土器類が出土した。遺物量は少なくしかも多くは碎片であり、肥前産磁器を中心に関西産陶器、堺産鉢等で構成される。

まとめ

今回の調査地点が描かれた最も古い絵図は元文3年のもので、この時点ですでに武家屋敷地として利用されていたことが確認される。文政9年及び明治初頭頃の絵図では、山中家及び竹中家の区画の一部となっているが、調査では建物の基礎や柱穴などは検出されなかった。整地層と推定される2層出土の肥前磁器の年代から、19世紀前半代にこの地で整地が行われたと推定される。

(吉武 牧子)

遺跡名	古賀遺跡群 (上向原遺跡)		所在地	直人郡荻町大字藤波字上向原	
調査原因	ファームボンド建設工事		調査期間	平成13年10月31日～平成14年2月22日	
調査機関	荻町教育委員会		調査担当者	荒井 孝廣	
調査面積	700㎡	時期	弥生	遺物の保管	荻町教育委員会

位置

遺跡は、荻町の西北藤波川と馬渡川に挟まれた台地上に位置する。町道を挟んだ対面には、昭和50年代に大規模な農業基盤整備に伴って発掘調査された古賀遺跡が確認されている。今回実施された調査区は古賀遺跡と谷を隔てた小高い台地上に位置する。



遺跡の位置 (1/25,000「概町」)

遺構

調査区は便宜上、パイプライン埋設部分とファームボンド設置部分（前者をA区、後者をB区）の2カ所に分けた。A区は調査区が狭長なため、各遺構の正確なプランを確認することはできなかった。竪穴式住居6基と土塀1基、多数の柱穴が検出されている。5号住居跡は、断面から焼土が2層に重なった状態で確認されている。これはある期間遺構を利用した後、同じ場所に遺構を立て替えたことが推定される。

また、調査区の南側より幅1m～1m50cmの溝状遺構が2条確認されている。

B区からはA区の竪穴式住居と同時期に比定される竪穴式住居が2基検出されている。

1号住居跡は、東壁部より磨製石鏃の製作過程の段階にある剥片が数点確認されており、このことから石鏃を製作する工房的な建物であったと推定される。

A・B区とも同時期の様相を呈し、弥生時代後期後葉から終末期の範囲に入る集落跡であろうと考えられる。

(荒井 孝廣)



遺跡名	茶屋の元・上後迫遺跡（上後迫B遺跡）	所在地	重入郡荻町字桑木字上後迫他
調査原因	ファームポンド建設工事	調査期間	平成13年10月31日～12月28日
調査機関	荻町教育委員会	調査担当者	荒井孝廣
調査面積	600㎡	時期	弥生
		遺物の保管	荻町教育委員会

位置

遺跡は、荻町の中心部荻町の西方桑木に位置し、北に藤渡川、南に山崎川の広い台地上に位置する。県道竹田・高森線の沿線部、桑木公民館の道路を挟んだ小高い丘状の地形に遺跡が存在する。



遺跡の位置（1/25,000「豊後柏原」）

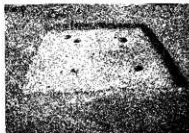
遺構

調査面積は600㎡を測り、その調査範囲からは竪穴式住居が13基と柱穴が少数検出されている。竪穴式住居は、一辺が約7mのものから約5mのものまで、ほぼ同等のプランを形成する。

遺物

遺構の残存状況が良好であったため、ほとんどの遺構より遺物が多数確認されている。5号住居跡からは、弥生時代後期後葉に位置づけられる粗製甕の完型品が、遺構の床面に横たわる状態で検出されている。

また、6号竪穴住居跡より肥後地方で見受けられる「兔田式土器」の長頸壺の一部が床面より確認されている。



まとめ

遺跡は大野川上流域に展開する台地群に立地し、昭和50年代の大規模な圃場整備が付近一帯で実施され、弥生時代から古墳時代に至る数多くの集落遺跡が周辺域で確認されている。今回の調査では、過去に実施された調査と同様な、弥生時代後期前葉期から終末期にかけての集落跡の確認がされており、遺物が多数出土している。

（荒井 孝廣）

遺跡名	大肥条里吉竹地区	所在地	日田市大字大肥字櫻町453ほか
調査原因	県営圃場整備事業	調査期間	平成13年4月9日～5月24日
調査機関	日田市教育委員会	調査担当者	渡邊隆行
調査面積	8,270㎡	時期	古墳後期～古代
		遺物の保管	日田市教育委員会

位置

遺跡は大肥川が鶴河内川と合流する地点の手前に位置し、やや開けた標高111m前後の河岸段丘上に位置する。福岡県との県境にあたり、北にいくと宝珠山村を通り添田方面へ抜け、南には大肥側沿いに大肥条里中村地区、祝原地区、西には大肥条里下河内地区が所在する。



遺跡の位置 (1/25,000「日田」)

遺構

調査区からは、縄文時代後期の土坑1基、古墳時代の住居跡8基、古代の住居跡16基、時期の明確でない住居跡8基、掘立柱建物9基、竪穴状遺構6基、土坑約20基、溝4条、流路5条、ピット多数、包含層、中世水田層が検出された。遺構は明黄褐色砂質土層を掘り込み形で検出され、この層自体も古墳期の遺物包含層であることから、大肥川の氾濫を繰り返して形成された層の上に集落が営まれていたものと思われる。



遺跡全景

遺物

縄文時代の後期の船元系土器が出土しており、また、古墳時代の遺物としては須恵器坏身・坏蓋が、古代の竪穴遺構からは瓦、住居跡からは「□度六」（16号住居跡）、「□度四」（18号住居跡）の字が底面に朱墨にて書かれた須恵器坏身が出土した。いずれも8世紀代の所産であると考えられる。

まとめ

船元系土器の出土は日田市内でも初めての出土例であり、豊前と筑後を結ぶ交通の要所としての日田地域、特に大鶴地域の特徴を表しているものと思われる。また6世紀中頃～8世紀代の住居跡群とそれらを囲む溝の存在は、一過性の集落の造営ではなく、この地域の中心となる集落であった可能性が考えられる。このことを示すように、このような状況は、この遺跡が古代の官衙等の施設であった可能性も考えられる。「豊後国風土記」では日田には5郷（在田・夜閉・亘理、刃速、石井）があったと解釈されており、そのうちの夜閉郷にあたる可能性も視野に入れる必要がある。このように、今回の成果はこれまで明らかにされていなかった大鶴地区の古代の集落がどのように形成されていったのかを明らかとする貴重な資料となるものと考えられる。

(渡邊 隆行)

遺跡名	穴観音古墳	所在地	日田市大字内河野字倉瀬9
調査原因	範囲内容確認	調査期間	平成14年2月12日～3月27日
調査機関	日田市教育委員会	調査担当者	若杉竜太
調査面積	62㎡	時期	古墳後期
		遺物の保管	日田市教育委員会

位置

古墳は日田盆地の中央部を流れる三隈川の左岸の標高約120mの台地上に位置する。古墳の周辺には後期旧石器時代から近世までの遺構、遺物が見つかっている長者原遺跡があり、日田市内でも数少ない複合遺跡である。中でも平成12年に行われた4次調査では弥生時代後期前半、同中頃～後半、古墳時代初頭の環濠や5世紀頃の竪穴式石室、箱式石棺などが見つかっている。



遺跡の位置 (1/25,000「日田」)

遺構

今回の調査では、墳丘の周辺に8本のトレンチを設定し、周溝の有無の確認をおこなった。その結果、8本全てのトレンチから周溝が確認された。周溝の規模はいずれも幅70～80cm、深さ50～60cmである。また、1トレンチでは上面が削平されていたものの、版築による墳丘盛土が確認された。

この他古墳の北側と東側では周溝を切る中世期の溝が確認された。



古墳全景

遺物

須恵器坏蓋や甕、土師器高坏などが出土した。須恵器の時期は6世紀後半のものも含まれていたが、6世紀末～7世紀初頭のものが中心であった。

その他、白磁碗など中世の遺物も少量出土した。

まとめ

今回の調査により、これまで確認できていなかった周溝の存在を確認することができた。これにより、周溝までを含めた古墳の規模は径約25mになり、この時期の円墳としては、大型のものであることが判明した。

(若杉 竜太)

文献 村上久和「穴観音古墳」淡谷忠章他編『大分の装飾古墳』

大分県文化財調査報告書第92輯 1995

遺跡名	粟野遺跡	所在地	九重町大字粟野字広長
調査原因	国場整備	調査期間	平成13年10月9日～12月17日
調査機関	九重町教育委員会	調査担当者	竹野孝一郎
調査面積	3,238㎡	時期	弥生～古墳、古代、近世
		遺物の保管	九重町歴史資料館

位置

粟野遺跡は、大分県玖珠郡九重町大字粟野字広長に所在する。周縁は大分県下の玖珠町・湯布院町・庄内町・久住町及び熊本県阿蘇郡小国町・南小国町の2県6町と境を接し、肥後・筑後地方と結ぶ交通の要所となっている。粟野遺跡の立地する台地は、玖珠盆地の南側万年山溶岩台地の北に展開する扇状地の末端部に立地し、玖珠川が狭小な山間部から平坦な盆地部へと交換する地域にあたる。



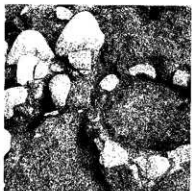
遺跡の位置 (1/25,000「豊後森」)

遺構

弥生時代末～古墳時代初頭 住居跡
近世 石組溝・窯状遺構・石敷遺構・土坑・井戸

遺物

縄文時代 扁平打製石斧・石鏃
弥生時代末～古墳時代初頭 土器
中世 輸入陶磁器
近世 陶磁器・土鈴・土師器小皿・銭・錠前



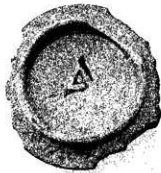
まとめ

文禄2(1593)年朝鮮において秀吉の勘気につれ、大友吉統は改易され、大友氏の家臣団も改易を契機に浪人化し、所領であった村に在村し村落共同体の上に君臨した。そのような中で兵農分離が実施され、多くの小領主層は帰農することになった。

粟野村庄屋森氏は玖珠清原氏の一族で、森氏「系図」によると森大蔵兼永親子は大友氏が改易された後、森氏数代の領知であった粟野村に帰農したという。

粟野遺跡は近世の粟野村庄屋森氏の屋敷跡といわれ、「寛太良」銘の墨書陶器が出土したことによって伝承が裏付けられた。寛太郎は、粟野村最後の庄屋である。

屋敷跡で検出された窯状遺構には排水溝が付属していることから「五右衛門風呂」の窯跡と判断され、風呂遺構の検出は他府県でも例を見ないと思われる。



(竹野孝一郎)

V. 平成13年度埋蔵文化財発掘調査一覧

№	遺跡名	所在地	調査年度	調査担当者	調査面積	調査期間	調査内容	調査機関	取り扱い
1	神代地区東部-3遺跡地区	中津市中央町丁1132-1	中津市教委	花崎 龍	493㎡	011003-011040	溝・畦	アパ-ト建設	工事停止
2	神代地区東部-4遺跡地区	中津市大字上知水1322-1	中津市教委	花崎 龍	200㎡	010910-010911	遺溝、遺物なし	駅前開発	工事停止
3	神代地区東部-5遺跡地区	中津市大字上知水1322-1	中津市教委	花崎 龍	900㎡	011126	遺溝、遺物なし	アパ-ト建設	工事停止
4	中津城跡	中津市1250番地地区	中津市教委	高橋 幸子	958㎡	020107-020239	近世の溝渠、石垣	道路改良	掘土保存
5	中津城-北園遺跡	宇佐市大字北園寺	宇佐市教委	江藤 和幸	920㎡	010514-010516	近世時代の倉庫、築地時代の不定型土	築地調査	掘削調査
6	黒川-黒土遺跡	宇佐市大字黒土	宇佐市教委	林 一也	420㎡	010925-010927	遺溝、遺物なし	宅地の開発	掘削調査
7	黒土遺跡	宇佐市大字黒土	宇佐市教委	江藤 和幸	500㎡	010927-020229	天正築城時の壁と遺物1棟、耳環など	住宅地の開発	掘削調査
8	辰橋寺寺域跡	宇佐市大字辰橋寺	宇佐市教委	川谷 浩	890㎡	020122-020229	古時代の古瓦葺の壁・土の礎石遺構等	辰橋寺の復元	掘削調査
9	川原遺跡	宇佐市大字川原	宇佐市教委	林 一也	100㎡	010601-010629	弥生時代の環溝	川原遺跡工事	本調査・工事停止
10	中津城遺跡	宇佐市大字上山	宇佐市教委	川谷 浩	1,500㎡	010614-020229	築一・二世紀代以降の溝、土の礎石など	道路建設	本調査・工事停止
11	法蔵寺遺跡	宇佐市大字法蔵寺	宇佐市教委	佐藤良二朗	2,800㎡	011119-020231	古墳時代の土器、中世の瓦など	市道拡充工事	本調査・工事停止
12	蓮宗寺遺跡	宇佐市大字山本	宇佐市教委	林 一也	350㎡	020119-020222	近世の不定形土	下水道工事	工事停止・工事停止
13	別所-黒土遺跡	宇佐市大字別所	宇佐市教委	江藤 和幸	1,400㎡	011225-020128	弥生時代の住居跡1棟、ピット	市道拡充工事	本調査・工事停止
14	大分市東部地区	豊後高田市長古田	豊後高田市教委	岡野 典之	900㎡	020212-020231	陶器1棟、縄文土器遺物等	商業開発建設	本調査・工事停止
15	東津遺跡	豊後高田市長古田	豊後高田市教委	竹野 昌彦	150㎡	020225	ピット遺	宅地造成	掘削工事
16	東行遺跡	福岡市東区北原1丁目	福岡市教委	永野 謙博	116㎡	010404	遺溝、遺物なし	福岡市住宅建設	掘削工事・工事停止
17	水行遺跡	福岡市東区北原2丁目	福岡市教委	藤原史郎	1,125㎡	010724	遺溝、遺物なし	共同住宅建設	掘削工事
18	香木元遺跡	福岡市大字北石原	福岡市教委	藤原史郎	1,295㎡	010424-010511	土師器・弥生土器	福岡市道路建設	本調査・工事停止
19	香木元遺跡	福岡市大字北石原	福岡市教委	藤原史郎	532㎡	010718	遺溝、遺物なし	市道拡充工事	掘削工事
20	香木元遺跡	福岡市大字北石原	福岡市教委	藤原史郎	136㎡	020129	遺溝、遺物なし	共同住宅建設	掘削工事
21	福岡市指定史跡「黒土」	福岡市大字鶴見	福岡市教委	藤原史郎	900㎡	010703-011116	弥生遺構(埴輪)・石瓦・陶器・土器	共同住宅建設	本調査・工事停止
22	小倉山古墳	丹波市大字古墳	丹波市教委	平岡 信哉	40㎡	020219-020230	埴土・埴輪	墳墓の調査	掘削調査
23	川べつ遺跡	豊田郡豊田安城町中園	豊田郡教委	松本 晋子	1,500㎡	010507-010521	弥生、古墳、中世の土器等	地盤調査	本調査・工事停止
24	光沢川遺跡	豊田郡安城町中園	豊田郡教委	松本 晋子	1,500㎡	010528-010719	弥生、古墳、中世の遺物等	住宅開発建設	本調査・工事停止
25	トガリ遺跡	豊田郡安城町中園	豊田郡教委	松本 晋子	1,800㎡	010723-010911	弥生、古墳の住居跡・中世の土器	住宅開発建設	本調査・工事停止
26	豊後高田第32次	大分市大字黒塚2241-1	大分市教委	堀田 義一	2,140㎡	010110-010823	2人ぐり跡・木釘の遺構・漆喰付石垣	区画整理事業	本調査
27	豊後高田第33-2次	大分市大字黒塚2241-1	大分市教委	堀田 義一	88㎡	010912-011030	土師器(瓦)等	掘削調査	掘削調査
28	豊後高田第33-3次	大分市大字黒塚2241-1	大分市教委	堀田 義一	495㎡	010507-020108	溝状遺構(中世)・地溝溝敷遺構	区画整理事業	本調査
29	豊後高田第35次	大分市大字黒塚2241-1	大分市教委	堀田 義一	133㎡	020129-020314	柱穴	区画整理事業	本調査
30	下津遺跡第132次	大分市大字下津甲1774-3	大分市教委	永松 正大	168㎡	010405-010531	中世築物の土、土蔵、駒込人形、土器土師器類	区画整理事業	本調査
31	下津遺跡第133次	大分市大字下津甲1287-3	大分市教委	永松 正大	79㎡	010801-020328	近世築物跡・溝状遺構・瓦葺土師器	区画整理事業	本調査
32	下津遺跡第134次	大分市大字下津甲2360-1	大分市教委	永松 正大	300㎡	010823-020328	溝状遺跡・石造物・瓦葺土師器	区画整理事業	本調査
33	下津遺跡第135次	大分市大字下津甲2715	大分市教委	永松 正大	155㎡	011205-020328	孤立柱礎遺跡・溝状遺跡・瓦葺土師器	区画整理事業	本調査
34	下津遺跡第136次	大分市大字下津甲2879-3	大分市教委	永松 正大	417㎡	011120-020328	孤立柱礎遺跡・二層階・住居跡	区画整理事業	本調査
35	下津遺跡第137次	大分市大字下津甲2923-3	大分市教委	永松 正大	508㎡	011201-020328	住居跡・溝状遺跡・自然瓦	区画整理事業	本調査
36	下津遺跡第1485番外1486番	大分市大字下津甲加納	大分市教委	藤田千太郎	2,300㎡	010117-010829	積穴蔵人形土蔵・9階土蔵 竪石部土蔵・土蔵・土器	宅地造成	本調査
37	中津大友町内町第14次	大分市東部町町4460番	大分市教委	池田千太郎	104㎡	010515-011020	高麗土瓦・片葺ガラス瓦葺土蔵 京都土師器	マンション建設	本調査
38	中津大友町内町第15次	大分市東部町町3丁14	大分市教委	堀井 光司	500㎡	010524-010917	中世築物の北側に伴う溝状遺構 豊田三形・赤土師器	商業建設	本調査
39	中津大友町内町第16次	大分市大字北町4460-1	大分市教委	高橋 豊	108㎡	011127-020212	縄文時代の片葺土蔵・土瓦・埴土器 赤土師器・赤土師器	掘削調査	本調査
40	大友北町第10次	大分市東部町町3丁目	大分市教委	池田千太郎	75㎡	011210-020304	大友北町南遺跡・高橋十次	掘削調査	掘削調査
41	大友北町第11次	大分市東部町町3丁目	大分市教委	永松 正大	49㎡	011213-020304	京都瓦葺土蔵・赤土師器	戦跡調査	掘削調査
42	東川町遺跡第2次	大分市東部町町223-1-1	大分市教委	高橋 豊	430㎡	010607-010920	弥生中期の貯蔵穴 古墳前期の竪穴住居跡・片葺土蔵	都市計画建設	本調査
43	大友遺跡第1次	大分市東部町町1108-5/6/9	大分市教委	藤原 典幸	600㎡	011119-020328	古墳時代-中世の溝状遺跡・土師器 土師器・土師器	区画整理事業	本調査
44	三武地区東部	大分市大字下津甲新田23	大分市教委	平野 肇	2,100㎡	010709-010920	古墳時代-中世の本田遺構	区画整理事業	本調査
45	川生遺跡群	大分市大字川生町14-1	大分市教委	堀井 光司	1,507㎡	011026-011207	縄文時代-近世	住宅建設	掘削調査
46	下津遺跡群	大分市大字下津甲24484-1 1443-1	大分市教委	永松 正大	18㎡	010704	宅地造成工事	掘削工事	
47	下津遺跡群	大分市大字下津甲24484-1 1443-1	大分市教委	永松 正大	20㎡	010718	土師器破片	宅地造成工事	掘削工事
48	下津遺跡群	大分市大字下津甲24484-1 1443-1	大分市教委	永松 正大	18㎡	010730	土師器破片	宅地造成工事	掘削工事
49	下津遺跡群	大分市大字下津甲24484-1 1443-1	大分市教委	堀井 光司	120㎡	010824	土瓦、下地土瓦片	区画整理事業	掘削調査
50	下津遺跡群	大分市大字下津甲24484-1 1443-1	大分市教委	永松 正大	30㎡	010907	縄文土器破片	区画整理事業	掘削調査
51	下津遺跡群	大分市大字下津甲24484-1 1443-1	大分市教委	永松 正大	20㎡	010907	弥生土器破片	区画整理事業	掘削調査
52	下津遺跡群	大分市大字下津甲24484-1 1443-1	大分市教委	堀井 光司	40㎡	010917	縄文土器破片	区画整理事業	掘削調査

No.	道 郡 名	所 在 地	調査主体	調査種別	調査面積	調査時期	調査内容	調査用途	取り扱い
53	下郡道線群	大分県大字下郡字山崎01-18	大分市教委	水松 正大	80㎡	011033		店舗建設	工事完工
54	下郡道線群	大分県大字下郡字山崎01-19	大分市教委	水松 正大	15㎡	011204	柱穴、土留残片	共同住宅建設	工事完工
55	下郡道線群	大分県大字下郡字山崎01-20	大分市教委	塚原 光尚	20㎡	011212		倉庫建設	工事完工
56	下郡道線群	大分県大字下郡字山崎01-21	大分市教委	塚原 光尚	93㎡	010220		共同住宅建設	工事完工
57	中庄大友城下町跡	大分県大字中庄町2丁目 3044-2-5-5-11	大分市教委	塚原 光尚	14㎡	010510	柱穴、石列、土坑残片 埋設陶器(唐磁77号)	個人住宅建設	土留保存
58	中庄大友城下町跡	大分県大字中庄町南側725	大分市教委	塚原 光尚	20㎡	011019	陶器残片、漆片破片	未定	土留保存
59	南金地遺跡	大分県大字南金地町1丁目301-1	大分市教委	塚原 光尚	15㎡	010615	土坑	新設店舗建設	工事完工
60	南金地遺跡	大分県大字南金地町1丁目278-5	大分市教委	塚原 光尚	30㎡	011128	竪穴遺構、埋蔵土器、土器遺片	新設店舗建設	本調査
61	南金地遺跡	大分県大字南金地町1丁目286-9	大分市教委	塚原 光尚	25㎡	020221	土坑、土坑	新設店舗建設	本調査
62	府内城下町跡	大分県大字府内町2丁目 133番、134番、141番、142	大分市教委	塚原 光尚	50㎡	011023	堀、溝、溝、溝、溝、溝	共同住宅建設	工事完工
63	府内城下町跡	大分県大字府内町2丁目 133番、134番、141番、142	大分市教委	塚原 光尚	40㎡	011025 011191	溝、溝、溝、溝、溝、溝	共同住宅建設	本調査
64	古国町遺跡群	大分県大字古国町4-96-3、 101-3、108-3	大分市教委	塚原 光尚	24㎡	010619		新設店舗建設	工事完工
65	古国町遺跡群	大分県大字古国町100-301(3)	大分市教委	塚原 光尚	21㎡	010609		共同住宅建設	工事完工
66	沖波遺跡	大分県大字沖波町1丁目515-1	大分市教委	塚原 光尚	7㎡	010607	石列、土坑、竪穴、竪穴、竪穴	個人住宅建設	工事完工
67	沖波遺跡	大分県大字沖波町1丁目515-2	大分市教委	塚原 光尚	11㎡	010614	石列、溝、溝、溝、溝、溝	個人住宅建設	土留保存
68	沖波遺跡	大分県大字沖波町1丁目111-10	大分市教委	塚原 光尚	40㎡	011107	柱穴	個人住宅建設	工事完工
69	沖波遺跡	大分県大字沖波町1丁目139	大分市教委	塚原 光尚	15㎡	011204		住宅建設	工事完工
70	玉沢地区水田跡	大分県大字玉沢町01-33-1 53-1-54-1	大分市教委	塚原 光尚	110㎡	011219-011220	水田跡	新設店舗建設	本調査
71	玉沢地区水田跡	大分県大字玉沢町01-33-1 53-1-58-3	大分市教委	塚原 光尚	40㎡	020110-020111	水田跡、堀跡(排水、文倉あり)	新設店舗建設	土留保存
72	玉沢地区水田跡	大分県大字玉沢町01-33-1 53-1-58-3	大分市教委	塚原 光尚	250㎡	020112	溝、溝、溝	新設店舗建設	本調査
73	丹生遺跡群	大分県大字丹生町1丁目156	大分市教委	塚原 光尚	1,010㎡	010904-010912	土坑、土坑	牛舎建設	土留保存
74	丹生遺跡群	大分県大字丹生町1丁目156	大分市教委	塚原 光尚	80㎡	011121		牛舎建設	工事完工
75	丹生川尻/市桑原跡	大分県大字丹生町1丁目156	大分市教委	塚原 光尚	302㎡	011113-011115	水田跡	工場建設	工事完工
76	丹生川尻/市桑原跡	大分県大字丹生町1丁目156	大分市教委	塚原 光尚	284㎡	020206-020208	水田跡、溝	工場建設	土留保存
77	大塚遺跡群	大分県大字大塚町1丁目104	大分市教委	塚原 光尚	30㎡	020325	柱穴、土留残片	新設店舗建設	本調査
78	大塚遺跡群	大分県大字大塚町1丁目104	大分市教委	塚原 光尚	21㎡	010425	下城式土留残片	未定	工事完工
79	羽田遺跡	大分県大字羽田町1丁目141	大分市教委	塚原 光尚	25㎡	020306	土坑、土留残片、埋蔵土器、埋蔵土器	宅地造成	土留保存
80	河原村下遺跡	大分県大字河原村下町1丁目107	大分市教委	塚原 光尚	40㎡	011011		共同住宅建設	工事完工
81	河原村下遺跡	大分県大字河原村下町1丁目107	大分市教委	塚原 光尚	771㎡	020703-010709	土留遺構遺跡、井跡、溝、溝	学校建設	本調査
82	河原村下遺跡	大分県大字河原村下町1丁目107	大分市教委	塚原 光尚	1,851㎡	020710-010718	溝、溝、溝、溝	学校建設	本調査
83	津守遺跡	大分県大字津守町1丁目141	大分市教委	塚原 光尚	15㎡	011130		共同住宅建設	工事完工
84	辻遺跡	大分県大字辻町1丁目178 -281-1	大分市教委	塚原 光尚	21㎡	010517	柱穴	工場建設	土留保存
85	庄/原遺跡	大分県大字庄原町字津内 1573-3遺跡地外側	大分市教委	塚原 光尚	35㎡	010524-010525	溝、土坑、土坑、溝、溝	新設店舗建設	土留保存
86	鶴崎町遺跡群	大分県大字鶴崎町1丁目12	大分市教委	塚原 光尚	80㎡	010905-010927	石列、溝、溝、溝、溝	未定	本調査
87	二井川遺跡	大分県大字二井川町2丁目256	大分市教委	塚原 光尚	70㎡	010819	土坑、土坑の遺構	住宅造成	土留保存
88	若菜八幡宮遺跡	大分県大字若菜町1丁目296	大分市教委	塚原 光尚	7㎡	020313		未定	工事完工
89	若菜寺遺跡	大分県大字若菜町1丁目296	大分市教委	塚原 光尚	90㎡	011207	埋蔵土器、溝、溝	店舗建設	土留保存
90	東田遺跡	大分県大字東田町1丁目1	大分市教委	塚原 光尚	55㎡	020123	埋蔵土器、溝、溝	埋蔵土器	工事完工
91	金池海岸跡	大分県大字金池町2丁目	大分市教委	塚原 光尚	73㎡	011110-011218	柱穴、溝、溝、溝、溝、溝	道路建設	土留保存
92	大庭遺跡群	大分県大字大庭町1丁目118-10	大分市教委	塚原 光尚	40㎡	020108-020117		新設店舗建設	工事完工
93	青森八幡宮遺跡	大分県大字青森町1丁目5	大分市教委	塚原 光尚	19㎡	020313	柱穴	学校建設	本調査
94	白井新1町遺跡群(2)	白井町大字白井字新1町4-1 字新町161-1他	白井市教委	神田 高士	180㎡	010507-010623	溝、溝、溝、溝、溝、溝	店舗建設	本調査
95	白井新1町遺跡群(1)	白井町大字白井字新1町4-1 字新町161-1他	白井市教委	神田 高士	1,000㎡	010626-010731	江戸時代の竪穴遺構、土留、土留	宅地造成	本調査
96	白井新1町遺跡群(3)	白井町大字白井字新1町4-1 字新町161-1他	白井市教委	神田 高士	105㎡	010727-010910	埋蔵土器、溝、溝、溝、溝、溝、溝	公共施設建設	本調査
97	白井新2町遺跡群(2)	白井町大字白井字新2町4-1	白井市教委	神田 高士	70㎡	010111-040131	溝、溝、溝、溝、溝、溝	保存整備	本調査
98	白井新2町遺跡群(1)	白井町大字白井字新2町4-1	白井市教委	神田 高士	8,000㎡	010723-010725	土坑、溝、溝、溝、溝、溝	分譲住宅造成	工事完工
99	史跡阿蘇陣跡	竹田市大字竹田	竹田市教委	佐伯 浩	1,600㎡	010702-020228	江戸時代の家屋遺構跡	史跡整備	本調査
100	狭山地区	竹田市大字狭山	竹田市教委	栗川 博幸	400㎡	010545-010529	近世建物跡	農用地整備	本調査
101	阿蘇下町遺跡	竹田市大字下町	竹田市教委	有田 浩	200㎡	010529-010531	近世建物跡	農用地整備	本調査
102	阿蘇下町遺跡	竹田市大字下町	竹田市教委	有田 浩	1,000㎡	010904-010911	遺物、遺構、溝	農用地整備	本調査
103	阿蘇下町遺跡	竹田市大字下町	竹田市教委	有田 浩	600㎡	010704-010829	遺物、遺構、溝	農用地整備	本調査
104	狭山地区	竹田市大字狭山	竹田市教委	栗川 博幸	100㎡	011019-011102	近世建物跡	個人住宅	本調査
105	狭山地区	竹田市大字狭山	竹田市教委	栗川 博幸	3,500㎡	011106-011108	遺物、遺構、溝	個人住宅	本調査
106	狭山地区	竹田市大字狭山	竹田市教委	栗川 博幸	3,000㎡	011115-030111	遺物、遺構、溝	個人住宅	本調査
107	阿蘇下町遺跡	竹田市大字下町	竹田市教委	栗川 博幸	200㎡	011118-011122	近世時代の建物跡	農用地整備	本調査
108	阿蘇下町遺跡	竹田市大字下町	竹田市教委	有田 浩	30,000㎡	010109-020306	近世時代の建物跡、溝、溝	畑作整備	本調査
109	大木遺跡	大分県大字大木町大字大木	大分市教委	栗川 博幸	3,901㎡	011118-020118	弥生時代の住居跡、ピット	畑作整備	本調査

No.	遺跡名	所在地	調査主体	調査実施者	調査面積	調査期間	調査内容	調査成果	取り扱い
106	横枝・大塚地区	大野郡大野町大字甲中	大野町教委	後藤 善治	3.8ha	011112-011113		河内開	工事終了
111	加内遺跡	大野郡三好町大字小倉	三好町教委	豊岡 勉	200㎡	019005-019007	遺構、遺骨なし	調査実施	工事終了
112	内川古墳群	大野郡三好町大字小倉	町教委	豊岡 勉	220㎡	020121-020313	遺構調査	調査実施	工事完了
114	上井上東遺跡	大野郡三好町大字上井上	地方町教委	高野 弘之	10,000㎡	010719-011005	倉庫跡	調査員無償借	調査実施済
115	上井上東遺跡	大野郡三好町大字上井上	地方町教委	高野 弘之	2,000㎡	020110-020120	寺院跡	町立病院敷	調査実施済
116	延命寺遺跡	大野郡三好町大字上井上	地方町教委	高野 弘之	150㎡	011220-020330	寺院跡	町立病院敷	調査実施済
117	茶屋の元・上後遺跡	大野郡三好町大字上井上	町教委	荒井 孝廣	600㎡	011031-011228	弥生時代後期集落	77-4ノ1跡地	本調査
117	古宮遺跡	大野郡三好町大字上井上	町教委	荒井 孝廣	700㎡	011031-020222	弥生時代後期集落	77-4ノ1跡地	本調査
118	石巻川下町遺跡群	赤松町字川下町下町7番地	赤松町教委	吉武 敦子	302㎡	010416-010619	近世の石垣、土坑	市川工事	本調査
119	本村遺跡3次	三好郡大野町大字本村386-4	日田町教委	54岡崎敏夫	450㎡	010401-010531	弥生後期-中世の集落	本調査	本調査
120	大野郡赤井川地区	日田郡大字大字野原町403-1	日田町教委	渡邊 賢行	8,270㎡	010409-010524	縄文・古墳時期-古代の集落	調査実施	本調査
121	飯塚遺跡	三好郡大野町大字野原町403-1	日田町教委	渡邊 賢行	820㎡	010405-010921	古墳後期の集落	調査実施	本調査
122	高瀬赤土遺跡野山地区	三好郡大野町大字野原町403-1	日田町教委	行崎 志郎	300㎡	010609-010809	縄文後期-弥生中期の集落	本調査	本調査
123	今泉遺跡	日田郡大字大字野原町今泉	日田町教委	渡邊 賢行	200㎡	011009-011024	弥生時代の集落	市道建設	本調査
124	本村遺跡4次	三好郡大野町大字本村118-10	日田町教委	伊藤 隆哉	330㎡	020109-020131	弥生時代の集落、土坑	市道建設	本調査
125	横井穴ノ原遺跡B地区	三好郡大野町大字上井上1230-2	日田町教委	行崎 志郎	30㎡	020808-020218	弥生時代の集落	市道建設	本調査
126	穴ノ原遺跡A	日田郡大字大字野原町今泉	日田町教委	石杉 竜太	62㎡	020212-020327	古墳の調査	埋蔵品調査	本調査
127	日田赤土遺跡	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	20㎡	010518	弥生時代の集落	市道建設	本調査
128	古宮遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	20㎡	010525	弥生時代の集落	市道建設	本調査
129	日田赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	20㎡	010608	弥生時代の集落	市道建設	本調査
130	高瀬遺跡	三好郡大字大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	40㎡	010612-010613	縄文・弥生時代の集落	市道建設	本調査
131	平島遺跡	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	20㎡	010705		市道建設	本調査
132	横井穴ノ原遺跡	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	渡邊 賢行	117㎡	010710		市道建設	本調査
133	高瀬赤土遺跡野山地区	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	石杉 竜太	15㎡	010719		市道建設	本調査
134	藤原麻屋跡	日田郡大字大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	30㎡	010723-010725	弥生・中世の集落	市道建設	本調査
135	藤原麻屋跡埋蔵品	日田郡大字大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	20㎡	010731-010803	弥生時代の集落	市道建設	本調査
136	大野赤土遺跡	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	10㎡	010912		市道建設	本調査
137	日田赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	10㎡	010914		市道建設	本調査
138	本村遺跡	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	行崎 志郎	10㎡	010925	弥生・中世の集落・墓地	市道建設	本調査
139	高瀬赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	石杉 竜太	34㎡	011029	弥生・中世の集落	市道建設	本調査
140	高瀬赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	石杉 竜太	35㎡	011115	弥生・中世の集落	市道建設	本調査
141	三好赤土遺跡埋蔵品	三好郡大字大字野原町今泉	日田町教委	石杉 竜太	83㎡	011121-011122	弥生・中世の集落	市道建設	本調査
142	今泉山遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	石杉 竜太	142㎡	011206	古墳	市道建設	本調査
143	赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	石杉 竜太	22㎡	012119		市道建設	本調査
144	日田赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	渡邊 賢行	27㎡	020217		市道建設	本調査
145	日田赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	渡邊 賢行	39㎡	020129		市道建設	本調査
146	藤原麻屋跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	石杉 竜太	12㎡	020131		市道建設	本調査
147	日田赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	渡邊 賢行	32㎡	020209	弥生・中世の集落	市道建設	本調査
148	大野赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	渡邊 賢行	1,510㎡	020212-020204	弥生・中世の集落	市道建設	本調査
149	赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	渡邊 賢行	275㎡	020311-020320	弥生・中世の集落	市道建設	本調査
150	赤土遺跡	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	渡邊 賢行	30㎡	020325	古代の集落	市道建設	本調査
151	赤土遺跡	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	竹野 孝一	3,238㎡	011009-011217	弥生・中世の集落、及びの住居跡	埋蔵品調査	本調査
152	平井台遺跡	三好郡大野町大字野原町今泉	三好町教委	佐藤 隆二	54㎡	010418	土器敷出土	市道建設	本調査
153	日田赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	野村 典良	600㎡	010716	土器敷出土	市道建設	本調査
154	藤原麻屋跡	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	佐藤 隆二	30㎡	011113	遺構なし	市道建設	本調査
155	赤土遺跡埋蔵品	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	野村 典良	420㎡	011210	遺構なしの集落	市道建設	本調査
156	平野遺跡	三好郡大野町大字野原町今泉	日田町教委	佐藤 隆二	30㎡	020117	江戸時代の集落	市道建設	本調査
157	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	吉田 篤 萩原 隆二	2,500㎡	010430-010731 011201-020131	中世の町屋跡群	調査実施済	本調査
158	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	1,875㎡	010425-010601	中世の町屋跡群	調査実施済	本調査
159	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	375㎡	011018-020328	中世の町屋跡群、土坑	調査実施済	本調査
160	上野町遺跡	大分市大字北町	大分県教委	吉田 篤	120㎡	020167-020227	古代の倉庫跡	調査実施済	本調査
161	上野町遺跡	大分市大字北町	大分県教委	吉田 篤	5,000㎡	020301-020327	古墳時代の倉庫跡	調査実施済	本調査
162	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	1,700㎡	010704	遺構・遺骨なし	調査実施済	本調査
163	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	4.1ha	010725	遺構・遺骨なし	調査実施済	本調査
164	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	4.5ha	010731-010802	遺構・遺骨なし	調査実施済	本調査
165	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	2.5ha	010802	遺構・遺骨なし	調査実施済	本調査
166	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	2.9ha	010806-010807	中世・近世集落	調査実施済	本調査
167	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	1.0ha	010823	遺構・遺骨なし	調査実施済	本調査
168	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	200㎡	011002	遺構・遺骨なし	調査実施済	本調査
169	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	7.0ha	011029-011030	弥生・中世	調査実施済	本調査
170	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	300㎡	011112	遺構・遺骨なし	調査実施済	本調査
171	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	6.0ha	011119	弥生時代	調査実施済	本調査
172	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	400㎡	011129	遺構・遺骨なし	調査実施済	本調査
173	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	30.0ha	011203-011204	遺構・遺骨なし	調査実施済	本調査
174	大野赤土遺跡埋蔵品	大分市大字北町	大分県教委	藤村 隆二	1.0ha	011205-011207	江戸時代	調査実施済	本調査

№	選 題 名	所 在 地	調査主体	調査担当者	調査面積	調査期間	調査内容	調査経緯	取り扱い
175	鹿角武蔵山北地区	大野郡大野町野井寺	大分県教委	佐藤 一希	430㎡	011217	遺物・遺構など	遺跡建設	工事施工
176	広域農産品流通地区	玖珠郡九重町松木	大分県教委	佐藤 一希	200㎡	011226	遺物・遺構など	遺跡建設	工事施工
177	福岡県福岡市 福岡地区	福岡県福岡市	大分県教委	佐藤 一希	3.9ha	020110	遺物・遺構など	再開発競争	工事施工
178	豊後国豊後郡 中津地区	豊後国豊後郡	大分県教委	佐藤 一希	200㎡	020215	遺物・遺構など	遺跡建設	工事施工
179	豊後国豊後郡 中津地区	豊後国豊後郡	大分県教委	佐藤 一希	201㎡	020220	遺物・遺構など	遺跡建設	工事施工
180	古田遺跡	中津市大字柳野	大分県教委	井川 泰成	100㎡	010508-010523	縄文後期土坑	遺跡建設	本調査
181	豊後国	中津市大字加津	大分県教委	井川 泰成	600㎡	010717	縄文後期土器跡	遺跡建設	本調査
182	飯子前橋穴遺跡	中津市大字柳野	大分県教委	井川 泰成	300㎡	010723-010811	弥生時代土坑	遺跡建設	本調査
183	麻道崎高瀬川水鏡跡	宇佐郡安心院町等ノ口	大分県教委	井川 泰成	700㎡	011031	近世遺構	遺跡建設	本調査
184	安心院地区水鏡跡	宇佐郡安心院町大字大仏	大分県教委	井川 泰成	400㎡	011010-011108	9世紀頃の包葺瓦	遺跡建設	本調査
185	飯子前橋穴遺跡	中津市大字柳野	大分県教委	井川 泰成	500㎡	011012-011016	横穴式	遺跡建設	本調査
186	賢来遺跡	大分市大字賢来	大分県教委	井川 泰成	10,000㎡	011018		水鏡建設	本調査
187	豊田三宮跡原跡	大野郡大野町	大分県教委	藤崎 祥哉	5,000㎡	011022		水鏡建設	本調査
188	宇佐河遺跡	下志摩町高須町大字赤石	大分県教委	井川 泰成	500㎡	011026-011027	中世土坑	遺跡建設	本調査
189	鶴崎御宗遺跡	大分市柳橋	大分県教委	井川 泰成	900㎡	011109	近世遺構	校舎建設	本調査
190	鹿立山野鳥集鳥台	速見郡中野町大字法蓮	大分県教委	井川 泰成	400㎡	011115		校舎建設	本調査
191	麻立山野鳥集鳥台	大分市上野社2-10-1	大分県教委	井川 泰成	60㎡	011116		水道管埋設	本調査
192	飯子前橋穴遺跡	中津市大字柳野	大分県教委	井川 泰成	300㎡	011217-020215	中世銅	遺跡建設	本調査
193	飯子前橋穴遺跡	中津市大字柳野	大分県教委	井川 泰成	1,000㎡	020304		遺跡建設	本調査
194	麻原跡	宇佐市大字麻原	大分県教委	井川 泰成	1,000㎡	020322		遺跡建設	本調査
195	豊田三宮跡原跡	日田市	大分県教委	高橋 信武	300㎡	020413		遺跡建設	本調査
196	豊田三宮跡原跡	大分市大井	大分県教委	高橋 信武	390㎡	010508		遺跡建設	本調査
197	麻道崎高瀬川水鏡跡	宇佐郡安心院町	大分県教委	藤崎 祥哉	2,500㎡	010822-010823		遺跡建設	本調査
198	麻道崎	中津市	大分県教委	高橋 信武	1,000㎡	011022-011122	縄文後期土坑	遺跡建設	本調査
199	尾瀬川水鏡跡	大分市	大分県教委	高橋 信武	4,000㎡	011127-011128		遺跡建設	本調査
200	麻道崎水鏡跡小川原跡	豊後高田市	大分県教委	高橋 信武	2,400㎡	011207		遺跡建設	本調査
201	飯子前橋穴遺跡	中津市	大分県教委	高橋 信武	1,200㎡	011227		遺跡建設	本調査
202	麻道崎水鏡跡	宇佐郡高瀬川町大字	大分県教委	高橋 信武	2,900㎡	020129		遺跡建設	本調査
203	向木川砂防ダム	佐伯市門崎	大分県教委	藤崎 祥哉	1,000㎡	020304		砂防ダム建設	本調査
204	麻道崎高瀬川水鏡跡	宇佐郡高瀬川町大字法蓮	大分県教委	藤崎 祥哉	2,200㎡	020305		遺跡建設	本調査
205	又江遺跡	豊後高田市村大字横川	大分県教委	高橋 信武	3,000㎡	020213-020201	土坑灰土層	遺跡建設	本調査
206	上野遺跡	大野郡千歳村大字下宇	大分県教委	高橋 信武	9,100㎡	010501-011031	中世土坑	遺跡建設	本調査
207	麻立山野鳥集鳥台	大野郡千歳村大字下宇	大分県教委	高橋 信武	3,600㎡	010613		遺跡建設	本調査
208	麻道崎高瀬川水鏡跡	大野郡千歳村大字下宇	大分県教委	高橋 信武	9,000㎡	010615		遺跡建設	本調査
209	麻道崎水鏡跡	宇佐市大字門崎	大分県教委	高橋 信武	140㎡	011011		遺跡建設	本調査
210	麻道崎水鏡跡	日田市	大分県教委	高橋 信武	1,000㎡	011226		遺跡建設	本調査
211	寺楽遺跡	北海部郡佐賀町阿蘇峠	大分県教委	高橋 信武	1,200㎡		弥生時代	遺跡建設	本調査
212	久米堂遺跡	東国郡東国町町東	大分県教委	早野 孝典	1,510㎡	010808	古代のビット	遺跡建設	本調査
213	上野遺跡	大分市毛月	大分県教委	早野 孝典	300㎡	010807	弥生時代の土器片、中世のビット	遺跡建設	本調査
214	寺楽遺跡	北海部郡佐賀町阿蘇峠	大分県教委	早野 孝典	1,200㎡	010704	弥生時代の土器片、中世のビット	遺跡建設	本調査
215	荒院、私道遺跡	豊後高田市大字仏田	大分県教委	早野 孝典	2,700㎡	010703-010710	遺物・遺構など	遺跡建設	本調査
216	飯子前橋穴遺跡	中津市大字柳野	大分県教委	早野 孝典	7,200㎡	010906	遺物・遺構など	遺跡建設	本調査
217	飯子前橋穴遺跡	大野郡大野町	大分県教委	早野 孝典	6,000㎡	011015	遺物・遺構など	遺跡建設	本調査
218	麻道崎三山野鳥集鳥台	大野郡大野町柳野	大分県教委	早野 孝典	3,000㎡	011022-011023	遺物・遺構など	遺跡建設	本調査
219	飯子前橋穴遺跡	宇佐市大字高田	大分県教委	早野 孝典	875㎡	020214	遺物・遺構など	遺跡建設	本調査
220	麻道崎水鏡跡	大分市南郷3-5-1	大分県教委	早野 孝典	1,000㎡	010517	遺物・遺構など	遺跡建設	本調査
221	日田水鏡跡	日田市大字門崎30	大分県教委	早野 孝典	1,500㎡	010716-010717	遺物・遺構など	遺跡建設	本調査
222	麻道崎水鏡跡	大分市高木	大分県教委	早野 孝典	1,000㎡	010806	中世のビット	校舎建設	本調査
223	上野遺跡	大分市上野社東1-11	大分県教委	早野 孝典	100㎡	010827	遺物	校舎建設	本調査
224	寺楽遺跡	宇佐市大字門崎	大分県教委	早野 孝典	17,300㎡	010829	遺物・遺構など	学校グラウンド整備	本調査
225	上野遺跡	大分市上野社東2-10-1	大分県教委	早野 孝典	14,800㎡	010817-011016	古代の溝、坑・中世の土坑 (遺構については、立命館大学)	下水道工事	本調査
226	日田水鏡跡	日田市大字門崎30	大分県教委	早野 孝典	1,300㎡	011109		校舎建設	本調査
227	中津大野町野井寺	大分市八幡町	大分県教委	藤崎 祥哉	2,500㎡	010701-010927	中世の土坑、溝、土坑蓋、遺物	墓田整備計画	本調査
228	中津大野町野井寺	大分市柳野町目	大分県教委	藤崎 祥哉	800㎡	010907-020327	遺跡建設	墓田整備計画	本調査
229	中津大野町野井寺	大分市柳野町目	大分県教委	藤崎 祥哉	700㎡	010501-020331	遺跡建設	墓田整備計画	本調査
230	中津大野町野井寺	大分市柳野町目	大分県教委	藤崎 祥哉	1,000㎡	010094-020328	縄文遺構、陶器片、メダヒほか	墓田整備計画	本調査
231	國徳寺遺跡	大分市六辻北町	大分県教委	藤崎 祥哉	100㎡	010701-010830	中世の古瓦の包葺瓦	遺跡建設	本調査
232	石立寺遺跡	大野郡千歳村大字下宇	大分県教委	藤崎 祥哉	3,500㎡	011217-020331	弥生時代-古墳時代 墓田整備計画	遺跡建設(供養)	本調査
233	麻道崎水鏡跡	大野郡千歳村大字下宇	大分県教委	藤崎 祥哉	4,800㎡	010425-010719	弥生時代の円形貯蔵坑ほか	遺跡建設(供養)	本調査
234	大分大道遺跡	大分市大字3丁目	大分県教委	馬場 隆二	700㎡	011101-020131	弥生時代の溝状遺構ほか	墓田整備計画	本調査
235	寺楽遺跡	大分市大字門崎	大分県教委	高橋 信武	3,000㎡	010901-020331	水鏡建設ほか	遺跡建設	本調査

VI. 平成13年度新発見遺跡一覧及び周知遺跡変更一覧

1) 新発見遺跡

No	遺跡名	所在地	立地	種別	台帳番号
1	トガリ遺跡	京国京都安岐町大字中園字トガリ	沖積地	集落	219046
2	川ベタ遺跡	京国京都安岐町大字中園字川ベタ	河川敷	包蔵地	219047
3	光弘藏所遺跡	京国京都安岐町大字中園字藏所	沖積地	集落	219048
4	蛇口の遺跡	大分県庄内町大字栗長宝字前	河岸段丘	包蔵地	327035
5	今留遺跡	日田郡大瀬町大字台田字今留	台地	包蔵地	658037
6	半原遺跡	玖珠郡玖珠町大字森字半原	丘陵斜面	その他(遺跡)	652105



(1/25,000 「下原」)



(1/25,000 「下原」)



(1/25,000 「下原」)



(1/25,000 「小野原」)



(1/25,000 「日田」)

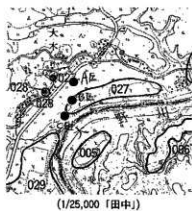


(1/25,000 「豊後森」)

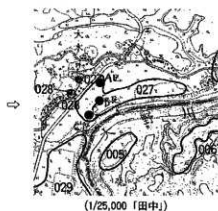
2) 周知遺跡変更一覧

No	遺跡名	所在地	立地	種別	台帳番号
1	大木遺跡	大野郡千歲村大字下山字大木	河岸段丘	包蔵地・集落	546027

変更前



変更後



VII. 現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム・研修・行事イベント一覧

現地説明会

名 称	主 催	内 容	期 日	参 加 人 員
下部町(部)跡発掘調査現地説明会	大分市教育委員会	50基余りの横穴墓などの説明	平成13年4月28日	100人
豊足跡発掘調査現地説明会 (第2回)	大分市教育委員会	ドングリ産穴群 (縄文後期) の現地説明	平成13年4月28日	100人
京原小学校(区)発掘調査説明会	宇佐市教育委員会	遺跡に隣接する京原小学校の児童を対象した発掘現場の説明会を開催	平成13年10月28日	55人
坂田遺跡発掘調査現地説明会 (第2回)	大分市教育委員会	水田の遺構 (縄文中期) の現地説明	平成13年10月24日	900人
上門子遺跡発掘調査現地説明会	大分市教育委員会 下飯村教育委員会	中山峠の説明	平成13年9月13日	150人
中津大友町内跡発掘調査現地説明会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大型建物遺構、障子層などの現地説明	平成13年9月1日	700人
国新史文庫「白矢田家住宅」 説明会	大山町 文化財調査委員会	「白矢田家住宅」の現地説明会	平成13年11月3日	36人
高森城跡発掘調査現地説明会	宇佐市教育委員会	高森城跡「三ノ丸」地区で検出された櫓跡と想定される礎石建物の概観	平成13年11月23日	50人
玉江地区舟車跡発掘調査現地説明会	大分市教育委員会	古墳時代の小区跡水田の現地説明	平成13年12月29日	150人
高瀬橋六塚跡発掘調査現地説明会	大分市教育委員会 成人教育委員会	遺跡の公開と調査担当者による別地での説明	平成13年12月23日	約200人
高瀬橋六塚跡発掘調査報告会	大分県教育委員会 成人教育委員会	成人町中央公民館において出土遺物の展示と講演会を開催 「長瀬穴群発掘の調査と古代の暮らし」	平成14年2月2日	約150人
鶴見遺跡発掘調査現地説明会	竹田市教育委員会	春鹿地区における試掘調査で検出された弥生時代後期から古墳時代にかけての遺跡の遺構の現地説明会	平成14年3月1日	20人
中津大友町内跡・ 大友氏跡跡発掘調査現地説明会	大分県教育委員会 大分市教育委員会	大型建物遺構、障子土瓦の概観	平成14年3月7日	400人
穴窟古墳発掘調査現地説明会	宇佐市教育委員会	穴窟古墳の埋蔵品に伴って、検出された周部の現地説明と 講義式による公開	平成14年3月24日	101人

展 示 会

名 称	主 催	内 容	期 日	会 場	参 加 人 員
テーマ展示 「新収蔵品目録」	大分県歴史資料館	近年収集した資料の展示	平成13年4月28日 ～6月24日	大分市歴史資料館	3,525人
熊見遺跡第3次調査速報展	大分市教育委員会	熊見遺跡第3次調査成果の速報展	平成13年4月28日 ～7月1日	大分市歴史資料館	3,959人
人物伝展 「矢野龍渓のワンダーワールド」	矢野史料館	明治・大正期のジャーナリスト「矢野龍渓」についての紹介	平成13年6月12日 ～7月21日	大分市歴史資料館	3,470人
テーマ展示II 「大分近代の歩み」	大分市歴史資料館	大分近代の歴史資料の展示	平成13年7月25日 ～9月12日	大分市歴史資料館	3,728人
収蔵品展 「いろいろあります文書の世界II」	矢野史料館	古文書の格式や各時代の文書の4つのコーナーで紹介	平成13年7月25日 ～8月18日	矢野史料館展示室	3,996人
「文化でみる竹田町」展	竹田市教育委員会	熊見文書館の書「遺書」を展示し、竹田市固有の歴史文化を語り、竹田市の文化財150年5の歩み振り返る	平成13年8月13日 ～8月30日	竹田市立歴史資料館 熊見資料館(水車館)	400人
矢野史料館特別展「大友町内一よみがえる中世国府跡部」	(文科省委嘱) 矢野史料館	16世紀の大友時代に集まった豊後府に因る古文書、考古学等130点を展示	平成13年8月13日 ～10月9日	矢野史料館展示室	5,683人
大分県発掘文化財展 「夏の季節―昔人のこころ―」	大分市教育委員会	県内及び大分市内で出土した遺物・写真パネル等で展示	平成13年11月23日 ～12月29日	トキハまきだ場	2,300人
市内発掘出土の陶磁器 ―新収蔵品展を中心に―	大分市教育委員会	市内発掘出土の陶器・土器・土師器を中心に展示	平成13年10月28日 ～10月31日	大分市歴史資料館	2,871人
現在と過去との対話	宇佐市教育委員会	90年間の発掘調査で出土した土器や漆器などを公開展示	平成13年10月13日 ～10月14日	宇佐市総合運動場 内の植民館	約500人
秋の企画展「歴史キリスト史」	矢野史料館	寺跡におけるキリスト教の伝来、発掘、書道の歴史と特色を文庫資料、絵巻資料等で紹介	平成13年10月18日 ～11月25日	矢野史料館展示室	4,192人
秋の企画展「製作への祈り」	九州初教育委員会	豊作祈願の祈りに関する緒言と紙と竹の展示	平成13年10月18日 ～10月28日	九洲初文化センター	324人
大分県発掘文化財展 「夏の季節―昔人のこころ―」	大分県教育委員会	県内及び九州内で出土した遺物・写真パネル等で展示	平成13年10月18日 ～10月29日	九洲初文化センター	1,100人
第2回四万葉集「巨門記―名所・名物・景観―」	大分市歴史資料館	大友から民謡にいたる巨戸時代の歌に因る資料の展示	平成13年10月25日 ～11月25日	大分市歴史資料館	4,343人
日出城 (豊後) 築城400年追慕展	記念事業実行委員会	日出城 (陽弁城) に因る遺品の展示	平成13年10月27日 ～10月29日	日南町中央公民館	約2,000人
軌尾鳥居発掘190周年追慕展	記念事業実行委員会	軌尾鳥居に関する遺品の展示	平成13年10月27日 ～10月29日	日南町中央公民館	約2,000人
第1回大野郡文化財巡回展	郡内町村教育委員会	大野郡内の貴重な文化財を時代別に分けて、展示	平成13年11月3日 ～11月4日	三重町中央公民館	約300人
玖珠町内遺跡発掘品特別展	玖珠町教育委員会	玖珠町内で出土した金銅や短刀、管や馬具など町教委所蔵の珍しい「新収蔵品」を主に展示	平成13年11月24日 ～12月20日	玖珠町玖珠ロビー (玖珠米倉跡)	
テーマ展示I 「熊文化―大分へのエキゾチズム」	大分市歴史資料館	大分に花開いた熊文化の展示	平成13年12月8日 ～平成14年1月27日	大分市歴史資料館	1,850人
第2回大野郡文化財巡回展	郡内町村教育委員会	大野郡内の貴重な文化財を時代別に分けて、展示	平成13年1月11日	大野郡総合運動場	約270人
収蔵品展「聖徳太子―大友神降に降けた人々―」	矢野史料館	平成13年度に新収された聖徳太子から藤原の大活躍などの資料を紹介	平成14年2月6日 ～3月30日	矢野史料館展示室	4,251人
テーマ展示II「中津家伝来の品々」	大分市歴史資料館	江戸時代の家老の暮らしに関する展示	平成14年2月1日 ～3月31日	大分市歴史資料館	2,879人
第3回大野郡文化財巡回展	郡内町村教育委員会	大野郡内の貴重な文化財を時代別に分けて、展示	平成14年2月1日 ～2月24日	朝陽町中央公民館	約50人
第4回百人町ふるさととの所蔵品展	百人町ふるさとの 所蔵品展示実行委員会	豊後南前を支えた文人や女流のあった文人たちの遺稿、兵衛に遊んだ文人たちの遺品の展示	平成14年7月29日 ～8月31日	百人町中央公民館	100人

講演会・シンポジウム

名称	主催	講師	内容	期日	会場	参加人数
ふるさとの歴史再発見「歴史」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武家 竜彦	大友義経の文芸について	平成13年4月7日	大分市歴史資料館	80人
ふるさとの歴史再発見「歴史」のコース	大分市歴史資料館	大分市美術館 長田 弘彦	港内都市、鑛轉の遺表	平成13年4月14日	大分市歴史資料館	91人
ふるさとの歴史再発見「歴史」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 藤沢 祐夫	松平幸直の生涯	平成13年4月21日	大分市歴史資料館	84人
特別講演「歴史研究の発展と国際交流の促進」	国史研究會 中国史研究部 中国史研究部 中国史研究部	鎌 浩 清 神村 仁 小田原士雄 本中 真	河内國文化 文明開港と通商の歴史 河内國 交通開港と通商 史跡發掘に求めるもの	平成13年4月21日	大分空港ホテル	250人
文化講演会「中国仏教と国史」	国史研究會 中国史研究部 中国史研究部	毛 昭 晰	中国仏教と国史、日本とのつながり	平成13年5月12日	両町歴史博物館 学習館	70人
ふるさとの歴史再発見「歴史」のコース	大分市歴史資料館	歴史資料館 三浦野 毅	大友義経と鎌倉時代	平成13年5月13日	大分市歴史資料館	77人
歴史資料館特別講演会	大分市歴史資料館	大分市教委 尾崎 潤一	横尾重隆第32次調査の報告	平成13年6月13日	大分市歴史資料館	82人
ふるさとの歴史再発見「歴史」のコース	大分市歴史資料館	国立歴史民俗博物館 平川 毅	廻川新時代の在地支配	平成13年6月18日	大分市歴史資料館	83人
町誌研究講座	庄内町教育委員会	栗生 源夫	鎌倉時代の政治 (元寇と頼朝兵衛次郎)	平成13年6月24日	庄内町中央公民館	35人
ふるさとの歴史再発見「歴史」のコース	大分市歴史資料館	歴史資料館 大津 祐司	佐伯藩の一酒	平成13年6月28日	大分市歴史資料館	73人
ふるさとの歴史再発見「歴史」のコース	大分市歴史資料館	歴史資料館 藤も 敏夫	大友時代の府内振興	平成13年6月28日	大分市歴史資料館	79人
ふるさとの歴史再発見「歴史」のコース	大分市歴史資料館	国立歴史民俗博物館 藤井 成昭	海と鉄—国東半島の中心—	平成13年6月28日	大分市歴史資料館	82人
ふるさとの歴史再発見「歴史」のコース	大分市歴史資料館	大分大学 栗岡 西三	村一品運動の原点	平成13年6月30日	大分市歴史資料館	85人
市民協賛歴史講座「ふるさと字の歴史を学ぶ」	宇佐市教育委員会	別府大学教授 佐藤 宗彦	「ふるさと字の歴史」と題し、市刊行「ふるさと字の歴史」を資料として執筆・講演	平成13年6月16日	宇佐文化会館 小ホール	100人
文化講演会	先賢史料館	京都府女子大教授 松尾 博史ほか	「ヤルチ人開 矢野龍溪の能力」と題し講演	平成13年6月20日	大分県立図書館 松原ホール	172人
ふるさとの歴史再発見「考古」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 木村徹太郎	萬古時代の食糧獲得戦略（続報）	平成13年7月7日	大分市歴史資料館	83人
ふるさとの歴史再発見「考古」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 中島 武雄	古代の畿い	平成13年7月14日	大分市歴史資料館	77人
市民協賛歴史講座「ふるさと字の歴史を学ぶ」	宇佐市教育委員会	宇佐市文化財部長 小倉 正夫	「宇佐の夜明け」と題し、 縄文—弥生時代の遷移について講演	平成13年7月14日	別府大学 宇佐教育センター	80人
ふるさとの歴史再発見「考古」のコース	大分市歴史資料館	県教育庁文化課 高橋 毅	古代エジプトのくらし	平成13年7月22日	大分市歴史資料館	81人
ふるさとの歴史再発見「考古」のコース	大分市歴史資料館	県教育庁文化課 藤原 義一	旧石器時代に生きた人々の暮らし	平成13年8月1日	大分市歴史資料館	82人
史料館 基礎講座	先賢史料館	史料館職員	歴史資料の取り扱い方 初歩の解説	平成13年7月4日 ～平成13年7月5日	大分県立図書館 新館	63人
ふるさとの歴史再発見「考古」のコース	大分市歴史資料館	県教育庁文化課 五十川雄也	古墳時代の住いとくらし	平成13年8月11日	大分市歴史資料館	66人
ふるさとの歴史再発見「考古」のコース	大分市歴史資料館	別府大学 本川 光子	色村から見た次・食・住	平成13年8月18日	大分市歴史資料館	73人
市民協賛歴史講座「ふるさと字の歴史を学ぶ」	宇佐市教育委員会	宇佐市文化財調査委員 尾崎 利行	「全国にひろがる八幡信仰」と題し講演	平成13年8月18日	宇佐文化会館 小ホール	85人
県民みたび歴史講座	大分市教育委員会	大分市教委 佐藤 典幸	宗廟とその時代	平成13年8月25日	大分市歴史資料館	32人
県民みたび歴史講座	大分市教育委員会	大分市教委 水松 正夫	宗廟の町・回廊貿易都市Panel	平成13年8月25日	大分市歴史資料館	38人
県民みたび歴史講座	大分市教育委員会	大分市教委 尾崎 潤一	宗廟と文化	平成13年8月30日	大分市歴史資料館	35人
県民みたび歴史講座	大分市教育委員会	大分市教委 玉本 光洋	宗廟の飯・城・港	平成13年8月31日	大分市歴史資料館	35人
中農大友再発見フォーラム	大分市教育委員会 中農都市研究会	石井 進 小野 正康	「国史研究部都市の軌跡」 鎌倉時代の能その空間機能	平成13年8月31日 ～9月2日	コンパルホール	1,200人

名 称	主催	開 演	内 容	期 日	会 場	参加人員
ふるさとの歴史再発見 「考古」のコース	大分市歴史資料館	県教育文化課 田中 雅介	考古学からみた日本列島の住居	平成13年9月28日	大分市歴史資料館	75人
ふるさとの歴史再発見 「考古」のコース	大分市歴史資料館	県教育文化課 後藤 一彦	大分の遺跡からみた縄文時代のくらし	平成13年9月15日	大分市歴史資料館	83人
市民環境歴史講座 「ふるさと字位の歴史を説く」	宇佐市教育委員会	市民図書館主任係長 乙津 盛巳	「大内・大友時代の字位」と題し 講演	平成13年9月12日	県府大学 学生教育センター	65人
ふるさとの歴史再発見 「考古」のコース	大分市歴史資料館	長官学 山野 尚志	下役後人の暮らし～平城京の台合～	平成13年9月29日	大分市歴史資料館	76人
月田城（南台城） 築城400年記念講演会	記念事業 実行委員会	赤木春吉役 田本 政宏	城址遺構に関する講演 講演「南台から西へ」	平成13年10月27日 ～10月28日	日田町中央公民館	約350人
軌道廃止後150年記念講演会	記念事業 実行委員会	歴史資料大津市 栗岡 真司	大内様に関する講演 講演「穴太茶石巻みとその心」	平成13年10月27日 ～10月28日	橋本城址	約70人
ふるさとの歴史再発見 「国史」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武富 重彦	江戸時代の秩父藩	平成13年11月16日	大分市歴史資料館	68人
市民環境歴史講座 「ふるさと字位の歴史を説く」	宇佐市教育委員会	宇佐市文化財調査委員 渡辺 進也	「赤尾丹治と百熊一樹」と題し講演	平成13年11月7日	県府大学 学生教育センター	60人
ふるさとの歴史再発見 「国史」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 宮崎 治	お茶とくらし	平成13年11月17日	大分市歴史資料館	63人
教養企画展 講演会	美術史料館	東大史料編纂所教授 五野芳雄史 日本女子大助教授 村井 早苗	「豊後のキリタン教団の遺風と キリスト教転下の難節と特白」と 題し講演	平成13年11月18日	大分県立図書館 祝賀ホール	91人
ふるさとの歴史再発見 「国史」のコース	大分市歴史資料館	美術史料館 小池 寛夫	藤原院再について	平成13年11月24日	大分市歴史資料館	64人
ふるさとの歴史再発見 「国史」のコース	大分市歴史資料館	国史町歴史博物館 金山 啓子	ケブス祭	平成13年12月1日	大分市歴史資料館	68人
子ども先哲記念講座	先哲史料館	先哲史料館 安田 泉子	子ども先哲像を対象に先哲講演 の人物像を話す	平成13年12月1日	佐布市・三倉館	14人
ふるさとの歴史再発見 「国史」のコース	大分市歴史資料館	大分県立歴史博物館 野野 剛宏	少し日の道具たち	平成13年12月8日	大分市歴史資料館	63人
市民環境歴史講座 「ふるさと字位の歴史を説く」	宇佐市教育委員会	宇佐市文化財調査委員 中島 三夫	「宇佐の明治維新」と題し講演	平成13年12月9日	県府大学 学生教育センター	60人
ふるさとの歴史再発見 「国史」のコース	大分市歴史資料館	佐賀県立博物館 山崎 和文	朝明閣から生まれた文化	平成13年12月15日	大分市歴史資料館	77人
市民環境歴史講座 「ふるさと字位の歴史を説く」	宇佐市教育委員会	県府大学教授 村上 雄雄	「御用旗本の系譜」と題し講演	平成14年1月12日	宇佐市文化館 小ホール	75人
ふるさとの歴史再発見 「古文書」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武富 重彦	中世文書を読む	平成14年1月12日	大分市歴史資料館	85人
ふるさとの歴史再発見 「古文書」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武富 重彦	近世文書を読む	平成14年1月18日	大分市歴史資料館	84人
ふるさとの歴史再発見 「古文書」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武富 重彦	近世文書を読む	平成14年1月28日	大分市歴史資料館	86人
ふるさとの歴史再発見 「古文書」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武富 重彦	近世文書を読む	平成14年2月9日	大分市歴史資料館	74人
町誌研究講座	庄内町教育委員会	町誌 文雄	村々を歩ぶ道（道の役割について）	平成14年2月14日	庄内町中央公民館	40人
ふるさとの歴史再発見 「古文書」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武富 重彦	近世文書を読む	平成14年2月16日	大分市歴史資料館	76人
史料講座 応用編	先哲史料館	赤崎 豊樹哉	解説演習、史料整理 保存実習	平成14年2月27日 ～2月28日	大分県立図書館 新館5階	83人
ふるさとの歴史再発見 「古文書」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武富 重彦	近世文書を読む	平成14年3月12日	大分市歴史資料館	71人
ふるさとの歴史再発見 「古文書」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武富 重彦	近世文書を読む	平成14年3月19日	大分市歴史資料館	71人
史料講座	先哲史料館	先哲史料館職員	大友晴高・大友宗室など内田昌 の先人の人物について話す	3月～2月の 隔土曜日	県立図書館新館 5階	282人
日田城（南台城） 築城400年記念文化講演会	日田町教育委員会	二本 龍一	月田前代藩士「水下雄策」に 関する講演	平成14年3月9日	日田町中央公民館	約250人
ふるさとの歴史再発見 「古文書」のコース	大分市歴史資料館	大分市歴史資料館 武富 重彦	近世文書を読む	平成14年3月16日	大分市歴史資料館	76人

研 修

名 称	主 催	場 所	内 容	期 日	参加人数
日田政埠地区文化財調査委員研修会	日田旅行事務所	前津江村	文化財調査委員と担当者の資質の向上を目的とする。	平成13年10月30日	80人
小学4年年文化財探訪	上津江村教育委員会	村内指定文化財	上津江の文化を知ってもらうために文化財調査員を講師にし、説明。	平成13年10月下旬	上津江村 小学校4年生
宇佐市歴史探訪	宇佐市教育委員会	宇佐市内	史跡や文化財の学習を促すため、バスにて探訪した。	平成13年12月11日	45人
初任者研修会（小学校）	大分県教育委員会	文化課文化財資料室	「文化財からのメッセージ」と題し、文化財の保存と活用や発掘体験を実施	平成13年 5月31日	45人
初任者研修会（中学校）	大分県教育委員会	文化課文化財資料室	「文化財からのメッセージ」と題し、文化財の保存と活用や発掘体験を実施	平成13年10月 4日	36人
初任者研修会（私立学校）	大分県教育委員会	文化課文化財資料室	「文化財からのメッセージ」と題し、文化財の保存と活用や発掘体験を実施	平成13年10月11日	47人
大分県文化財担当若手養成研修会	大分県教育委員会	文化課文化財資料室	文化財に関する誤手続その他についての研修	平成13年 6月 7日 6月 8日	63人
同僚関係部局長若手養成文化財研修会	大分県教育委員会	文化課文化財資料室	歴史文化財に関する誤手続その他についての研修	平成13年 6月12日	65人

行事・イベント

名 称	主 催	場 所	内 容	期 日	参加人数
帆足萬里忌慰祭	帆足萬里忌同好会	日田町	豊後二賢の一人「帆足萬里」の無事滅亡を悼ひ命日に実施	平成13年6月14日	約50人

VIII. 2001年度（平成13年度）埋蔵文化財関係文献一覧

A 県教育委員会

- ・ 栗原真編『大分県文化財年報』10 平成12（2000）年度版2002-3
- ・ 宮内克己『仏原千人塚古墳』（大分県文化財調査報告書131・久住町文化財調査報告10）2002-3
- ・ 友岡信彦・後藤一重ほか『利光遺跡』（大分県文化財調査報告書132）2002-3
- ・ 綿貫俊一『鶴崎御茶屋跡』（大分県文化財調査報告書133）2002-3
- ・ 綿貫俊一『宇野遺跡』（大分県文化財調査報告書134）2002-3
- ・ 綿貫俊一・五十川雄也編『毛井遺跡B地区』（大分県文化財調査報告書135）2002-3
- ・ 綿貫俊一編『F口遺跡』（大分県文化財調査報告書136）2002-3
芦刈政治『白幡藩岩戸口屋敷所について』p28～34
- ・ 小林昭彦・小柳和宏ほか『東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書3 尾崎遺跡 清水遺跡 新田遺跡 川野遺跡
久木小野遺跡 平岩遺跡』（大分県文化財調査報告書137）2002-3
旧崎崎之『大野川下流域における水田開発の動向—大分市清水遺跡の埋設水田の検討を通じて—』p163～177
- ・ 栗田勝弘・藤内孝竹『西王寺遺跡 毛見所遺跡 上久所遺跡 浄土寺遺跡』（大分県文化財調査報告書138）2002-3
- ・ 栗原真・古川寛『弥内郎遺跡・王子遺跡』（大分県文化財調査報告書140）2002-3
- ・ 後藤一重『古庄遺跡』（大分県文化財調査報告書141）2002-3
- ・ 井川泰成『山ノ下遺跡』（大分県文化財調査報告書142）2002-3
- ・ 井川泰成・五十川雄也『清次郎原遺跡・上ノ原稲荷塚古墳』（大分県文化財調査報告書143）2002-3
- ・ 井川泰成『高賀遺跡群』（大分県文化財調査報告書144）2002-3
- ・ 坂本康弘・吉田寛・五十川雄也『東大迫遺跡（B地区）』（大分県文化財調査報告書145）2002-3
- ・ 高橋信武『久保田遺跡』（大分県文化財調査報告書146）2002-3
- ・ 小柳和宏『真那井城山遺跡』（大分県文化財調査報告書147）2002-3
- ・ 三笠野誠・櫻井成昭編『大分の中世城館1 文献史料編1』（大分県文化財調査報告書148）2002-3
- ・ 高橋徹・松本康弘・山本恭弘『日田市高瀬遺跡群の調査4 寺内遺跡 上野第2遺跡』2002-3

B 大分県立歴史博物館

- ・ 『大分県立歴史博物館年報2000』2001-5
- ・ 『おおいだ盛博』10（OMHニュース）2000-2
- ・ 『大分県立歴史博物館研究紀要』3 2002-3
真野和夫『近世柄紙の製作に関する実査』p1～20
山田折伸『蛍光X線分析によるガラス玉の調査』p21～32
- ・ 渡辺文雄編『大塚山寺院遺構確認調査報告書』X（大分県立歴史博物館調査報告書6）2002-3
- ・ 櫻井成昭・平川毅・神野剛宏・渡辺文雄『豊後国安岐藩』3（国東半島荘園村落遺跡群分布調査既報）2002-3

C 市町村教育委員会

- ・ 高崎章子・花崎徹『沖代地区糸原勝原田地区 大悟法地区糸原勝原田地区 中津城本丸南西石垣』（中津市文化財調査報告27）中津市教育委員会 2002-3
- ・ 河野典之・岩男真吾・永田裕久・遠藤慎『仏田丸塚2号』（豊後高田市文化財調査報告8）豊後高田市教育委員会 2001-6
- ・ 上角智希『須在木遺跡』香々地町教育委員会 2002-3
- ・ 『大分市歴史資料館ニュース』55 2001-6 大分市歴史資料館
- ・ 『大分市歴史資料館ニュース』56 2001-9 大分市歴史資料館

「展示概要—府内周辺出土の陶磁器」 p3

「戦国時代府内町周辺の遺跡」 p4・5

- ・大分市教育委員会文化財課編『南広州市・豊後府内』(第9回中世都市研究会資料) 大分市教育委員会・中世都市研究会 2001-9
- ・後藤典幸・荻幸二編『玉沢地区糸甲跡第2次発掘調査報告書』大分市教育委員会 2002-3
- ・阿南祐久・中尾節司『田向第3遺跡』(日出町文化財報告書3) 日出町教育委員会 2002-3
- ・諸岡部『三重地区遺跡群発掘調査概報』VI 三重町教育委員会 2002-3
- ・後藤幹彦『郡山南遺跡』(大野地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ) 大野町教育委員会 2002-3
- ・渡邊隆行編『平成12年度(2000年度)日田市埋蔵文化財年報』2001-10
- ・行時志郎『日田糸甲上手地区Ⅲ 高瀬糸甲永平寺地区 尾部田遺跡』日田市教育委員会 2001-12
- ・渡邊隆行・古川博嗣『内ノ下遺跡 大行司遺跡』(日田市埋蔵文化財調査報告書33) 日田市教育委員会 2002-3
- ・若杉竜太『後迫遺跡』(日田市埋蔵文化財調査報告書35) 日田市教育委員会 2002-3
- ・行時志郎『高瀬糸甲深野田地区』(日田市埋蔵文化財調査報告書36) 日田市教育委員会 2002-3
- ・渡邊隆行『今泉遺跡』(日田市埋蔵文化財調査報告書37) 日田市教育委員会 2002-3
- ・今川秀樹編『塚田の遺跡(本文編)』(大瀬町埋蔵文化財発掘調査報告書6) 2002-3
- ・宮内克己『小城原遺跡・中原遺跡』久住町教育委員会・大分県教育委員会 2002-3
田中良之・舟橋京子・石川健「中原遺跡出土の土人骨について」p199~202
- ・標原幸徳『上城遺跡』久住町教育委員会 2002-3
- ・標原幸徳『中殿遺跡』久住町教育委員会 2002-3

D 市町村史等

- ・緒方町立歴史民俗資料館・緒方町誌編集室編『緒方町誌』総論編 緒方町 2001-8
橋 昌信「旧石器を用いた祖先」『縄文農耕と大石遺跡』P165~184
渋谷忠章「畑作から稲作へ」『古墳時代の緒方』P184~198
後藤栄一「景観にさぐる緒方盆地」P281~291
王永光洋「緒方正地域の中世城館」P291~311
坂本富弘「中世の墓制と千人塚遺跡」P312~322
王永光洋「緒方のやきもの」P419~439

F 別府大学関係

- ・『別府大学付属博物館だより』41 別府大学付属博物館 1996-7
- ・『別府大学紀要』39 1997-12
- ・岡本美実 竹下博子 原田真輝子 前田奈緒 丸山佳世 安井由加梨「竊方後門墳の編年に関する試案」(考古人類学研究室報告) 別府大学文学部考古人類研究室 2002-1

G 県内雑誌等

- ・『FRONTIER』3 海部考古学研究会 2001-8
北條芳隆「伝説塚古墳出土銅形石の復元」P1~6
高橋徹「鏡福年試論Ⅱ—半円方形帯鏡について(1)~」P7~9
梅木謙一「遺後平野における豊後系弥生土器Ⅰ」P10~12
大坪芳典「南に中岳式土器あり」P13~17
遠部 慎「緒方町大字馬背字土出土の石柁」P18~22
荻 幸二「縄文時代早期の大分平野出土の礫器に関する一考察」P23~33

- 藤原俊一「早水台遺跡下層石器群は旧石器時代中期に遡るか」P34~38
- ・『大分・大友土器研究会論集』大分・大友土器研究会 2001-9
 - 中島恒次郎「太宰府における土師器の変遷」p1~9
 - 林 潤也・中西武尚・今川しのぶ「豊後における部城系土師器について」p10~25
 - 神田高士「臼杵前期土器の再検討―その1、野村台遺跡出土遺物を検討する―」p26~47
 - 小野貴史「屋敷の規模からみた大友氏家臣団の階級」p48~78
 - 木村幾多郎「豊後府内城下町移転と旧府内町」p79~97
 - 大野康弘「府内城・城下町の曲輪間段差とその意義について」p98~120
 - 坪根伸也・塩地潤一「豊後国の土器編年」p121~153
 - 佐藤浩司「豊前金奈型器考」p154~157
 - 高橋 徹「98年エジプト・アクリス遺跡調査について」p158~159
 - 小野貴史「大友氏における『式三線』について」p168~171
 - 上野淳也「大分県下出土の朝鮮産陶磁器」p172~182
 - ・『大分地質学会誌』7 大分地質学会 2001-11
 - 帆田晃一「欧米における鉱山考古学の発展について」p1~30
 - ・『大分県地方史』183 2001-1 大分県地方史研究会
 - 栗田勝弘「壺嶺洞穴の真相―ねつ造された疑惑―」p53~58
 - ・『大分県地方史』184 2001-2 大分県地方史研究会
 - 原田昭一「墓にみる中世から近世―豊前・豊後における近世墓のはじまり―」p1~22
 - 吉田 寛「大分県下における近世墓地発掘調査の成果と課題―大分市域の近世墓地調査事例を中心に―」p23~40
 - 田中裕介「大分県における近世墓地発掘調査の成果と課題―最近20年間の考古学的研究を中心に―」p41~66
 - ・『おおいた考古』12 1999-12 大分県考古学会
 - ・『大分県文化財保存協議会報』15 大分県文化財保存協議会 1997-4
 - ・『三毛の文化』27 1997-6 中津地方文化財協議会
 - ・『玖珠郡史談』39 1997-6 玖珠郡史談会
 - ・『別府史談』12 1998-12 別府史談会
 - ・『郷土文化誌NIHOU』8 1997-7
 - ・『古代朝鮮文化を考える』12 古代朝鮮文化を考える会 1997-12
 - ・『豊日史学』218~220 豊日史学会 1999-3
 - ・『二豊の石造美術』19 大分県石造美術研究会 1999-3
 - ・『臼杵史談』86 臼杵史談会 1995-12
 - ・『Fragments』創刊号 1998-3 『Fragments』刊行会

H 九州内雑誌等

- ・『九前研通信』7 九州前方後円墳研究会 2001-4
 - 諸岡 郁「三重町遺ノ上古墳の調査について」P11~12
- ・『歴史九州』127 (5月号) 九州歴史大学講座 2001-4
 - 坪根伸也「古の豊後大分を訪ねて2―大分平野の弥生時代②―」P22~25
- ・『九州の横穴墓と地下式横穴墓』(第4回九州前方後円墳研究会資料) 九州前方後円墳研究会 2001-5
 - 田代健二「豊前地方の横穴墓について」第1分冊P559~565
 - 池邊千太郎「豊後地域における横穴墓の様相」第1分冊P567~584
 - 「豊後(大分県)の横穴墓」第2分冊P433~658

- 『豊前（大分県）の横穴墓』第II分冊P658～765
- ・『歴史九州』128(6月号)九州歴史大学講座 2001-5
坪根伸也「古の豊後大分を訪ねて3—大分川下流域の古墳群—」P21～25
- ・『九州考古学』75九州考古学会 2001-6
賀川光夫「大分県の考古学」P83～113
- ・『歴史九州』129(7月号)九州歴史大学講座 2001-6
後藤宗俊「古代の郡衙と太宰府の地方支配」P2～7
坪根伸也「古の豊後大分を訪ねて4—豊後国府とその周辺—」P22～25
- ・『歴史九州』130(8月号)九州歴史大学講座 2001-7
玉木剛史「西の豊後大分を訪ねて5—大分県国東町安国寺集落遺跡を訪ねて—」P10～17
坪根伸也「古の豊後大分を訪ねて5—大分郡衙とその周辺—」P23～27
- ・『九前研通信』8九州前方後円墳研究会 2001-8
田中裕介「第4回九州前方後円墳研究会参加の記」P2～4
- ・『第4回西海道古代官衙研究会発表資料集』西海道古代官衙研究会 2001-8
藤本啓二・田中裕介「旧豊後国における平成12年度の主要な調査・研究の成果について」P96～109
- ・『歴史九州』132(10月号)九州歴史大学講座 2001-9
坪根伸也「古の豊後大分を訪ねて6—大分平野奈良時代の喧嘩—」P20～23
- ・『九州の縄文墓制』（第12回九州縄文研究会長崎県島原大会資料）九州縄文研究会 2002-3
堀地潤一「大分市横尾貝塚出土の埋葬遺構」p6～7
坂本嘉弘「九州の縄文墓制」p8～9
坂本嘉弘「大分県の縄文墓制研究の概要」p263～282
- ・『九州土器研究会誌』6九州土器研究会 1997-4
- ・『地域相研究』25地域相研究会 1997-3
- ・『古文化談叢』40九州古文化研究会 1998-3

1 九州外の雑誌等

- ・『考古学ジャーナル』472ニューサイエンス社 2001-4
江坂輝弥「堤友賀川光夫君の業績を偲ぶ」P34
西川杏太郎「臼杵磨崖仏保存の大風柱」P34
三輪嘉六「ビルマでの賀川先生」P35
高宮廣衛「賀川光夫先生を悼む」P35
- ・『日本歴史』635吉川弘文館 2001-4
薄老澤寛「広城水田遺跡調査の軌跡—国東半島における二十年—」P91～99
- ・『古代古墳』23古代古墳研究会 2001-4
遠藤 慎「黄島貝塚の焼成前穿孔土器」P6～10
- ・『明日への文化財』46文化財保存全国協議会 2001-5
金田信子「安国寺集落遺跡の保存と活用」P32～37
真野和夫「川部・高森古墳群の歴史的意義」P38～43
小倉正五「史跡としての戦争遺跡」P44～49
後藤宗俊「大分県における環境と文化遺産の保存」P50～59
- ・『日本考古学年報』1999年度版日本考古学協会 2001-5
藤貫俊一「大分県」P298～302

- ・『動物考古学』16 動物考古学会 2001-5
 関野泰一「上器に残された痕跡について」p123～130
- ・『考古学ジャーナル』478 ニューサイエンス社 2001-9
 清水宗昭「考古学の志向するもの」P1
 栗田勝弘「聖徳洞穴の疑惑と真相—春成秀爾編「大分県聖徳洞窟の発掘調査」批判—」P32～35
- ・『古代文化』53-11 古代学協会 2001-11
 清水宗昭「(追悼) 栗川光夫先生を悼む」P58～60
 小川秀樹「豊前中津城石垣にみえる神護石石材について」

補 遺

- ・佐藤良二郎・川谷浩・江藤和幸『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』X I 宇佐市教育委員会 1999-3
- ・佐伯治『史跡岡城跡』XIV 竹田市教育委員会 1999-3
- ・花崎徹『定置漁跡出願地区 台遺跡』1999年度中津地区遺跡群発掘調査概報X II (中津市文化財調査報告24)
 中津市教育委員会 2000-3
- ・佐藤良二郎・川谷浩・江藤和幸『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』X II 宇佐市教育委員会 2000-3
- ・佐伯治『史跡岡城跡』XV 竹田市教育委員会 2000-3
- ・城戸誠編『菅尾台地と周辺の遺跡XVI 西園南遺跡』竹田市教育委員会 2000-3
- ・真田博幸『竹田地区遺跡群 城下町遺跡群Ⅲ』竹田市教育委員会 2000-3
- ・城戸誠『下石家原遺跡 下石家東足輕屋敷跡』竹田市教育委員会 2000-3
- ・城戸誠『中川午之助屋敷群 久戸谷近世墓地群』(一般国道502号改良工事埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ) 竹田市教育委員会 2000-3
- ・真田博幸『平井B遺跡』竹田市教育委員会 2000-11
- ・松本啓子編『道屋条里遺跡』(安岐町文化財調査報告書9) 安岐町教育委員会 2001-3
- ・佐伯治『史跡岡城跡』XVI 竹田市教育委員会 2001-3
- ・城戸誠『市道岡城線埋蔵文化財発掘調査報告書』竹田市教育委員会 2001-3
- ・佐伯治『難波原遺跡』竹田市教育委員会 2001-3
- ・真田博幸『片ヶ瀬遺跡』竹田市教育委員会 2001-3
- ・真田博幸『竹田地区遺跡群』竹田市教育委員会 2001-3

大分県文化財年報11 平成13(2001)年度版

平成15年3月31日発行

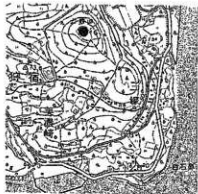
編集・発行者 大分県教育庁文化課
〒870-8503 大分市府内町3-10-1
TEL 097(536)1111(内)5501

印刷所 日新印刷株式会社

正誤表

p. 44 小畑山古墳 遺跡の位置

(誤)



(正)

